豊中市埋蔵文化財発掘調査概要

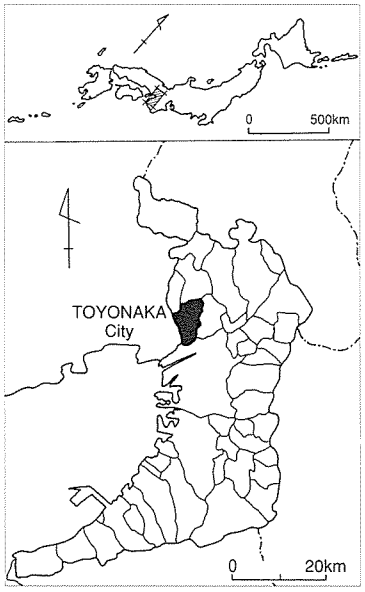
平成21年度(2009年度)

平成22年(2010年)3月

豊中市教育委員会

豊中市埋蔵文化財発掘調査概要

平成２１年度（２００９年度）



平成２２年（２０１０年）３月

豊中市教育委員会

序　　文

豊中市は大阪府の北西部に位置し、西は兵庫県と接しています。北方の千里丘陵にかつて広大な森林をひかえたこの地は、神崎川や猪名川から常に豊かな水がもたらされ、古くから人々の生活の場が育まれ、多くの歴史的遺産を受け継いできました。その一方、商都大阪に隣接する関係などから、早くから大阪北郊のベッドタウンとしての開発が進められてきた結果、すみやかに埋蔵文化財の保護に取り組む必要がありました。近年になって開発の勢いが落ち着いてきたものの、土地利用の形態が変化してきたことを受けて小規模開発が急増し、住宅の老朽化に伴う建て替えも依然として多く、埋蔵文化財保護について迅速な対応が求められています。

本書は郷土の文化財としての埋蔵文化財の重要性を踏まえ、国の補助を受けて実施した緊急発掘調査の概要報告です。今回は、平成21年度に調査を実施した豊島北遺跡、本町遺跡、山ノ上遺跡、蛍池西遺跡、内田遺跡、および市内各遺跡における確認調査に加え、平成20年度後期に調査を実施した新免遺跡、市内各遺跡における確認調査の成果もあわせて掲載しました。豊島北遺跡では市内では事例が少ない古代末期の遺構ならびに遺物を確認することができ、内田遺跡では遺跡東半部において新たに中世の集落関連遺構が発見され、新免遺跡では弥生時代、古墳時代の住居跡や柱穴が密集した状態で確認されるなど、各遺跡で新たな知見が得られました。

永きにわたって受け継がれてきた貴重な歴史的遺産は、現代に暮らす私達にとっても大切な知識をもたらしてくれます。本書が、郷土豊中の豊かな未来のために役立つことを願ってやみません。

発掘調査の実施にあたっては、土地所有者をはじめ工事関係者、近隣住民の皆様などに深いご理解と多大なご協力を賜りました。また、文化庁、大阪府教育委員会ならびに関係諸機関には、格別のご指導とご配慮をいただきました。このような各方面の方々のお力添えにより、豊中の文化財保護行政が推進できましたことをここに厚く感謝いたしますとともに、今後ともより一層のご理解とご支援をお願い申し上げる次第です。

平成２２年（２０１０年）３月３１日

豊中市教育委員会
教育長　山元行博

例　　言

1．本書は、平成21年度国庫補助事業（総額8,700,000円、国庫50％、市費50％）として計画、実施した埋蔵文化財の緊急発掘調査の概要報告書である。また、平成20年度下半期国庫補助事業として実施した、新免遺跡第62次調査と確認調査の成果も併せて収録するものである。

2．平成21年度事業として、平成21年４月２日から平成22年３月31日までの間、発掘調査ならびに整理作業を実施した。

3．発掘調査は、本市教育委員会 生涯学習推進室 地域教育振興課 文化財保護係が実施した。

4．本書の作成にあたり、Ⅰ～Ⅶ章は各調査担当者が執筆した。また、第Ⅷ章は各調査担当者の見解をもとに、浅田が執筆した。なお、全体の編集を陣内が行なった。

5．各挿図に掲載した方位表記のうち、M.N.は磁北、Nは座標北を、また表記のないものは、略北を示す。

6．挿図・本文中の土色表記の基準は、農林水産省農林水産技術会議事務局 監修・財団法人日本色彩研究所 色票監修『新版標準土色帖 1994年版』に基づく。

7．挿図に掲載した出土遺物の縮尺は原則として１：４、または１：３とする。

8．各調査地の土地所有者、施工業者ならびに近隣住民の方々には、文化財の保護に対して深いご理解とご協力をいただいた。併せてここに明記し、深謝いたします。

平成20年度（平成20年12月以降）発掘調査一覧

遺跡名	次数	調査地	調査面積	担当者	調査期間
新免遺跡	第62次	玉井町3丁目35－1	55.74㎡	陣内高志	2008年12月16日～2009年1月31日

平成21年度発掘調査一覧

遺跡名	次数	調査地	調査面積	担当者	調査期間
豊島北遺跡	第５次	曽根南町1丁目156－9他	66㎡	清水　篤	2009年4月2日～2009年4月27日
本町遺跡	第36次	本町４丁目166－4	39㎡	服部聡志	2009年4月13日～2009年4月28日
山ノ上遺跡	第19次	宝山町42－1の一部	40㎡	橋田正徳	2009年5月18日～2009年5月29日
蛍池西遺跡	第17次	蛍池西町1丁目269	220㎡	橋田正徳	2009年7月6日～2009年7月24日
内田遺跡	第９次	桜の町3丁目26－1	28㎡	陣内高志	2009年9月1日～2009年9月10日

目　　次

第Ⅰ章　位置と環境　（陣内）
1．地理的環境 …… 1
2．歴史的環境 …… 1
第Ⅱ章　新免遺跡第62次調査　（陣内）
1．調査の経緯 …… 5
2．調査の概要 …… 6
（1）遺跡の概要と既往の調査 …… 6
（2）基本層序 …… 6
（3）検出した遺構と遺物 …… 6
3．まとめ …… 11
第Ⅲ章　豊島北遺跡第５次調査　（清水）
1．調査の経緯 …… 13
2．調査の概要 …… 13
（1）基本層序 …… 13
（2）検出した遺構 …… 15
（3）出土遺物 …… 15
3．まとめ …… 20
第Ⅳ章　本町遺跡第36次調査　（服部）
1．調査の経緯 …… 21
2．調査の概要 …… 21
（1）基本層序 …… 21
（2）検出遺構 …… 22
第Ⅴ章　山ノ上遺跡第19次調査　（橘田）
1．調査の経緯 …… 23
2．調査の概要 …… 23
（1）基本層序 …… 23
（2）検出した遺構 …… 24
3．まとめ …… 25
第Ⅵ章　蛍池西遺跡第17次調査　（橘田）
1．調査の経緯 …… 27
2．調査の概要 …… 29
（1）基本層序 …… 29
（2）検出した遺構 …… 29
3．まとめ …… 30
第Ⅶ章　内田遺跡第９次調査　（陣内）
1．調査の経緯 …… 31
2．調査の概要 …… 32
（1）遺跡の概要 …… 32
（2）基本層序 …… 32
（3）検出した遺構 …… 32
（4）出土遺物 …… 34
3．まとめ …… 35
第Ⅷ章　確認調査の成果　（浅田）
確認調査の概要 …… 37

挿　図　・　表　目　次

（第Ⅰ章　位置と環境）
第１図　市内遺跡分布図 …… 2
第２図　調査地点と周辺の地形 …… 4

（第Ⅱ章　新免遺跡第62次調査）
第３図　調査範囲図（１：200） …… 5
第４図　調査地位置図（１：5,000） …… 5
第５図　調査区平面・断面図（１：60） …… 7
第６図　ピット１土器出土状況図（１：10） …… 8
第７図　ピット２土器出土状況図（１：10） …… 8
第８図　出土遺物１（１：４） …… 9
第９図　出土遺物２（１：４※１は２：３） …… 10

（第Ⅲ章　豊島北遺跡第５次調査）
第10図　調査範囲図（１：200） …… 13
第11図　調査地位置図（１：5,000） …… 13
第12図　調査区平面・断面図（１：50） …… 14
第13図　出土遺物１（１：３） …… 15
第14図　出土遺物２（※１～９は１：３、10は１：２、11は１：４） …… 16
第15図　出土遺物３（※１～19は１：３、20～23は１：４） …… 17

（第Ⅳ章　本町遺跡第36次）
第16図　調査範囲図（１：300） …… 21
第17図　調査地位置図（１：5,000） …… 21
第18図　調査区平面・断面図（１：70） …… 22

（第Ⅴ章　山ノ上遺跡第19次調査）
第19図　調査範囲図（１：200） …… 23
第20図　調査地位置図（１：5,000） …… 23
第21図　調査区平面・断面図（１：50） …… 24
第22図　柱穴列１平面・断面図（１：40） …… 25

（第Ⅵ章　蛍池西遺跡第17次調査）
第23図　調査範囲図（１：500） …… 27
第24図　調査地位置図（１：5,000） …… 27
第25図　調査区平面・断面図（１：100） …… 28
第26図　溝１断面図（１：20） …… 29

（第Ⅶ章　内田遺跡第９次調査）
第27図　調査範囲図（１：250） …… 31
第28図　調査地位置図（１：5,000） …… 31
第29図　調査区平面・断面図（１：40） …… 33

第30図　溝１平面・断面図（１：30）……34
第31図　出土遺物（１：３）……35

（第Ⅷ章　確認調査の成果）
第１表　確認調査一覧表……37
第32図　確認調査地点位置図……39
第33図　トレンチ掘削状況……40
第34図　トレンチ断面図……40
第35図　トレンチ掘削状況……40
第36図　トレンチ断面図……40
第37図　トレンチ掘削状況……40
第38図　トレンチ断面図……40
第39図　トレンチ掘削状況……40
第40図　トレンチ断面図……40
第41図　トレンチ掘削状況……41
第42図　トレンチ断面図……41
第43図　トレンチ掘削状況……41
第44図　トレンチ断面図……41
第45図　トレンチ掘削状況……41
第46図　トレンチ平面・断面図……41
第47図　トレンチ掘削状況……41
第48図　トレンチ断面図……41
第49図　トレンチ掘削状況……42
第50図　トレンチ平面・断面図……42
第51図　トレンチ掘削状況……42
第52図　トレンチ平面・断面図……42
第53図　トレンチ掘削状況……42
第54図　トレンチ平面・断面図……42
第55図　トレンチ掘削状況……42
第56図　トレンチ断面図……42
第57図　トレンチ掘削状況……43
第58図　トレンチ平面・断面図……43
第59図　トレンチ配置図……43
第60図　トレンチ断面図……43
第61図　トレンチ掘削状況……43
第62図　トレンチ断面図……43
第63図　トレンチ掘削状況……43
第64図　トレンチ断面図……43
第65図　トレンチ掘削状況……44
第66図　トレンチ断面図……44
第67図　トレンチ掘削状況……44
第68図　トレンチ平面・断面図……44
第69図　トレンチ掘削状況……44
第70図　トレンチ断面図……44
第71図　トレンチ掘削状況……44
第72図　トレンチ断面図……44

第73図　トレンチ掘削状況 ・・・45
第74図　トレンチ断面図 ・・・45
第75図　トレンチ掘削状況 ・・・45
第76図　トレンチ断面図 ・・・45
第77図　トレンチ掘削状況 ・・・45
第78図　トレンチ断面図 ・・・45
第79図　トレンチ掘削状況 ・・・45
第80図　トレンチ断面図 ・・・45
第81図　トレンチ掘削状況 ・・・46
第82図　トレンチ断面図 ・・・46
第83図　トレンチ掘削状況 ・・・46
第84図　トレンチ断面図 ・・・46
第85図　トレンチ掘削状況 ・・・46
第86図　トレンチ断面図 ・・・46
第87図　トレンチ掘削状況 ・・・46
第88図　トレンチ平面・断面図 ・・46
第89図　トレンチ掘削状況 ・・・47
第90図　トレンチ断面図 ・・・47
第91図　トレンチ掘削状況 ・・・47
第92図　トレンチ断面図 ・・・47
第93図　トレンチ掘削状況 ・・・47
第94図　トレンチ断面図 ・・・47
第95図　トレンチ掘削状況 ・・・47
第96図　トレンチ断面図 ・・・47
第97図　トレンチ掘削状況 ・・・48
第98図　トレンチ平面・断面図 ・・48
第99図　トレンチ掘削状況・・・48
第100図　トレンチ断面図 ・・・48
第101図　トレンチ掘削状況 ・・・48
第102図　トレンチ断面図 ・・・48
第103図　トレンチ掘削状況 ・・・48
第104図　トレンチ平面・断面図 ・・48
第105図　トレンチ掘削状況 ・・・49
第106図　トレンチ断面図 ・・・49
第107図　トレンチ掘削状況 ・・・49
第108図　トレンチ断面図 ・・・49
第109図　トレンチ掘削状況 ・・・49
第110図　トレンチ断面図 ・・・49
第111図　トレンチ掘削状況 ・・・49
第112図　トレンチ断面図 ・・・49
第113図　トレンチ掘削状況 ・・・50
第114図　トレンチ断面図 ・・・50
第115図　トレンチ掘削状況 ・・・50
第116図　トレンチ平面・断面図 ・・50
第117図　トレンチ掘削状況 ・・・50

第118図　トレンチ断面図 …… 50
第119図　トレンチ掘削状況……50
第120図　トレンチ断面図 …… 50
第121図　トレンチ掘削状況 …… 51
第122図　トレンチ断面図 ……51
第123図　トレンチ掘削状況 …… 51
第124図　トレンチ断面図 …… 51
第125図　トレンチ掘削状況 …… 51
第126図　トレンチ断面図 ……51
第127図　トレンチ掘削状況 …… 51
第128図　トレンチ断面図 …… 51
第129図　トレンチ掘削状況……52
第130図　トレンチ断面図 …… 52
第131図　トレンチ配置図 …… 52
第132図　トレンチ平面・断面図 ……52
第133図　調査範囲図（１：500） ……53
第134図　調査位置図（１：5,000） …… 53
第135図　１区掘削状況（北から） …… 53
第136図　麻田藩陣屋（小谷英一氏所蔵）（１：2,000） ……54

図　版　目　次

図版１　新免遺跡第62次調査
（１）調査区北半部（南から）
（２）調査区南半部（東から）

図版２　新免遺跡第62次調査
（１）竪穴住居１・２完掘状況（北西から）
（２）土坑２断面（北から）

図版３　新免遺跡第62次調査
（１）ピット１土器出土状況（北から）
（２）ピット２土器出土状況（東から）

図版４　豊島北遺跡第５次調査
（１）調査区北半部全景（東から）
（２）溝１断面（西から）

図版５　豊島北遺跡第５次調査
（１）井戸１断面（南から）
（２）包含層遺物出土状況（南から）

図版６　本町遺跡第36次調査
（１）調査区東半部全景（西から）
（２）調査区西半部全景（西から）

図版７　山ノ上遺跡第19次調査
（１）調査区全景（北から）
（２）ＳＰ０２断面

図版８　蛍池西遺跡第17次調査
（１）調査区全景（北から）
（２）溝１（断面１）

図版９　内田遺跡第９次調査
（１）調査区全景（南から）
（２）溝１礫出土状況（北から）

図版10　麻田藩陣屋跡確認調査
（１）第１面（近世以降）東半部全景（東から）
（２）第１面（近世以降）西半部全景（西から）

図版11　麻田藩陣屋跡確認調査
（１）第２・３面東半部全景（東から）
（２）第２・３面西端部全景（西から）

図版12　麻田藩陣屋跡確認調査
（１）藩主邸内堀　検出状況（東から）
（２）土坑１遺物出土状況（第２面　北から）

第Ⅰ章　位置と環境

1．地理的環境

豊中市は大阪市の北方に位置し、西は猪名川を介して兵庫県と接しており、旧国名では摂津国に属する。近世以前は大都市近郊の農村であったが、明治43年の箕面有馬電気軌道（現在の阪急電鉄宝塚線）開通を契機に宅地化が進み、現在では市域面積約37km²中に39万人もの人口を擁する北摂有数の住宅都市に発展している。このような発展に至った背景としては、名神高速道路や阪神高速道路などの自動車道路、阪急電鉄や北大阪急行などの鉄道網、大阪国際空港などに示される陸空交通の利便性の高さが考えられよう。

一方、地形に目を転じると、豊中市は北から南に向かって標高が徐々に低くなる地形をみせており、島熊山（緑丘）付近の最高地点（海抜約100m）から最も低い大島町付近（海抜１m以下）にかけておよそ100mの比高差を有する。ここで地形について大きく区分すると、市北部一帯は千里丘陵と刀根山丘陵と呼ばれる２つの丘陵地からなり、続いて中部は主に千里丘陵から派生する中・低位段丘を中心とした豊中台地、南部は猪名川水系、天竺川、高川の沖積作用によって形成された平野部、という見方ができる。

次章以下で報告する６遺跡のうち、北部では千里川右岸の低位段丘上に内田遺跡、刀根山丘陵末端部上の蛍池西遺跡、中部では豊中台地上に新免遺跡と本町遺跡が、豊中台地から派生する小丘陵地上には山ノ上遺跡が立地する。南部は、曽根の段丘崖直下の沖積地に豊島北遺跡が該当する。

2．歴史的環境

今回報告する遺跡は基本的に集落遺跡である。よって以下では、各遺跡における集落の動態を中心に述べていく。ただし、本町遺跡・新免遺跡・山ノ上遺跡の３遺跡は、立地や遺跡の性格などが比較的類似するため、ここでは３遺跡を一括して取り扱う。

内田遺跡　千里川上流域の河岸段丘上では縄文時代から居住の痕跡が見受けられ、野畑遺跡（中～後期）、野畑春日町遺跡（中～晩期）、内田遺跡（後期）はその代表的な遺跡である。内田遺跡は弥生時代以降、しばらく集落は確認されていないが、６世紀後半（古墳時代後期後半）に突如集落が出現する。この集落は桜井谷窯跡群における須恵器生産に関与した工人の集落とみられ、７世紀初頭、ちょうど桜井谷窯跡群の衰退に同調するかのように廃絶することが明らかになっている。奈良時代以降の動態は不明であったが、第８次調査地において、中世の居館跡などが発見され、内田遺跡に中世集落が展開する可能性が高くなった。今回の調査は中世内田遺跡としては２例目の調査であり、当該時期の様相が徐々に明らかになってきた。

2．歴史的環境

1.太鼓塚古墳群
2.野畑春日町古墳群
3.野畑遺跡
4.野畑春日町遺跡
5.少路遺跡
6.武蔵国岡部藩安部氏桜井谷陣屋跡
7.桜井谷石器散布地
8.羽鷹下池南遺跡
9.待兼山古墳
10.待兼山遺跡
11.内田遺跡
12.柴原遺跡
13.北刀根山遺跡
14.桜井谷窯跡群
15.蛍池北（宮の前）遺跡
16.蛍池東遺跡
17.蛍池西遺跡
18.蛍池遺跡
19.麻田藩陣屋跡
20.南刀根山遺跡
21.御神山古墳
22.上野遺跡
23.青池古墳
24.熊野田遺跡
25.金寺山廃寺
26.新免宮山古墳群
27.金寺山廃寺塔利柱礎石
28.本町遺跡
29.新免遺跡
30.笹輪東遺跡
31.笹輪遺跡
32.山ノ上遺跡
33.勝部北遺跡
34.走井遺跡
35.岡町北遺跡
36.岡町遺跡
37.岡町南遺跡
38.桜塚古墳群
39.下原窯跡群
40.長興寺遺跡
41.梅塚古墳
42.埴輪散布地
43.大坂城鉄砲奉行支配塙硝蔵跡
44.原田西遺跡
45.勝部遺跡
46.勝部東遺跡
47.原田城跡（北城）原田城跡（南城）
48.原田遺跡
49.曽根遺跡
50.曽根東遺跡
51.原田中町遺跡
52.曽根埴輪窯跡
53.豊島北遺跡
54.曽根南遺跡
55.城山遺跡
56.服部遺跡
57.若竹町遺跡
58.石蓮寺遺跡
59.石蓮寺廃寺
60.寺内遺跡
61.利倉北遺跡
62.利倉遺跡
63.利倉南遺跡
64.利倉西遺跡
65.椎堂の前遺跡
66.服部西遺跡
67.穂積遺跡
68.穂積村囲堤
69.小曽根遺跡
70.春日大社南郷目代今西氏屋敷
71.北条遺跡
72.小曽根南遺跡
73.上総国飯野藩保科氏浜陣屋跡
74.上津島川床遺跡
75.上津島遺跡
76.上津島南遺跡
77.穂積ポンプ場遺跡
78.島田遺跡
79.庄内遺跡
80.島江遺跡
81.庄本遺跡

第１図　市内遺跡分布図

蛍池西遺跡　蛍池西遺跡は大阪国際空港の東側一帯に広がる遺跡であり、その時代は旧石器時代、弥生後期～中世に及ぶことが知られている。既往の調査によると、第１次、第２次調査やその後実施された阪神高速空港線関連の調査では、粘土採掘坑や自然河川跡が検出されている。これら自然河川内からは弥生時代終末期と古墳時代中期の遺物がまとまって出土しており、付近に当該期の集落が存在したことが考えられる。古墳時代中期の集落については、大形倉庫群が発見された蛍池東遺跡との関係が課題となってこよう。遺跡北東部に位置する今回の調査地では、これまでほとんど確認されていない古墳時代後期以降の集落関連遺構を検出している。

本町遺跡・新免遺跡・山ノ上遺跡　これら３遺跡はいずれも弥生時代に出現する点で共通するが、その後の展開は遺跡ごとにやや異なっている。豊中市域の弥生遺跡は一般に弥生時代中期以降、次第に低地の母村から台地上に子村が派生していく。千里川流域では低地の勝部遺跡を母村として、その後台地上に新免遺跡などの子村が展開するものとみられる。山ノ上遺跡にやや遅れて中期に誕生する新免遺跡は、弥生中期～後期には複数の居住域と墓域を有する北摂有数の拠点集落として発展し、その規模は山ノ上遺跡を凌駕する。その一方で、新免遺跡に東接する本町遺跡は弥生時代中期段階が集落の初現とみられるが、新免遺跡からの分村程度とみられ、その格差は歴然としている。本町遺跡が本格的な盛期を迎えるのは古墳時代後期からであり、同じ頃の新免遺跡、柴原遺跡も同様に盛期を迎える。当該期におけるこれらの集落遺跡は、桜井谷窯跡群で生産された須恵器の選別作業に携わった可能性が考えられる。今回の本町遺跡の調査では千里川の河岸段丘を間近に控えた遺跡縁辺部の様相をまた一つ明らかにすることができ、新免遺跡では弥生集落の中核部に相当し、多数の柱穴をはじめ濃密な遺構の分布を確認している。山ノ上遺跡では遺跡南半部における古代集落の一端を明らかにした。

豊島北遺跡　曽根の段丘崖裾野に広がる豊島北遺跡は、弥生時代後期～終末期に本格的な集落が出現するが、古墳時代には一旦衰退し、奈良～平安時代に再び集落が営まれるようである。鎌倉時代以降は耕地化が展開したようであるが、なかでも第３次調査で確認された東西方向の畦畔・溝は、摂津国豊島郡の北条と南条の里境に、南北方向の溝は坪境の区画溝とみられ、豊中市域における条里制の施行時期が当該時期には成立していたことが判明した。今後はその成立時期がどこまで遡るかが一つの課題になってこよう。今回の調査地は調査事例が希少な遺跡南西部に位置し、これまで確認されることがなかった平安時代の集落関連遺構を検出し、遺跡の動態を把握する上で貴重な成果をもたらした。

2．歴史的環境

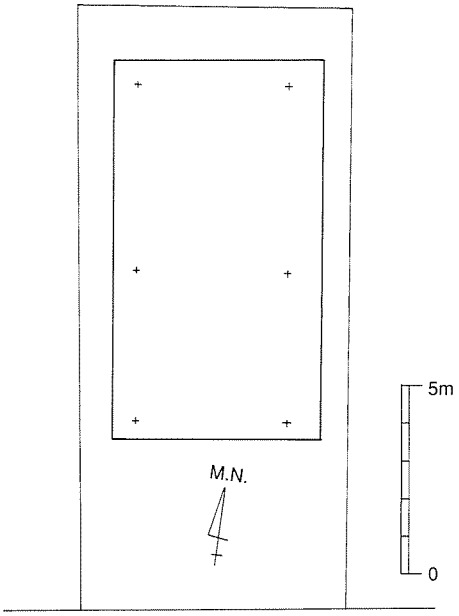
第２図　調査地点と周辺の地形

第Ⅱ章　新免遺跡第62次調査

1．調査の経緯

当調査区は、豊中市玉井町３丁目35－１に所在する。平成19年９月10日に提出された埋蔵文化財発掘の届出に基づいて、平成19年９月12日、宅地造成工事時に確認調査を実施したところ、地表下66cmで弥生時代～古墳時代の遺物包含層を、同じく90cmで遺構面をそれぞれ確認した。当初の建築計画では基礎深度が遺物包含層に到達せず慎重工事の指示であった。ところが、その後土地所有者が代わり、平成20年12月２日に提出された埋蔵文化財発掘の届出では、表層地盤改良を地表下150cmまで実施することが判明し、遺構面の破壊は避けられず、土地所有者側と協議の結果、本発掘調査を実施することになった。

本発掘調査は平成20年12月16日から平成21年１月31日にかけて実施し、調査面積は建築対象面積である55.74㎡であった。



第３図　調査範囲図（１：200）

第４図　調査地位置図（１：5,000）

2． 調査の概要

（1）遺跡の概要と 既往の調査

新免遺跡は阪急宝塚線豊中駅の西～南西一帯の住宅地に広がる集落遺跡であり、東西約600m、南北約300mの規模を有する。これまでに61件の発掘調査が実施され、縄文時代から近世に至る複合遺跡であることが判明している。遺跡の盛期は弥生時代中期～後期、古墳時代後期とみられ、なかでも弥生集落は現在30基以上の竪穴住居と約20基の方形周溝墓を検出しており、市内有数の拠点集落として位置付けられている。しかしながら調査の大半は個人住宅新築工事を契機とするケースであるため調査面積も狭小であり、調査次数の割には環濠の有無など、拠点集落としての実態について不明瞭な点が多い。

今回の調査地は遺跡西部に位置し、千里川の河岸段丘を間近に控えている。調査地一帯は、既往の発掘調査で弥生～古墳時代の遺構・遺物が濃密に密集するエリアであり、特に弥生時代中期については集落中心部と目されている。よって今回の調査では、弥生時代中期を中心に同後期、古墳時代中～後期の集落関連遺構の検出が予想された。

（2）基本層序

今回の調査地における基本層序は４層に大別可能であった。以下、順に記していく。

１層　現代の盛土であり、地表下30～40cmまでが該当する。

２層　にぶい黄橙色（10YR7/3）極細粒砂。宅地化直前段階までの耕作土であり、層厚10～15cmを有する。

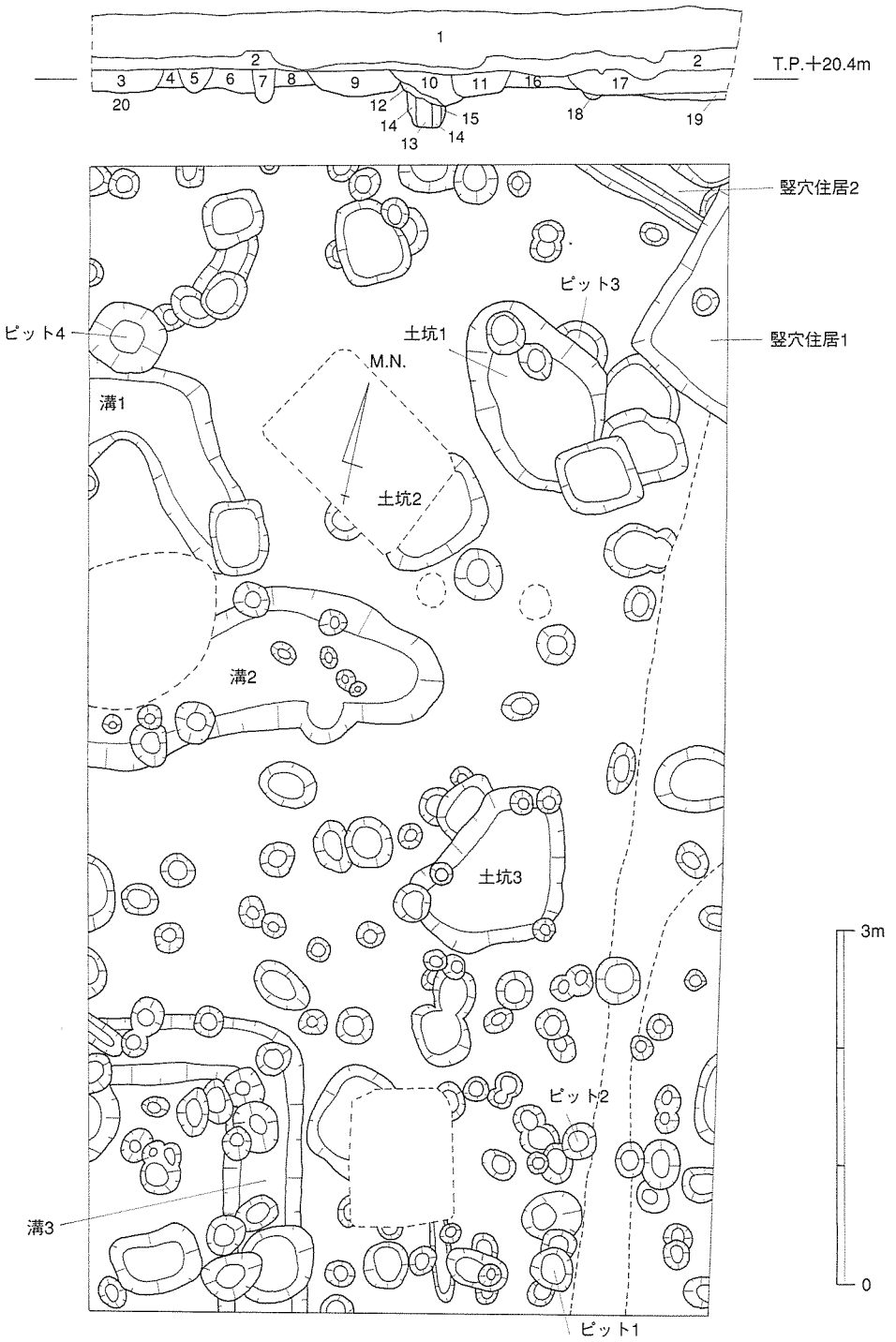
３層　にぶい黄褐色（10YR4/3）極細粒砂～シルト。層厚約10cmを有する弥生土器、土師器、須恵器等の遺物包含層である。検出遺構の一部は３層中から掘り込まれていることから、３層の一部は遺構埋土でもある。弥生時代中期～古墳時代終末期の遺物を含む。

４層　明黄褐色（10YR6/6）シルト。当調査地の基盤層であり、遺構検出面である。遺構埋土とその直上の３層（遺物包含層）の土質が類似しており両者の識別が困難であったことから、今回は基盤層上面において遺構検出作業を行い、調査を実施している。

（3）検出した遺構と遺物

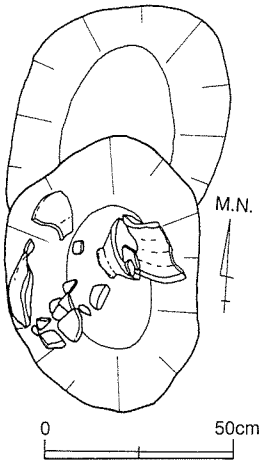
今回の調査では約56㎡という限られた面積にも関わらず、第５図に示す通り、竪穴住居２基、溝３条、土坑３基、ピット150基以上の集落関連遺構を多数検出している。遺構は弥生時代中期に属するものが大半であった。なかでも150基以上検出されたピットはその多くが柱穴であり、その数から相当数の建物跡が存在したと考えられる。しかし、遺物は砕片をわずかに含む程度の柱穴が多く、掘削時期が判明する柱穴は少数であった。

一方、出土遺物は遺物収納箱にして６箱分出土している。出土遺物の内訳は、弥生土器が大

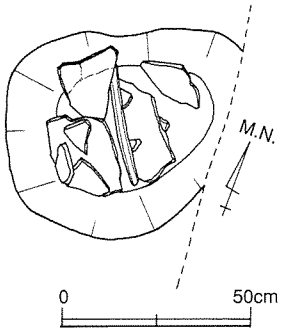


1.現代の盛土　2.にぶい黄橙色(10YR7/3)細粒砂。旧耕作土。炭化物並びに礫(直径1cm以下)を多く含む。　3.黒褐色(10YR3/2)極細粒砂。基盤層ブロック(直径2cm以下)を少量含む。土器砕片を多く含む。弥生時代中期から古墳時代後期の遺物包含層。　4.にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト～極細粒砂。礫(直径3cm未満)を若干含む。　5.褐灰色(10YR4/1)極細粒砂～シルト。基盤層ブロック(直径2cm以下)を約5%含む。土器砕片多数包含。　6.にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト。礫(直径3cm未満)を若干含む。　7.黒褐色(10YR3/2)シルト～極細粒砂。基盤層ブロック(直径2cm以下)、土器砕片を多く含む。　8.にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト～極細粒砂。4とほぼ同じ。　9.褐灰色(10YR4/1)極細粒砂～シルト。基盤層ブロック(直径3cm以下)を約5%、礫(直径2cm以下)を約2%含む。　10.灰黄褐色(10YR4/2)極細粒砂～シルト。基盤層ブロック(直径3cm以下)を約15%含む。　11.灰黄褐色(10YR4/2)極細粒砂～シルト。10と似るが基盤層ブロック少ない(約5%)。　12.灰黄褐色(10YR4/2)極細粒砂。基盤層ブロック(直径2cm未満)を約15%含む。　13.褐灰色(10YR4/1)シルト。基盤層ブロック(直径2cm未満)を約15%含む。　14.褐灰色極細粒砂と基盤層流出土の混合土(4：1)。　15.褐灰色(10YR4/1)極細粒砂。基盤層流出土が多数混入。16.にぶい黄褐色シルト。土器砕片を多数包含。遺物包含層。　17.黒褐色(10YR3/2)シルト～極細粒砂。基盤層ブロック(直径3cm未満)を約10%含む。土器砕片を多数包含。竪穴住居埋土。　18.黒褐色極細粒砂。基盤層ブロック(直径1cm以下)を約10%含む。壁溝埋土。　19.灰黄褐色極細粒砂。17と似るが基盤層ブロックをより多く含み、よりしまっている。　20.明黄褐色(10YR6/6)シルト。当調査区の基盤層。調査区北半部では極細粒砂主体になる。全体的に礫(直径1cm以下)を多く含む。

第５図　調査区平面・断面図（１：60）



第６図　ピット１土器出土状況図（１：10）



第７図　ピット２土器出土状況図（1：10）

半を占め、他に土師器、須恵器が少量ずつ、さらに弥生時代の石器が剥片も含めて10点程度出土している。なお、出土土器は、砕片かつ表面が摩滅したものが中心であったため、図化に耐えうる遺物は第８・９図に掲げている18点であった。以上の経過を踏まえつつ、以下では主要な遺構・遺物についての報告を行う。

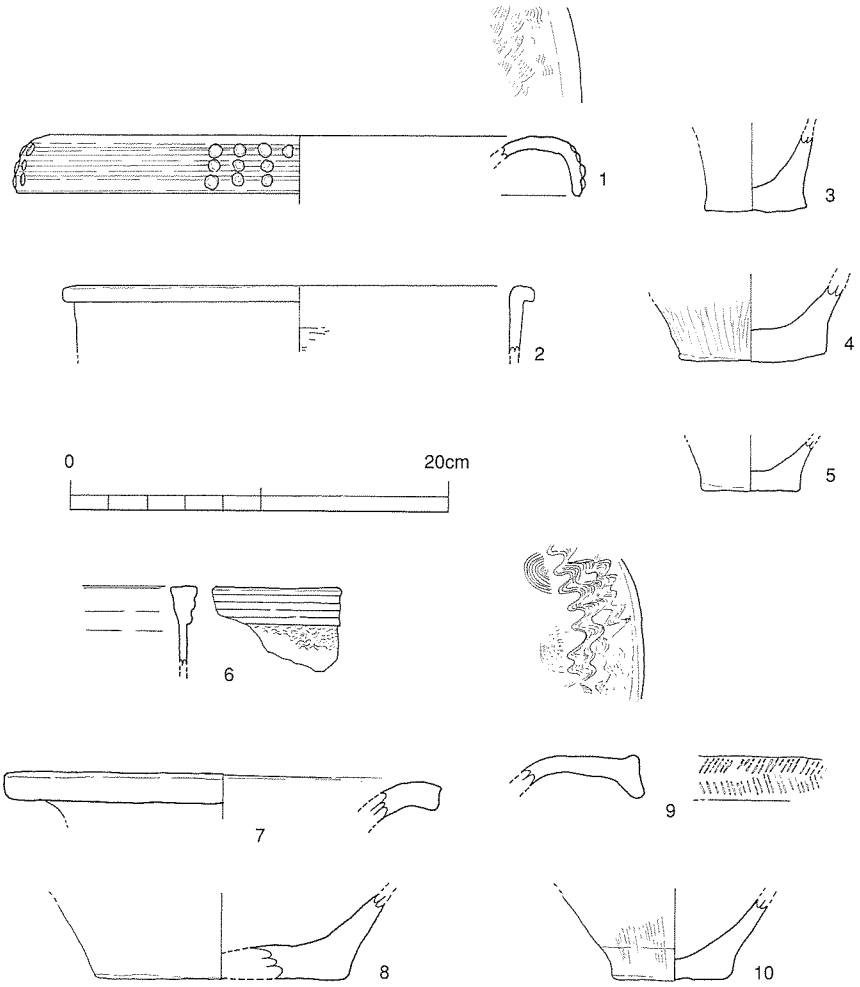
竪穴住居１　調査区北東隅で検出した。コーナー部分の形状をみると、当該住居は平面方形の形状が考えられ、その場合一辺２ｍ以上の規模が考えられる。住居内は検出面から基底面まで15㎝の深度を有する。基底面上でピットを検出したが深度が浅く、遺物に恵まれず竪穴住居との関連は不明である。埋土は黒褐色シルト～極細粒砂であり、基盤層の細かいブロックを少量含む。埋土中に須恵器片を含むことから古墳時代後期以降の廃絶が考えられる。壁溝は確認できなかった。

竪穴住居２　調査区北東隅で竪穴住居１と重複して検出した。検出範囲はわずかであり土坑の可能性もあったが、遺構の検出ラインが直線的であることや、その直下の基底面上において細長い溝を検出したことから、平面は方形または隅丸方形で、壁溝を有する竪穴住居と判断した。住居の深度は５㎝程度しか残存しない。竪穴住居２は竪穴住居１に切られていることと、住居埋土に須恵器を含まないことから古墳時代中期以前の住居と考えられる。

溝１　調査区北西部で検出した南東方向に屈曲する溝であるが、調査区西壁の制約により全体の形状は不明である。検出幅は50～60㎝、深度は検出面から約20㎝であるが実際は３層（遺物包含層）上面から掘り込まれていることが西壁面断面から確認でき、本来は30㎝程度の深度を有する。埋土は黒褐色極細粒砂の単一層であり、少量ながら基盤層ブロックを含む。埋土下半部からも須恵器砕片を含むことから、溝１は古墳時代後期またはそれ以降に埋没したことが考えられる。

溝２　調査区中央付近で検出した。溝１同様に西側が調査区外へ伸びており、溝全体の平面形は不明であるが、基本的には東西方向に走る溝であろう。検出幅は最大で1.4ｍ、深度は約25㎝をはかり、基底面は幅30～40㎝の平坦面を形成する。埋土は褐灰色極細粒砂に基盤層ブロックを少量含んだものであった。出土遺物は弥生時代中期のものに限られるであろう。第８図１・２はそれぞれ広口壷・甕の口縁部、３～５は甕等の底部であろう。

溝３　幅55～65㎝で東西方向から南へ直角に曲る溝である。10㎝程度の深度は、調査区内の溝状遺構のなかで最も深度が浅い。基底面の高低差は認められずほぼ平坦とみてよい。出土遺物はごく少量かつ砕片であったため溝３の詳細な時期比定は困難だが、埋土に須恵器を含まない



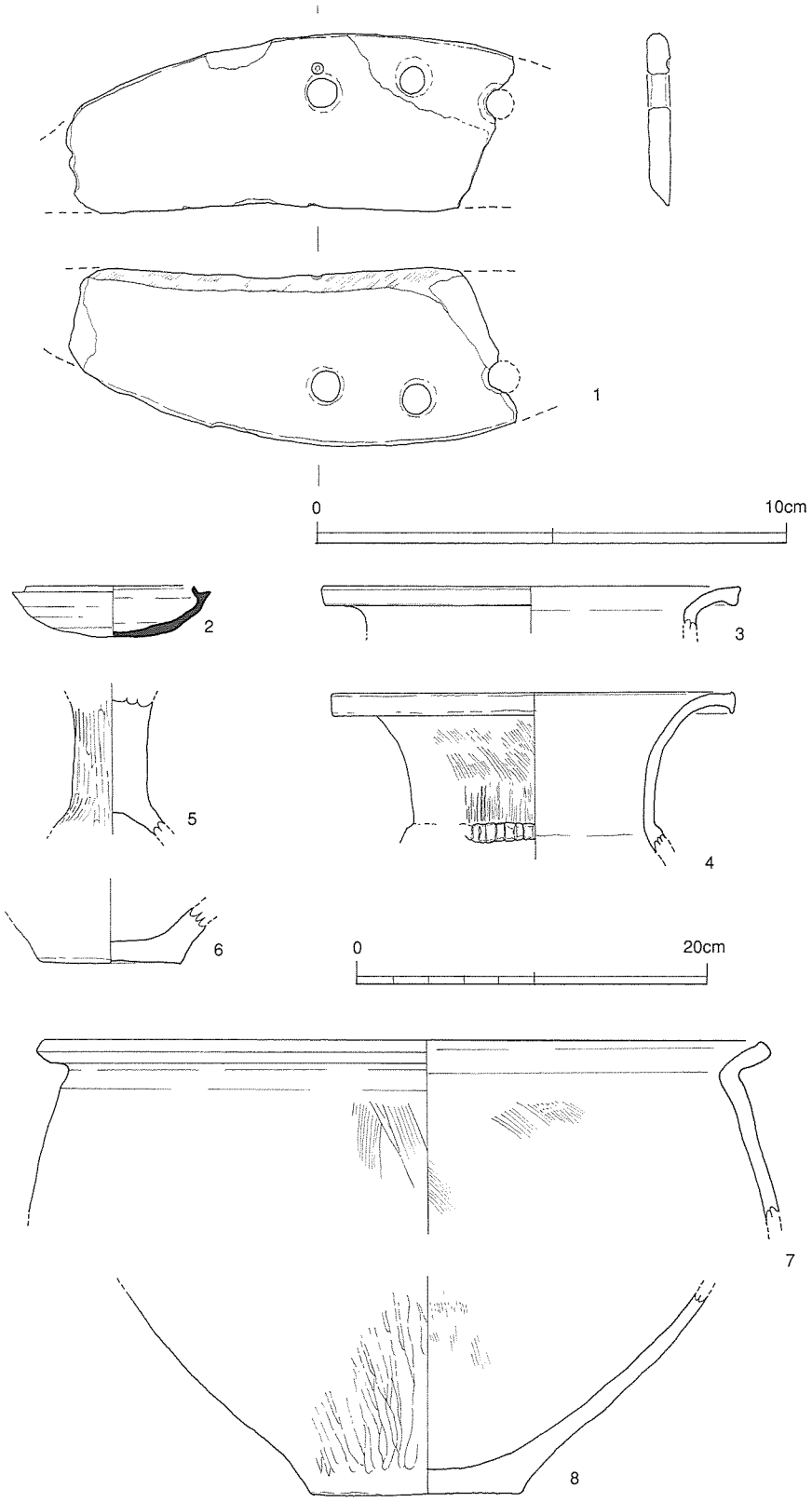
第８図　出土遺物１（１：４）

点を考慮すれば、弥生時代中期～古墳時代中期の一時期と考えられ、仮に弥生時代中期であればその形状から方形周溝墓の可能性もある。

土坑１　平面はいびつな楕円形を呈し、長軸幅1.4m以上、短軸幅で1.1m、深度30cmをはかる。基底面付近から壷形土器口縁部・底部片（第８図７・８）等が出土している。土坑１は弥生時代中期の所産とみられる。

土坑２　一部撹乱を受けているが、残存部分から隅丸長方形の平面形が考えられる。埋土は褐灰色極細粒砂を主体とし、基盤層ブロックと礫の混入具合から３層に区分できる。深度は最深部で約40cmをはかる。埋土上層中のみ須恵器砕片をわずかながら含むことから、最終的な埋没が古墳時代後期であり、機能した時期は出土遺物より弥生時代中期と考えられる。

土坑３　調査区中央付近で検出した平面不整形の土坑である。南北の最大幅はそれぞれ1.5m、深度は15cm程度である。埋土は黒褐色極細粒砂の単一層である。出土遺物は大半が弥生土器（第８図６など）であったが、少量ながら須恵器片を含むため、当該土坑の時期は古墳時代後期頃と考えられる。



第９図　出土遺物２（１：４※１は２：３）

ピット１（第６図）　調査区南端部で検出した。ピット中からは多数の弥生土器が出土している。第９図４は広口壷の口縁部、５は高杯の脚部、６は甕の底部である。

ピット２（第７図）　ピット１から約１ｍ北側で検出したピットであり、ここからも弥生土器が多数出土した。第９図７・８はそれぞれ大形甕の口縁部と底部であり、胎土や焼成の特徴から同一個体であろう。弥生時代中期の特徴を有する。

ピット３　土坑１と重複するピットであり、直径50cm、深度は35cmをはかる。埋土中より弥生土器の砕片とともに磨製の石包丁（第９図１）の破片が出土した。

ピット４　調査区北西隅付近で検出した直径50cm程度、深度20cmをはかるピットである。埋土中出土の須恵器杯身（第９図２）は古墳時代終末期（TK209型式）の特徴を示し、当該時期の遺構といえるのはピット４が唯一であった。

３．まとめ

今回の調査は限られた調査面積にもかかわらず多数の遺構を検出した。検出遺構の多くは弥生時代中期とみられ、他に古墳時代中期～後期、飛鳥時代の遺構も確認した。以下では当調査区における各時期の成果についてまとめておく。

弥生時代中期は調査区内の遺構分布をみると、ピットまたは柱穴の分布は南側ほど濃密であることに気づく。ここで過去の調査成果を参考にすると、第28次・31次調査区のように当調査区以南でより濃密な分布を示すことがうかがえる。よって当該時期の調査区一帯は新免弥生集落内において特に濃密な建物の分布が予想され、居住域としてみた場合、集落の中心部であった可能性が高いことが改めて確認された。

弥生時代後期以降で明確な遺構が確認できたのは古墳時代中期～後期である。当該期の調査区では竪穴住居、土坑、ピットまたは柱穴といった遺構がみられるが、弥生時代中期の遺構密度や出土遺物の量を比較すればその格差は歴然としている。付近の調査成果をみると第28次・31次調査区においても当該期の建物跡が確認されており、これらは一連の遺構群を形成しているとみられる。古墳時代終末期になるとピット１基のみとなり、当調査区一帯において明らかに集落が衰退していることがうかがえる。

今回の調査区は新免弥生集落の中心部の一角に該当することが考えられる。周辺では建物跡とともに方形周溝墓も確認されており、居住域と墓域が一体となって集落を形成していた可能性が高い。しかし、実際は両者の関連遺構は複雑に重複して検出されることが多く、居住域と墓域との時空的な関係は不明瞭なままである。よって今後付近における発掘調査は、これらの課題と既往の調査成果を踏まえつつ慎重に行う必要がある。

3．まとめ

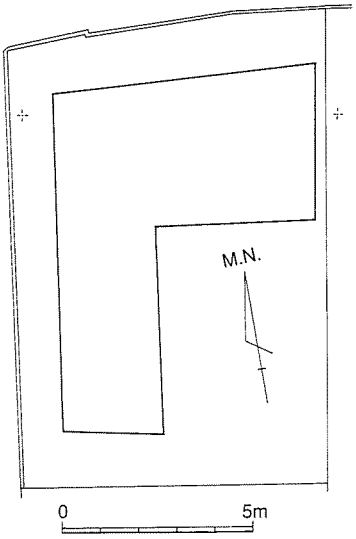
【参考・引用文献】（順不同）

・豊中市教育委員会「新免遺跡」『豊中市埋蔵文化財発掘調査概要1982年度』豊中市文化財調査報告第10集 1983年
・豊中市教育委員会「新免遺跡第13次調査」『豊中市埋蔵文化財発掘調査概要1985年度』豊中市文化財調査報告第15集 1986年
・豊中市教育委員会「新免遺跡第28次調査」『豊中市埋蔵文化財発掘調査概要1989年度』豊中市文化財調査報告第28集 1990年
・豊中市教育委員会「新免遺跡第31次調査」『豊中市埋蔵文化財年報 Vol. 1 1989,1990年度』1993年
・阪急宝塚線豊中市内連続立体交差遺跡調査団・豊中市教育委員会『新免遺跡－第11次発掘調査報告書－』豊中市文化財調査報告第22集　1987 年
・蛍池北遺跡調査団・豊中市教育委員会『蛍池北遺跡（宮の前遺跡）第12次発掘調査報告－弥生時代中期方形周溝墓群の調査－』豊中市文化財調査報告第36集　1995年

第Ⅲ章　豊島北遺跡第５次調査

１．調査の経緯

当調査区は、曽根南町１丁目156－９、156－10に所在する。平成21年２月20日付けで提出された埋蔵文化財発掘の届出に基づいて、平成21年２月26日に確認調査を行なったところ、地表下約1.4mで古墳～平安時代の遺物や遺構を検出した。個人住宅建設に伴う基礎工事の計画では地表下約５m付近までの柱状地盤改良が予定されており、遺構の損壊を免れないことが判明したため、協議の結果、本発掘調査を実施することとなった。調査は平成21年４月２日～４月27日にかけて実施し、調査面積は建築対象面積から66.0㎡とした。

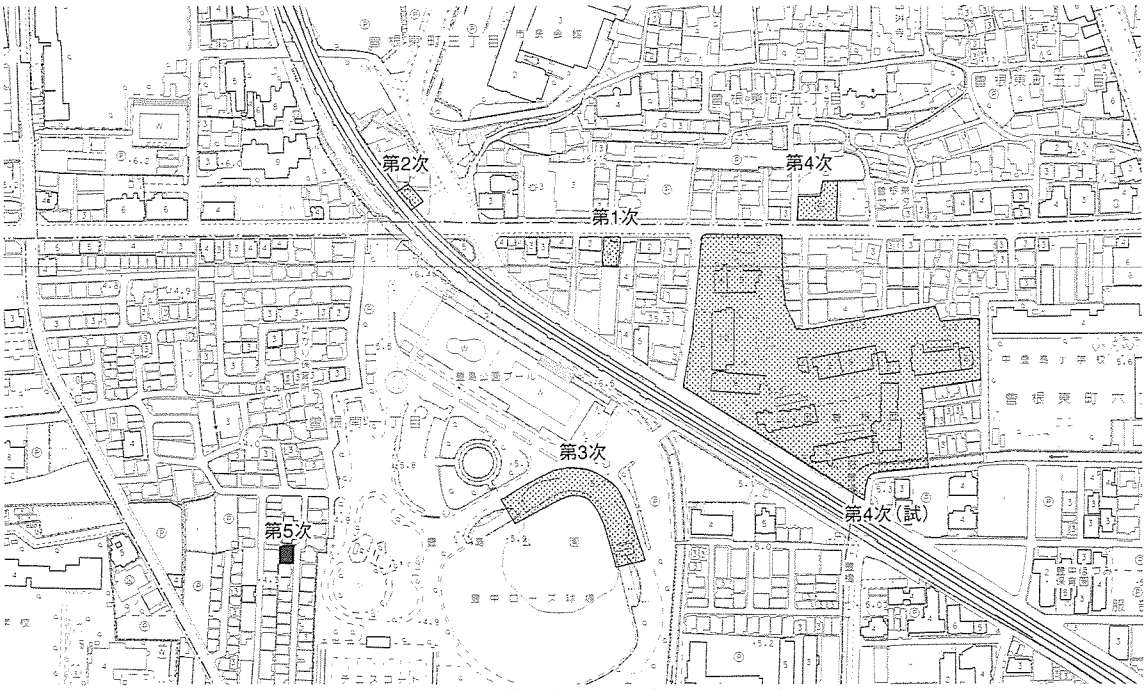


第10図　調査範囲図（１：200）

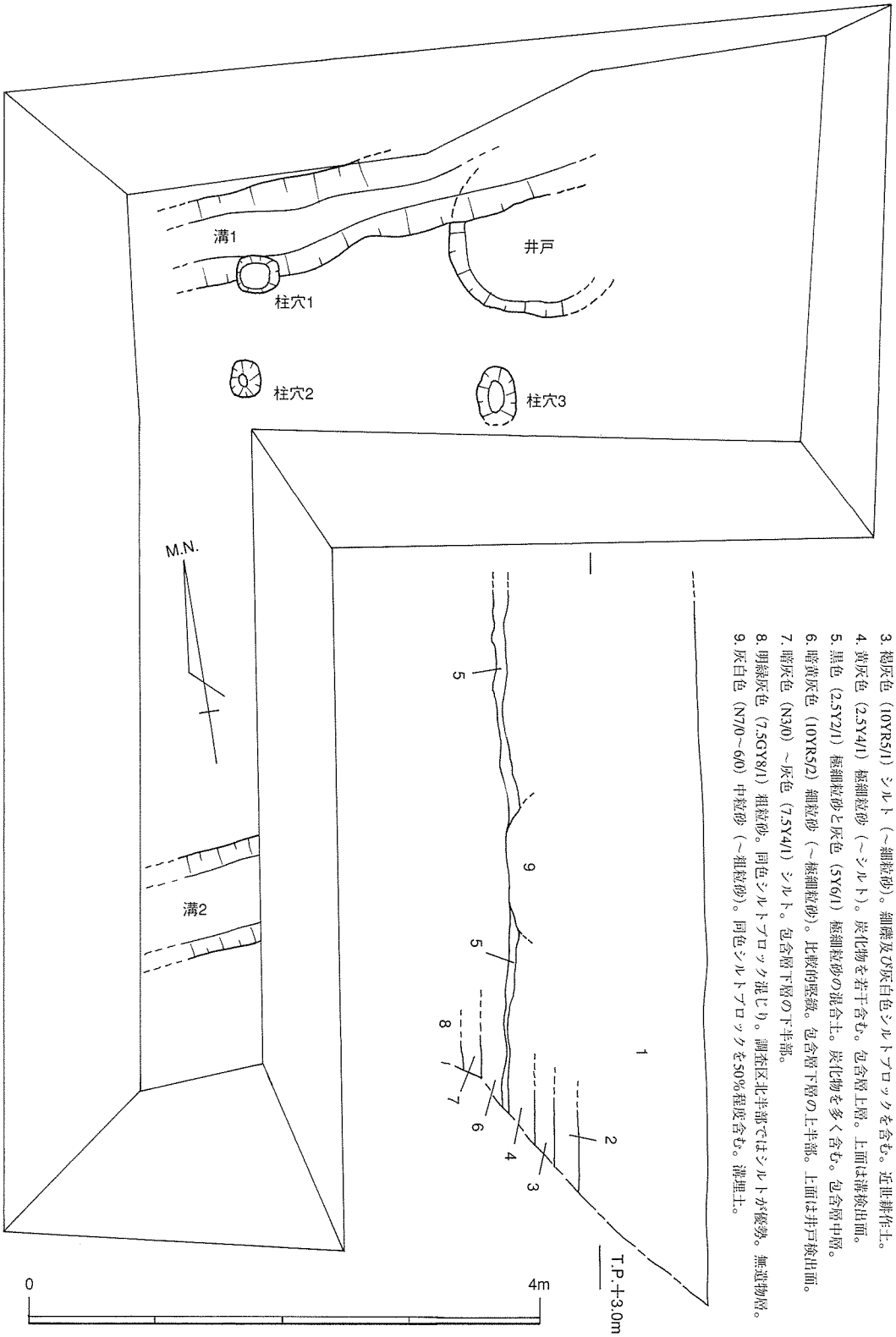
２．調査の概要

（１）基本層序

調査区内は地表下約1.1mまでが現代の盛土で整地されている。盛土直下には近～現代の耕作土、そして中～近世の耕作土が続き、地表下約1.4～1.5mで黒褐色系のシルト層に到達する。この黒



第11図　調査地位置図（１：5,000）



第12図　調査区平面・断面図（1：50）

褐色系のシルト層は後述するように平安時代の遺物包含層であり、遺構面をも形成する。地表下約1.8mで灰色系粗粒砂の分厚い堆積となり、約２mで明緑灰色系の堅緻なシルト層となる。この粗粒砂及びシルト層は無遺物であり、豊島北遺跡の東側では弥生時代の基盤層となっているが、当調査では該期の遺構や包含層は確認できなかった。

（２）検出した遺構

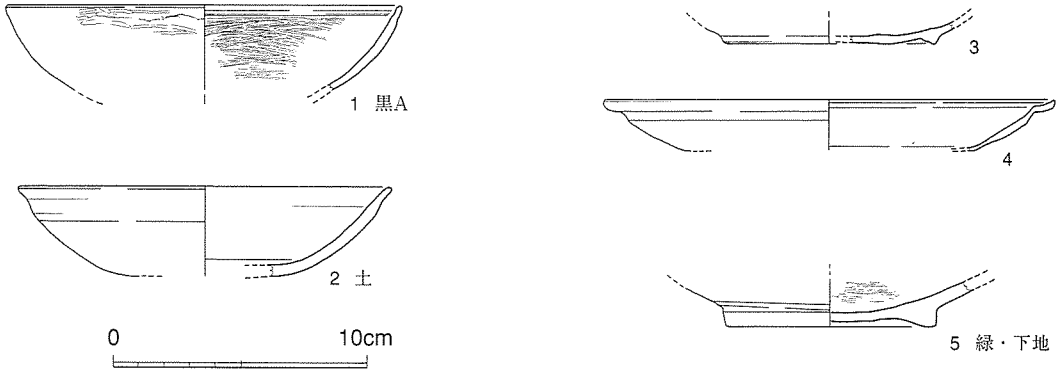
当該調査で検出した遺構は、柱穴３基、溝２条、井戸１基のほか、落ち込み状の遺物包含層である。ただし、地下水位が高く、常に湧水がある状態での調査であったため、実際には検出された数量を超える遺構が存在した可能性があることを断っておく。

柱穴３基は小規模な柱穴である。黒褐色系の遺物包含層上面から検出されているため、古代以降の所産であることが推定されるが、限られた調査範囲の中では建物の構成や規模を知ることができなかった。溝２条も黒褐色系の遺物包含層上面から検出されており、灰色系の砂質土を埋土とし幅約0.9m、遺存した深さ約0.2mをはかる。６m程度の間隔を開けて同じ規模で東西方向に掘られていることから、耕作地を区画するものと考えられる。古代末頃に掘削された条里地割に伴う溝である可能性がある。井戸は重複関係から、この溝より以前に掘られたものとわかる。約４分の１程度しか遺存しておらず、掘形の復元直径は約1.6m、遺存した深さ約0.5mをはかる。検出時には遺存していなかったが、その規模等から同時期の井戸遺構と同様、二段重ね程度の曲物を井筒としていた可能性がある。これらの遺構の基盤層をなす黒褐色系の包含層は南に向かってゆるやかに傾斜し落ち込み状に層厚を増す。大きく見ると上・中・下層に分離され、特に中層では部分的に土器が集中して廃棄された状況が看取される。

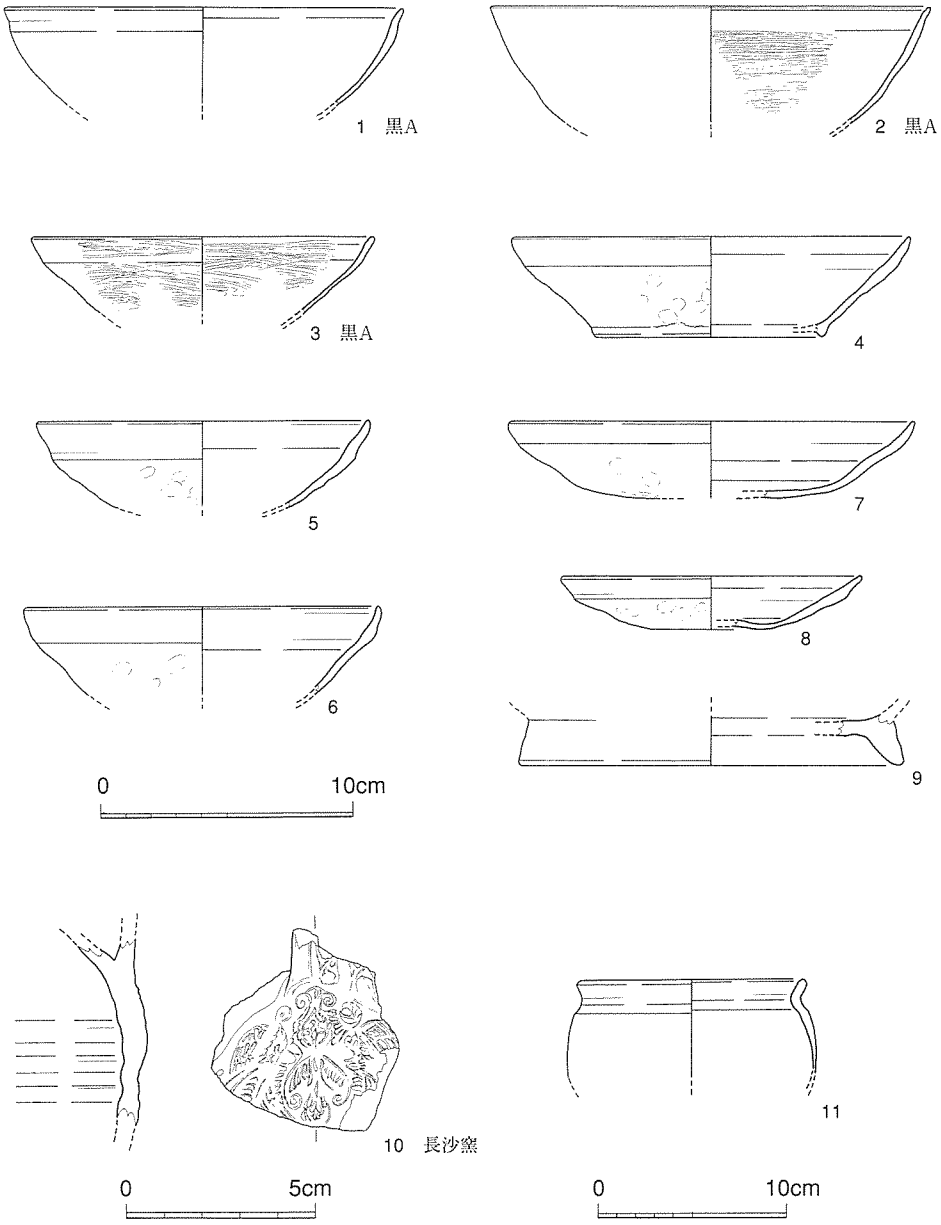
（３）出土遺物

各遺構出土遺物（第13図）

井戸出土遺物　１は、黒色土器A類椀である。口径は15.4cmに復元され、残存高は3.4cmをはかる。内外面には横方向ヘラミガキを施すが、特に外面のミガキは粗雑で、内面も隙間が目立つ。口縁端部の内側には、幅２mm程度の凹線状の沈線が施されている。２は、土師器坏である。口径は



第13図　出土遺物１（１：３）



第14図　出土遺物２（※１～９は１：３、10は１：２、11は１：４）

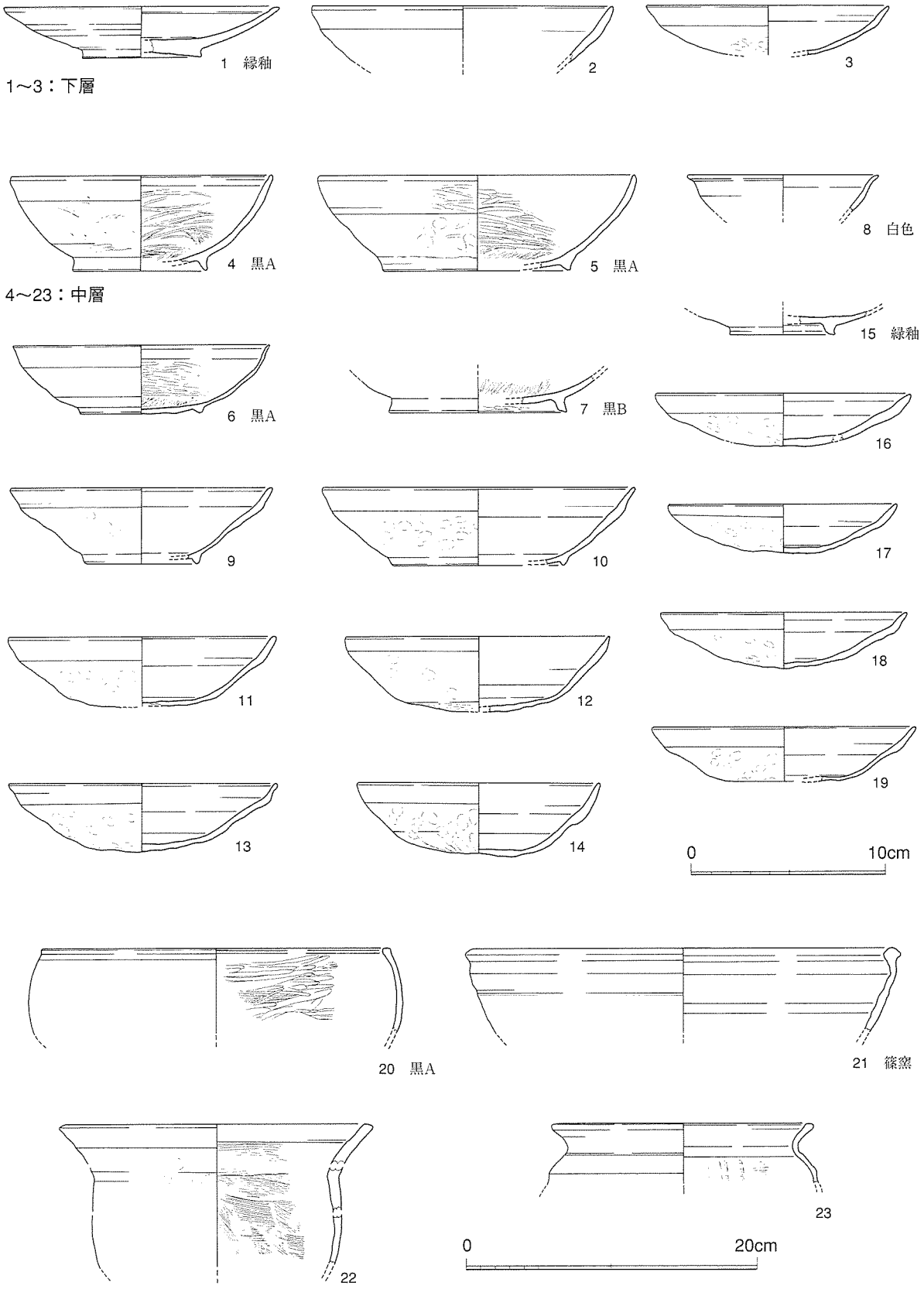
14.6cmに復元され、器高は3.6cmをはかる。内面および口縁部には横ナデが施される。体部外面の調整は不明で、押圧痕も確認できないが、手づくね成形によるものと考えられる。これらの遺物から時期は確定しにくいが10世紀後半頃の可能性が考えられる。

溝1出土遺物

３は、土師器椀の底部である。高台径は8.4cmに復元され、残存高は0.9cmをはかる。高台は粘土紐を貼付け、ナデにより整形している。底部内外面の調整は不明であるが、手づくね成形である。４は、「て」の字状口縁の土師器皿である。器壁は２mm前後と薄い。口径は17.9cmに復元され、残存高は2.0cmをはかる。10世紀末～11世紀初めの所産と言える。

柱穴1出土遺物　５は、緑釉下地となる無釉陶器椀である。高台径は6.4cmに復元され、残存高は1.9cmをはかる。高台内部をケズリ出して高台を成形している。底部内面にはヘラミガキが施されるが、外面は回転ヘラケズリ痕が残る。京都産のもので、10世紀前半の所産である。下層からの混入品となる可能性が考えられる。

包含層下層（第15図）　１は、京都産の緑釉陶器碗である。口径14.0cm、器高2.6cmをはかる。底部にはケズリ出しによる円盤状の高台がつく。内面は緻密なヘラミガキ、外面には回転ヘラケ



第15図　出土遺物３（※１～19は１：３、20～23は１：４）

ズリが、また口縁部内面に圏線状の沈線が施されている。全面に施釉され、見込みには重ね焼きの痕跡が認められる。９世紀後半の所産である。２は、在地産の土師器坏である。口径は15.4cmに復元され、残存高は2.9cmをはかる。器高は明らかに３cmを超えることから、坏と判断した。内面および口縁部外面は横ナデを施す。体部外面の調整は明確ではないが、手づくね成形による。３は、在地産の土師器皿である。口径は12.4cmに復元され、残存高は2.5cmをはかる。内面および口縁部外面には横ナデを、体部外面には右上がり方向の押圧痕が見られる。

包含層中層（第15図）　４～６は、黒色土器A類碗である。４の口径は13.4cm、高台径は6.8cmに復元され、器高は4.9cmをはかる。外面はヘラケズリの後に不定方向のヘラミガキを粗雑に施す。内面には乱雑な不定方向のヘラミガキを、見込みには一定方向のヘラミガキを比較的密に施す。底部には、比較的しっかりした高台が貼付けられている。口縁部内面はナデにより、やや凹線状に凹む。５の口径は16.2cm、高台径は9.4cmに復元され、器高は4.9cmをはかる。体部外面は、押圧の後に粗雑なヘラミガキが施される。内面には、幅２～３mmのヘラミガキが乱雑に施されている。口縁端部の外側は面取りされ、上方に鋭く立ち上がる。底部には、断面三角形状の高台が貼付けられている。６の口径は13.0cm、高台径は6.2cmに復元され、器高は3.5cmをはかる。外面の調整は不明である。内面には横方向のヘラミガキを施すが、口縁部付近は粗雑である。断面台形状を呈する高台が貼付けられている。なお、６の器壁は２mm前後と他に比べて薄く、また口縁端部が外反する点で、他と異なる。７は、黒色土器B類碗の底部で、高台径は9.0cmに復元され、残存高は1.7cmをはかる。見込みには一定方向のヘラミガキが密に施され、また底部外面のうち、高台内にも一定方向のヘラミガキが密に施される。やや高脚状を呈する高台の畳付は段状に凹んでいる。10世紀後半の所産となる。８は、京都産白色土器の小碗で、胎土は明灰白色を呈し、比較的緻密である。口径は9.8cmに復元され、残存高は1.9cmをはかる。口縁部には強いナデが施され、端部は外反する。なお、京都産白色土器碗は、これ以外にもう１点出土しているが、口径の復元が困難であったことから図化しなかった。９・10は、在地産の土師器椀である。９の口径は13.4cm、高台径は7.6cmをはかる。体部外面には押圧を、口縁部から内面には横ナデを施す。10の口径は16.0cmに復元できるが、ほかの遺物と比べて非常に大きく、復元値には疑問の余地を残す。器高は4.0cmをはかる。体部外面には右上がり方向の押圧を、口縁部から内面には横ナデを施す。底部に、断面三角形状の高台が貼付けられる。11～14は、在地産の土師器坏である。11の口径は13.6cmに復元され、器高は3.5cmをはかる。体部内面から口縁部外面にかけては横ナデを、外面のうち体部・底部には押圧が施される。押圧に方向性はあまり認められない。12の口径は13.4cmに復元され、器高は3.9cmをはかる。11と同じく、体部内面から口縁部外面にかけては横ナデを、外面のうち体部・底部には押圧が施される。13の口径は13.8cm、器高は3.5cmをはかる。体部外面の押圧が右上がり方向となる以外の特徴は、11と同じである。14の口径は12.4cmを、器高は3.8cmをはかる。口縁部から体部内面には横ナデを施し、体部外面には右上がりの押圧を施す。底部外面には、左方向へ加圧するような押圧痕が認められる。底部内面の調整は不明である。

15は、京都産緑釉陶器の皿である。高台径は5.4cmに復元され、残存高は1.0cmをはかる。外面のうち、高台から底部にかけて露胎する。内面には回転ナデが施され、ミガキはみられない。10世紀前半の所産となる。16～19は、在地産土師器の皿である。16の口径は13.0cmに復元され、器高は2.7cmをはかる。内面は摩耗しており、調整は不明であるが、17とほぼ同じと考えられる。17の口径は12.0cm、器高は2.5cmをはかる。内面から口縁部外面にかけて横ナデを、体部外面には左上がりの押圧が施される。18の口径は12.8cmに復元され、器高は2.9cmをはかる。体部外面の押圧に顕著な方向性は認められないが、それ以外の調整は17と同じである。19の口径は13.6cm、器高は2.8cmをはかる。体部外面には、右上がりの押圧が施される。なお、19を除く皿の底部は丸みを帯びるが、碗・坏の多くは平底状になるものが多い傾向が認められる。20は黒色土器A類の鉢である。口径は23.8cmに復元され、残存高は5.8cmをはかる。体部は内反し、口縁端部の上端は平坦に仕上げられる。体部外面は風化しているため、調整は不明である。内面は横方向のハケの後に幅３mm前後のヘラミガキを粗雑に施す。21は篠窯産の須恵器鉢である。口径は30.0cmに復元され、残存高は5.8cmをはかる。玉縁状の口縁部から、鉢Cに比定でき、10世紀中頃の所産となる。22・23は土師器甕である。22の口径は21.4cmに復元され、残存高は9.7cmをはかる。口縁部には横方向のナデを、体部外面には押圧が、体部内面には横方向のハケが施される。23の口径は17.9cmに復元され、残存高は4.2cmをはかる。口縁部には横方向のナデを、頸部外面はケズリの後にナデを施したような痕跡が認められる。体部外面には押圧が、体部内面には横方向の板ナデが施される。

包含層上層（第14図）　１～３は、黒色土器A類の碗である。１は口径15.8cmに復元され、残存高3.9cmをはかる。外面のうち、口縁部には横ナデが施されるが、体部の調整は明確ではない。また、内面も風化しており調整はあまり明確ではないが、不定方向のヘラミガキが確認できる。２の口径は17.4cmに復元され、残存高は4.6cmをはかる。体部内面には、幅１mm前後のヘラミガキを密に施すが、口縁部にはヘラミガキがみられない。また、端部上端には段状の沈線が施される。外面の調整は不明である。３の口径は13.6cmに復元され、残存高は3.0cmをはかる。内外面には、規則性に欠ける横方向のヘラミガキが施される。４は、在地産土師器の碗である。口径は15.8cmに復元され、器高は4.0cmをはかる。体部外面に右上がり方向の押圧が、それ以外は横ナデを施す。ただし、見込みの調整は不明である。体部と底部の境界に、断面三角形状の高台を貼付けている。５～７は、在地産土師器の坏である。５の口径は13.0cmに復元され、残存高は3.5cmをはかる。体部内面と口縁部には横ナデを、体部外面には右上がり方向の押圧を施す。６は口径14.0cmに復元され、残存高は3.5cmをはかる。調整上の特徴は、５と同じである。７の口径は16.0cmに復元され、器高は3.1cmをはかる。口径に対して器高が低く、皿の可能性もある。調整上の特徴は５と同じであるが、体部外面の押圧には顕著な方向性は認められない。８は在地産土師器の皿で、口径12.0cmに復元され、残存高は2.1cmをはかる。調整は先の在地産坏と同じく、見込みには一定方向のナデが施される。体部と底部が比較的明確である。９は大型の土師器

盤か鉢になると考えられる器種の高台である。高台径は15.0cmに復元され、残存高は1.8cmをはかる。10は長沙窯製水注の把手部分である。3本の棒を並べた把手と型出しによるナツメヤシの意匠が特徴となっている。内面は回転横ナデを施す。9世紀の所産と言える。11は、土師器甕である。口径は11.8cmに復元され、残存高は5.1cmをはかる。口頸部内外面には横ナデを、体部内面には押圧痕がみられるが調整は不明、体部外面の調整も明確に把握できない。口縁部は、やや直立気味に立ち上がる。

出土遺物のまとめ　以上、包含層から出土した遺物を概観すると、下層出土遺物は京都産緑釉陶器から9世紀後半に、中層出土遺物は篠窯製の鉢が10世紀中頃、京都産緑釉陶器が10世紀前半、黒色土器B類は10世紀中頃～後半とやや時期幅があるものの、概ね10世紀中頃と考えてよいだろう。上層については、あまり特徴的な遺物がないため、時期は特定しにくい。また在地産土師器の形態や法量にも決定的な違いは見出しにくいため、ここでは時期を特定しない。なお、包含層上面に掘削された遺構をみると、井戸が10世紀後半と推定できることから、上層出土遺物と中層出土遺物にあまり時期差がなくてもよいものと判断する。ところで包含層中から出土した遺物に、長沙窯製水注片と京都産白色土器といった特殊な遺物が含まれていた。長沙窯製水注が普通の集落遺跡から出土したという事例はこれまで聞いたことはなく、また京都産白色土器も平安京以外では京都盆地でもあまり出土しないものとされる。そうした遺物が在地産土師器とともに出土することに、当調査地周辺に展開しただろう建物群の特殊性が想定されよう。

3．まとめ

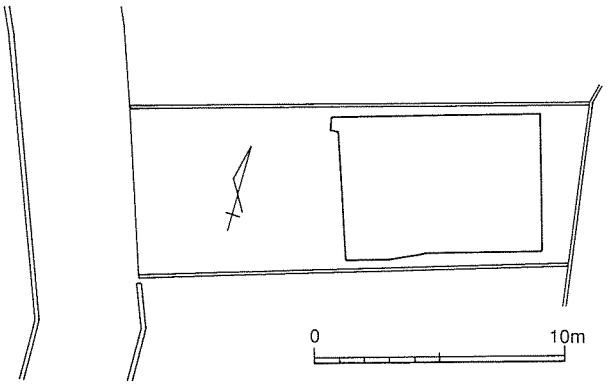
今回の調査では、一部9世紀後半に遡る可能性を持ちながら、10世紀中頃に盛期のある遺物包含層が検出されており、遺物の出土状況から廃棄の単位が認められるため、直近に生活空間が営まれていたことはほぼ間違いないと考えられる。また、10世紀後半に掘られた井戸は建物群に伴う遺構であると考えられるが、11世紀には条里地割に関連する溝によって壊されていて、当調査地周辺ではごく短い間に建物群が廃絶していることがわかる。該期には豊島北遺跡の東側や周辺遺跡でも建物群が散見されるが、それぞれが同様に短い期間しか存続せず、豊島北遺跡の西側でも11世紀代に見られる集落形態の再編、集住化という動きの中で、集落の成立と廃絶を捉えうることが今回初めて確認された。

一方、出土遺物の質的な特殊性を勘案すると、当調査地周辺にあった建物群が非常に特殊な性格を持つものと推定せざるを得ない。しかしながら、今回の調査は極めて限定的な範囲でのものであるため、建物群の規模や構成など詳細について知ることができなかった。今後の周辺での調査成果の蓄積が期待される。

第Ⅳ章　本町遺跡第36次調査

1．調査の経緯

平成21年３月18日、本町４丁目166－４の地点において、個人住宅建築に伴う発掘の届出が提出された。これを受けて平成21年３月26日、確認調査を実施した。敷地内２か所の坪掘りの結果、現地表下約30cmの段丘層において柱穴と見られる遺構を確認した。予定される建物の基礎が遺構面に損壊を与えることが明らかなため、施主・設計業者との協議にもとづき、平成21年４月13日から４月28日の日程を得て本調査を実施する運びとなった。

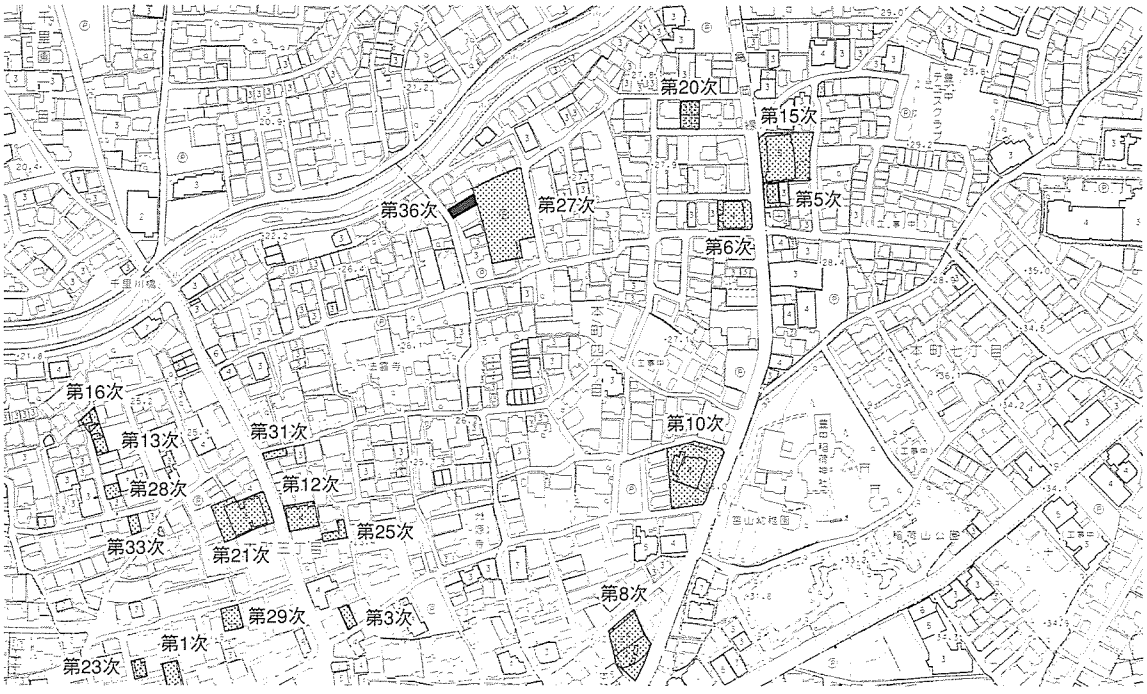


第16図　調査範囲図（１：300）

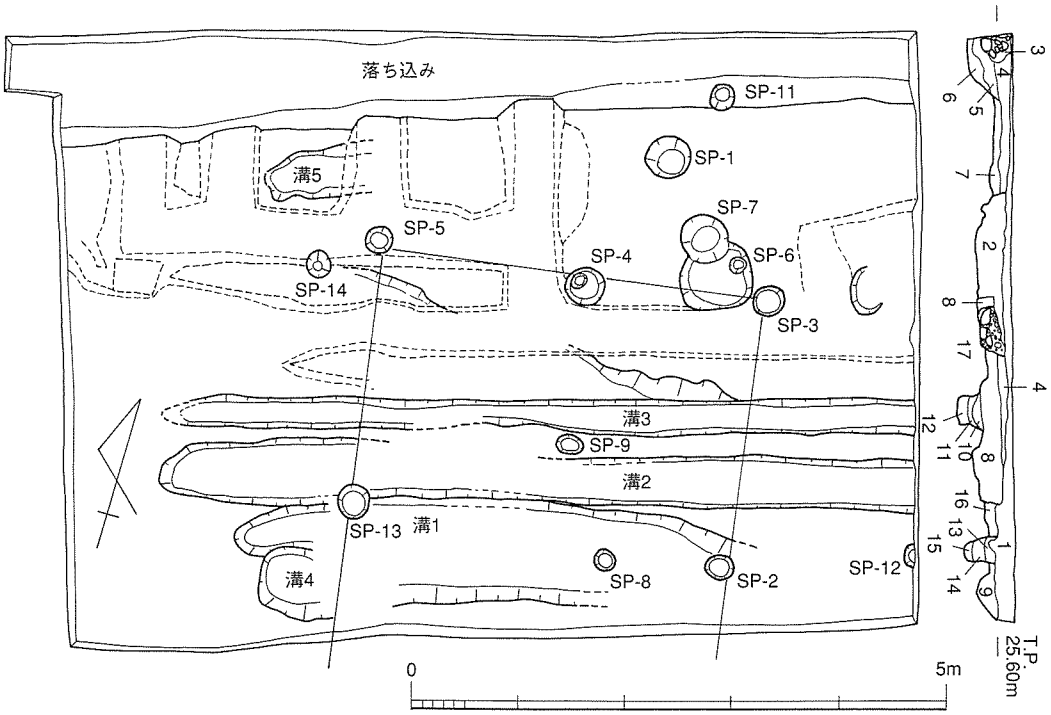
2．調査の概要

（1）基本層序

当調査区は、本町遺跡のエリア内でも北西方の最も縁辺部に位置する。千里川を直下に見下ろす段丘の端部付近に位置し、遺跡中央付近から当地点まで地形はほぼ水平につづく。



第17図　調査地位置図（１：5,000）



1．表層バラス敷。
2．撹乱土。
3．旧建物の布基礎バラス。
4．基盤層17の撹乱土でオリーブ褐色（2.5Y 4/4）中粒砂多く含む。
5．黄褐色（2.5Y5/6）粘土～シルトに灰オリーブ（5Y5/2）細粒砂30%含む。
6．灰オリーブ（5Y5/2）シルト～細粒砂にオリーブ褐色（2.5Y4/4）粘土15%含む。
7．灰オリーブ（5Y5/3）細粒砂～中粒砂。
8．黄褐色（10YR5/6）細粒砂～中粒砂に基盤層の黄色（5Y8/6）粘土～細粒砂ブロック5%含む。
9．黄褐色（10YR5/6）細粒砂～中粒砂に基盤層の黄色（5Y8/6）粘土～細粒砂ブロック3%含む。
10．黄褐色（2.5Y5/6）中粒砂。流水堆積と見られる混じりけのない砂。
11．黄褐色（2.5Y5/4）細粒砂。混じりけのない砂。
12．オリーブ褐色（2.5Y4/4）シルト～細粒砂。
13．黄褐色（2.5Y5/4）シルト～細粒砂に基盤層細粒砂ブロック20%含む。
14．黄褐色（2.5Y5/3）シルト～細粒砂。
15．黄褐色（10YR5/6）粘土。砂混じり。
16．黄褐色（10YR5/6）粘土～シルト。混じりけのない粘質土。
17．段丘層。基盤層。淡黄色（5Y8/4）砂＋明黄褐色（10YR6/6）粘土～中粒砂のブロック混合土。

第18図　調査区平面・断面図（1：70）

当地点の基本層序は、近世以後の耕作や既存建物の基礎地業の影響によりプライマリーな状態をとどめていなかった。ただし土層断面図の16は、遺物こそ含まないものの、混じりけの少ない黄褐色粘土を主体とした土層であり、中世にさかのぼる可能性も考えられる。

（2）検出遺構

柱穴、もしくは杭と見られる小ピットが13個検出された。このうちSP－2、3、4、5、13は規模、深度が一定するほか、柱痕をとどめるものが多く、矩形の配列を見せることから、同一建物の柱穴である可能性が高い。規模は東西3.56m、南北2.5m以上を計る。若干の須恵器片と土師器片から古墳時代後期に属する可能性が高い。

また東西の段丘ラインに並行して走る溝1～5は、若干の遺物から近世以後の耕作に伴うものと考えられる。なかでも溝3は、幅30cm、深さ25cmで、断面U字状に掘られ、砂の堆積から排水を意図して掘られたものと考えられる。

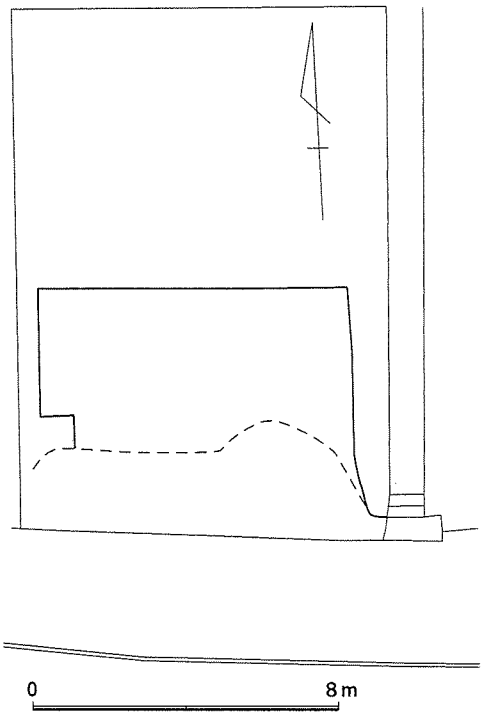
東側に隣接する本町遺跡第27次調査の成果とともに、段丘縁辺付近まで古墳時代集落が広がることを明らかにした点は重要な成果である。

第Ⅴ章　山ノ上遺跡第19次調査

1．調査の経緯

個人住宅の建築に先立ち４月28日に確認調査を行ったところ、現地表下0.3m前後のところで遺構面を検出し、その上面で柱穴を確認した。

一方、施工業者によると、ガレージ部分に限って現地表より約0.7m下まで掘削する必要があり、協議の結果、この部分については記録保存が必要となった。このため、ガレージ部分の掘削範囲となる40㎡を対象に、本調査を行うことになった。

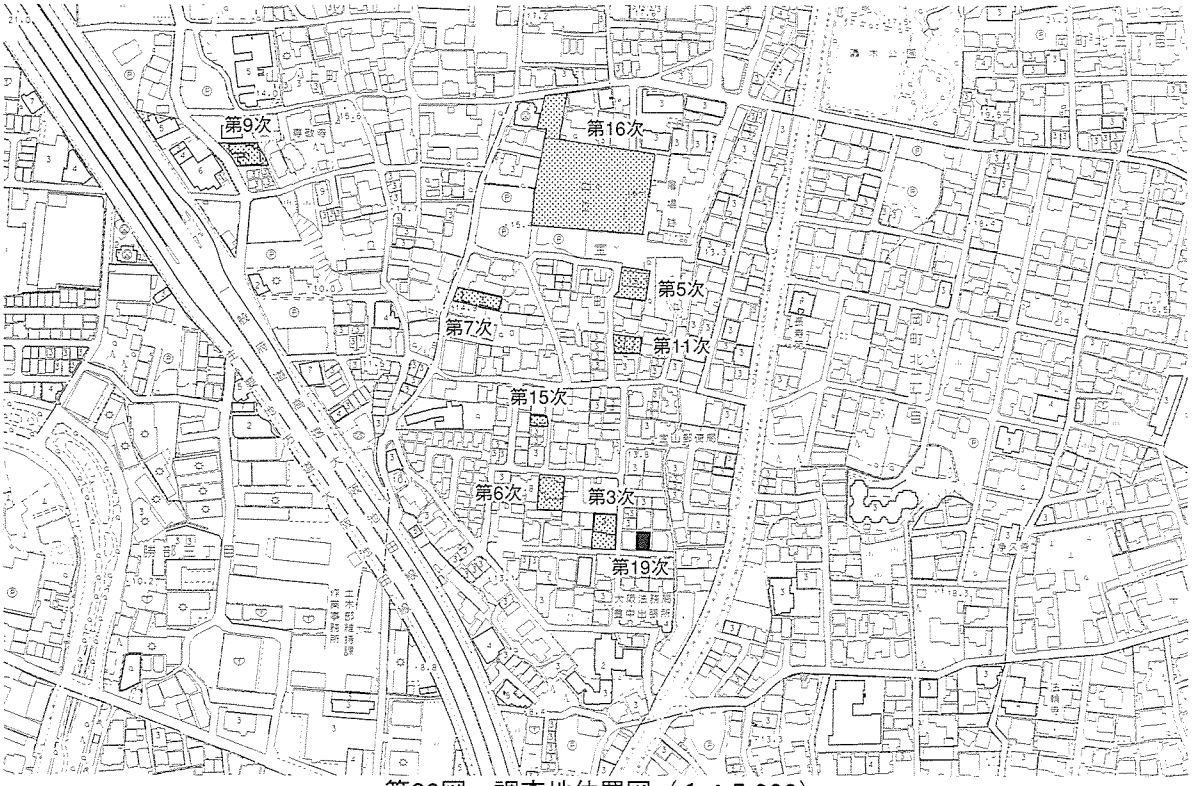


第19図　調査範囲図（１：200）

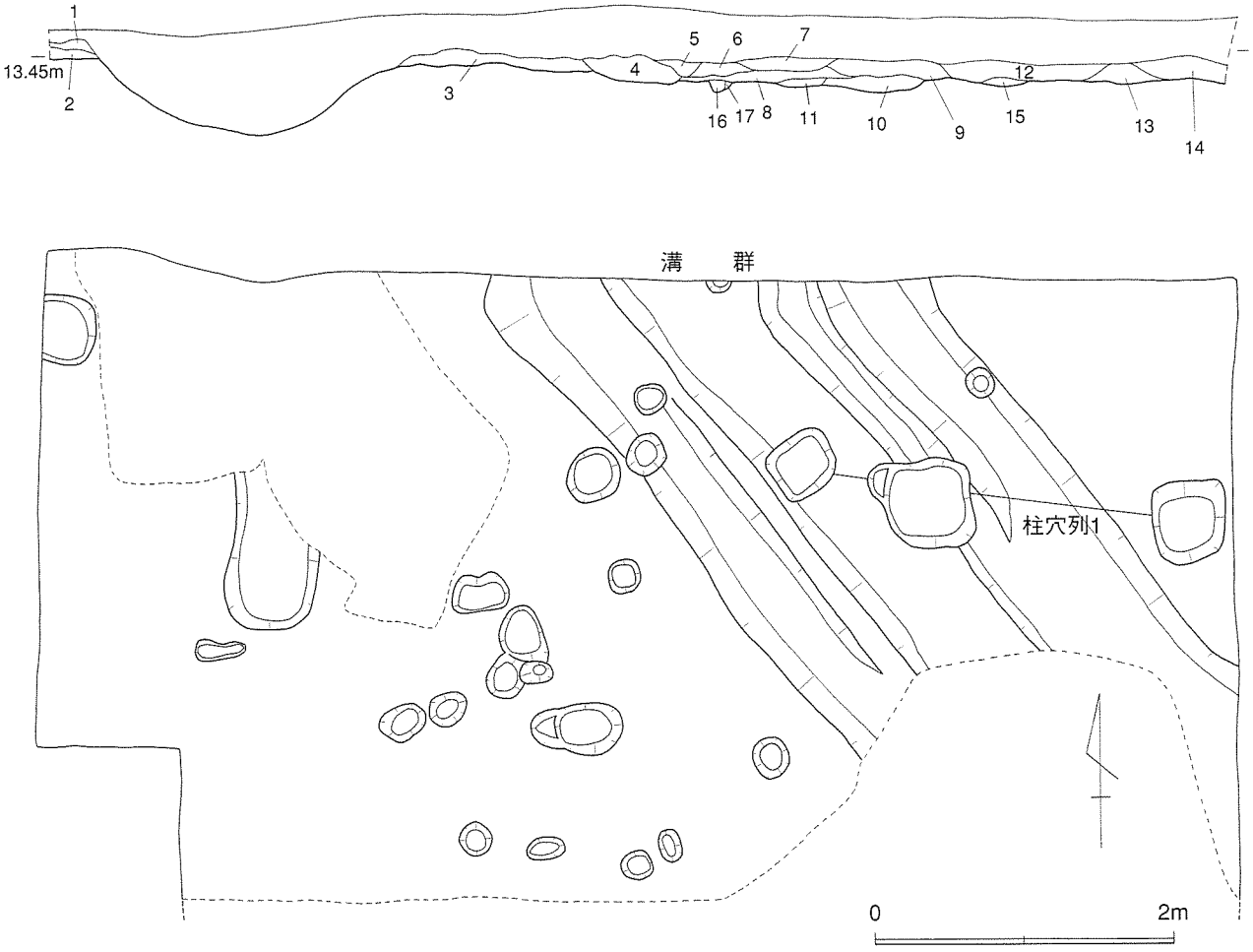
2．調査の概要

（1）基本層序

当調査区では、現地表から約0.3～0.5m下のところで、段丘形成層となる明黄褐色細粒砂層を確認した。現地表面以下には、現状の宅地造成に伴う盛り土、その下には宅地化以前の耕作土、また調査



第20図　調査地位置図（１：5,000）



1．褐色（10YR4/6）細粒砂
2．褐色（10YR4/4）細粒砂　基盤層ブロックを多く含む。
3．黄褐色（10YR5/8）極細粒砂　基盤層ブロックを少量含む。
4．黄褐色（10YR5/6）細粒砂
5．褐灰色（10YR5/1）細粒砂　中粒砂を少量含む。礫を少量含む。基盤層ブロックを少量含む。
6．灰黄色（2.5Y6/2）細粒砂に中粒砂を多く含む。礫を少量含む。基盤層ブロックを極少量含む。
7．暗灰黄色（2.5Y5/2）細粒砂に中粒砂を少量含む。礫を少量含む。
8．暗灰黄色（2.5Y5/2）細粒砂に中粒砂を極少量含む。礫を少量含む。
9．灰黄色（2.5Y6/2）細粒砂～極細粒砂　礫を少量含む。基盤層ブロックを極少量含む。
10．褐灰色（10YR5/1）極細粒砂～細粒砂　シルト含む。礫を極少量含む。
11．褐灰色（10YR6/1）極細粒砂～細粒砂　基盤層ブロックを少量含む。
12．暗灰黄色（2.5Y5/2）細粒砂に中粒砂を少量含む。礫を極少量含む。
13．暗灰黄色（2.5Y5/2）細粒砂に中粒砂を極少量含む。礫を少量含む。
14．暗灰黄色（2.5Y4/2）細粒砂に中粒砂を極少量含む。礫を少量含む。
15．褐灰色（10YR4/1）極細粒砂　基盤層ブロックを少量含む。
16．褐灰色（10YR4/1）細粒砂　同色極細砂ブロックを含む
17．褐灰色（10YR5/1）極細粒砂　基盤層ブロックを少量含む。

第21図　調査区平面・断面図（1：50）

区東部の一部に限って遺物を含む褐灰色細粒砂層の順に堆積し、段丘形成層にいたる。

（2）検出した遺構

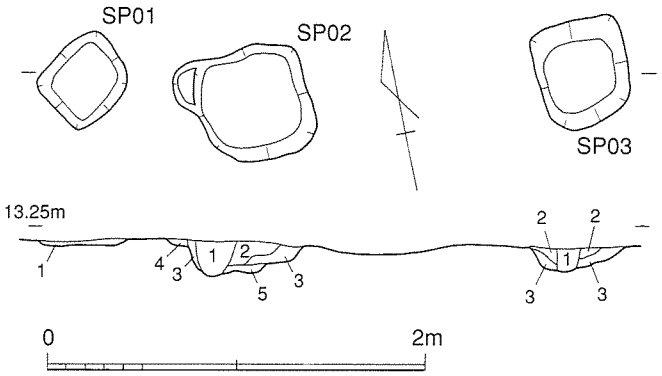
今回の調査では、遺構はすべて段丘形成層の上面で検出したが、一部には褐灰色細粒砂層の上面から掘削されたものもあると考えられる。

当調査区からは、多数の柱穴と溝4条を検出した。柱穴の多くは、後世の開発によって著しく削平されており、保存状態が良好なものでも深さ15cmを超えるものはなかった。以下、各遺構について報告する。

溝　群　調査区東部で検出した4条以上の溝であるが、調査区北壁の断面にみえるとおり、

複雑に重複する。このため、それぞれの溝の規模は把握しにくいが、幅0.3～1.0mになると推定できる。埋土の堆積状況から、近世の耕地に伴う水路と考えられる。肥前系磁器碗や瓦が出土しており、19世紀頃の所産と考えられる。

柱穴列１　調査区北東部で検出した方形状の平面形を呈する柱穴３基からなる。SP01はほとんど基底面しか残存していないため平面の形状は歪んでいるが、本来は方形であった可能性が残る。SP02・SP03は一辺0.55～0.6mをはかり、断面で確認された柱痕は直径25cmをはかる。



SP01
1．褐灰色（10YR4/1）極細粒砂　基盤層ブロックを少量含む。

SP02
1．褐灰色（10YR4/1）細粒砂　同色極細粒砂ブロックを含む。土器細片を極少量含む。
2．褐灰色（10YR4/1）細粒砂　同色極細粒砂ブロックを少量含む。土器細片を極少量含む。
3．褐灰色（10YR5/1）極細粒砂　基盤層ブロックを少量含む。
4．褐灰色（10YR5/1）極細粒砂　基盤層ブロックを多く含む。
5．基盤層ブロックに褐灰色（10YR4/1）極細粒砂を多く含む。

SP03
1．褐灰色（10YR4/1）極細粒砂　基盤層ブロックを極少量含む。
2．灰黄褐色（10YR5/2）細粒砂　基盤層ブロックを少量含む。
3．褐灰色（10YR5/1）極細粒砂～シルト　基盤層ブロックを少量含む

第22図　柱穴列１平面・断面図（１：40）

SP01とSP02の間隔は0.75m程度で、SP02とSP03の間隔は柱芯で1.9mをはかる。柱穴からは若干の遺物が出土したが、すべて細片であった。このため、柱穴列１の時期は特定できない。ただし、出土した遺物に古墳時代後期以降の所産と考えられる須恵器の細片が含まれていたことから、柱穴列１はこれ以降の所産と言える。

３．まとめ

当調査区は遺跡の南部にあって、その周囲には第３次調査区があるものの、あまり本格的な発掘調査は行なわれていない。第３次調査区では、弥生時代前期の溝などが確認されているが、当調査区との関連性は認められない。このため、集落の実態を具体化することはできない。

ただし、丘陵南側の緩斜面にまで、古墳時代以降の建物群が展開することが判明し、古墳時代から古代における当遺跡の集落範囲が丘陵の全域に広がる可能性が考えられるようになったことの成果は大きい。

また、今回検出した遺構から、調査区周囲に集落関連遺構が分布することは容易に推定できる。よって、周辺における開発においては、集落が存在することを特に留意する必要がある。

第Ⅵ章　蛍池西遺跡第17次調査

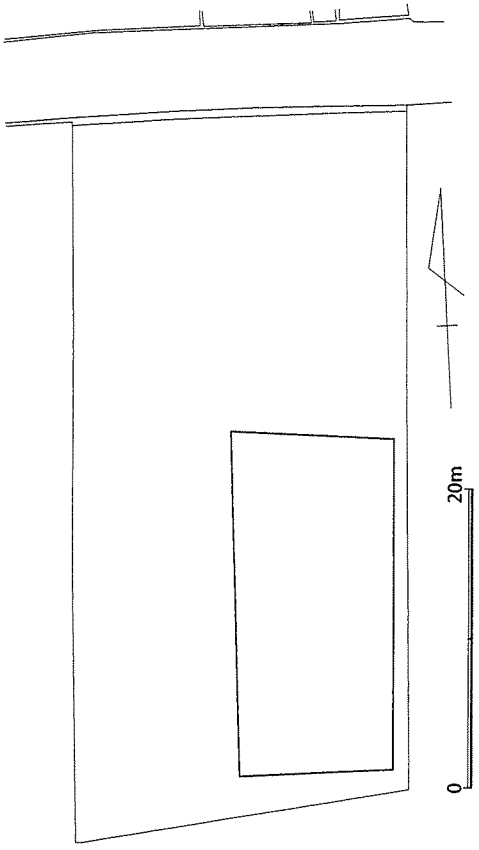
1．調査の経緯

共同住宅の建築に伴い、５月22日に確認調査を行ったところ、現地表面下1.0～1.3mのところで基盤層を確認し、その上面で柱穴を検出した。

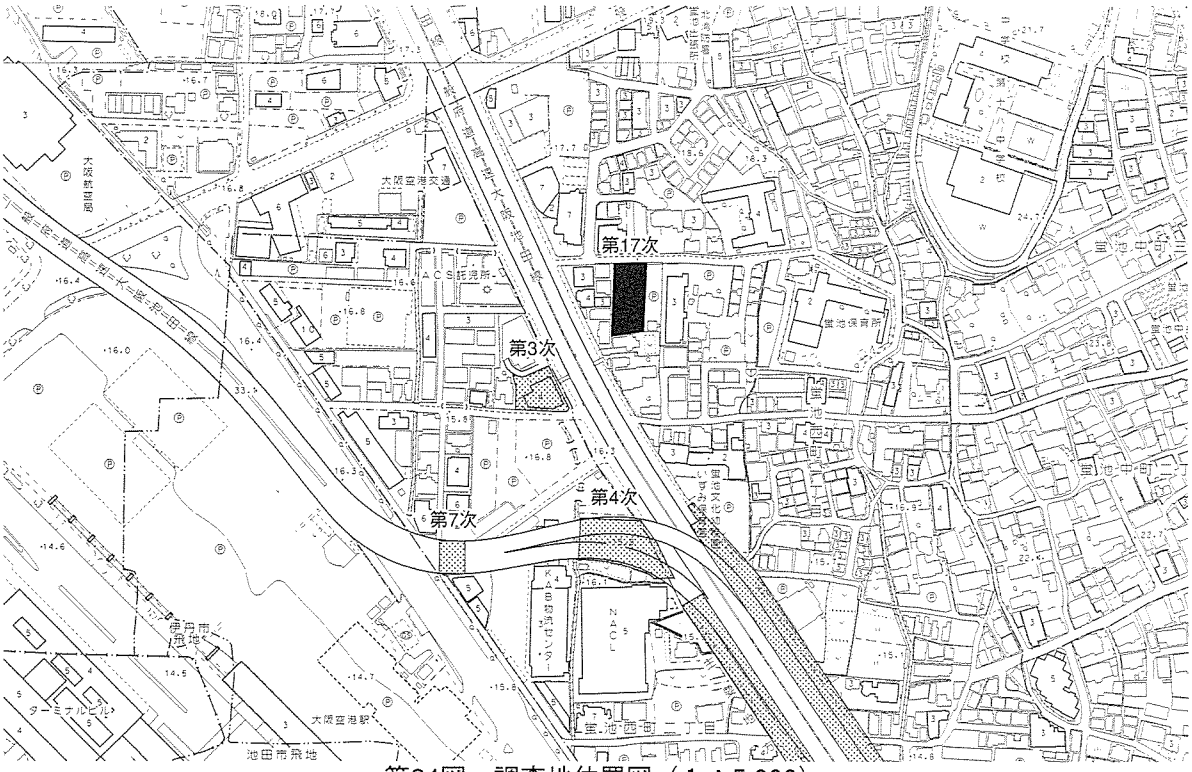
一方、計画されている建物は鉄筋コンクリート造３階建てで、耐震性能上の制約から建物の基礎構造は変更できないため、これらの遺構が破壊されることは避けられないこととなり、記録保存のために発掘調査が必要とされた。

よって、協議を行ったところ、建築申請者は零細な事業主にあたることから、発掘調査にあたってはその一部を国庫補助の対象として行うことになった。

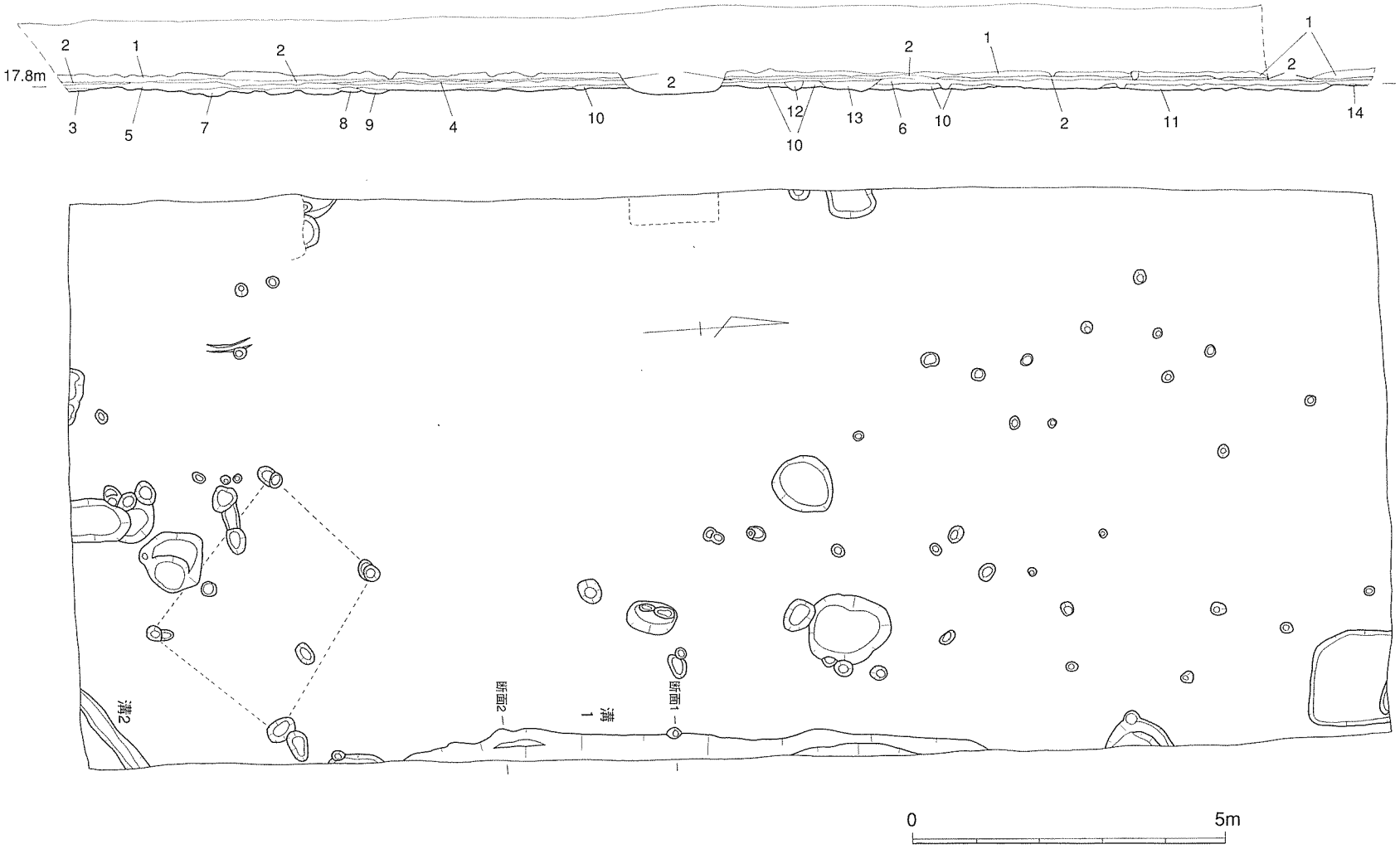
なお、確認調査で遺構が検出されたのは、敷地の東側に限定された。このことから、本調査も遺構が分布すると推定された、敷地東半分の220m²について行なった。



第23図　調査範囲図（１：500）



第24図　調査地位置図（１：5,000）



第25図　調査区平面・断面図（1：100）

1．灰色（N4/）細粒砂～粗粒砂　礫・石を極少量を含む。旧耕作土
2．灰色（5Y6/1）極細粒砂　中粒砂～粗粒砂を多く含む。石を極少量含む。
3．灰黄褐色（10YR5/2）細粒砂　中粒砂を多く含む。
4．黄灰色（2.5Y6/1）極細粒砂　中粒砂を含む。
5．灰色（5Y5/1）細粒砂～中粒砂
6．灰黄色（2.5Y6/2）細粒砂　中粒砂を含む。
7．灰黄褐色（10YR6/2）極細粒砂～細粒砂　中粒砂を含む。基盤層ブロックを含む。
8．褐灰色（10YR6/1）極細粒砂～細粒砂
9．灰色（5Y6/1）極細粒砂　細粒砂を含む。基盤層ブロックを少量含む。
10．褐灰色（10YR6/1）極細粒砂　中粒砂を少量含む。
11．灰色（5Y5/1）極細粒砂にシルトを含む。基盤層ブロックを少量含む。
12．黄灰色（2.5Y5/1）細粒砂～中粒砂　基盤層ブロックを少量含む。
13．黄灰色（2.5Y5/1）極細粒砂　中粒砂を少量含む。基盤層ブロックを少量含む。
14．灰色（5Y5/1）極細粒砂　基盤層ブロックを少量含む。

2．調査の概要

（1）基本層序

当調査区では、現地表から約0.8～1.1m下まで現代の造成土、その下に耕作土、床土、灰～灰黄色細粒砂、褐灰色極細粒砂、段丘形成層となる明黄色極細粒砂層を確認した。また、これらの堆積土のうち、褐灰色極細粒砂層から極少量の遺物が出土した。

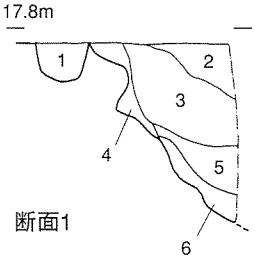
今回の調査では、遺構はすべて段丘形成層上面で検出したが、壁面における土層観察の結果、多くの遺構はその上層に堆積する褐灰色極細粒砂層の上面から掘削されていたことが確認された。

（2）検出した遺構

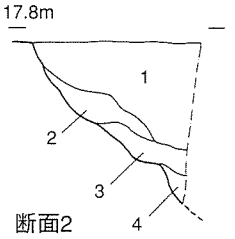
当調査区からは多数の柱穴・土坑と溝３条を検出した。これらの遺構は、上層に堆積する褐灰色極細粒砂層の上面から掘削されているため、検出時に保存状態が良好なものは少なかった。また、柱穴からは建物に復元できるものはなかった。ただし、それぞれ北東あるいは北西方向に沿っていくつかの柱穴列は復元できるので、簡素な掘立柱建物が展開した可能性は十分にある。以下、主要な遺構について報告する。

溝　1　調査区東部で検出した、南北９m以上に伸びる溝である。そのほとんどが調査区の東側にあるため、規模は明確にはできない。ただし、検出部分で幅0.4m、深さ0.45mをはかるので、相当の規模になると想定できる。堆積土のうち、上層部分は人為的な埋め戻しによる堆積土、下層は流出した基盤層が再堆積したものとなる。この間に止水性の堆積土は確認できないことから、水が流れたり、常時溜まるような環境にはなかったと判断でき、河川や水路の可能性は否定できる。一方、柱穴などの遺構は、調査区の東側に向かって密度を増す傾向にある。このことをふまえると、この溝が建物群の周囲に巡らされた区画溝になる可能性が高い。

なお、溝１からは古墳時代後期以降の所産と考えられる須恵器甕の体部片が出土しており、それ以降に掘



断面1
1．にぶい黄褐色（10YR5/4）細粒砂～粗粒砂　基盤層ブロックを極少量含む。
2．にぶい黄橙色（10YR6/3）細粒砂（粘性強い）　中粒砂を極少量含む。基盤層ブロックを極少　量含む。
3．褐灰色（10YR6/1）極細粒砂　同色中粒砂を層状に含む。基盤層ブロックを少量含む。
4．褐灰色（10YR6/1）極細粒砂（粘性強い）基盤層の再堆積土を多く含む。
5．褐灰色（10YR6/1）シルト　中粒砂を極少量含む。基盤層ブロックを極少量含む。
6．褐灰色（10YR6/1）シルト　中粒砂を多く含む。基盤層ブロックを多く含む。



断面2
1．褐灰色（10YR6/1）細粒砂～粗粒砂　基盤層ブロックを少量含む。
2．褐灰色（10YR6/1）中粒砂～粗粒砂　基盤層の層状ブロックが交互に堆積する。
3．褐灰色（10YR6/1）細粒砂　中粒砂を多く含む。基盤層ブロックを極少量含む。
4．褐灰色（10YR6/1）中粒砂～粗粒砂　基盤層ブロックを極少量含む。

0　50cm

第26図　溝１断面図（１：20）

削されたと推定される。

溝　2　調査区南東端で検出した幅25㎝、深さ５㎝前後の溝である。本来は包含層上面から掘削されていたと考えられるので、実際の規模はこれ以上となる。この溝からは古墳時代後期以降の須恵器片が出土しており、溝１と同じくそれ以降の所産と推定される。

3．まとめ

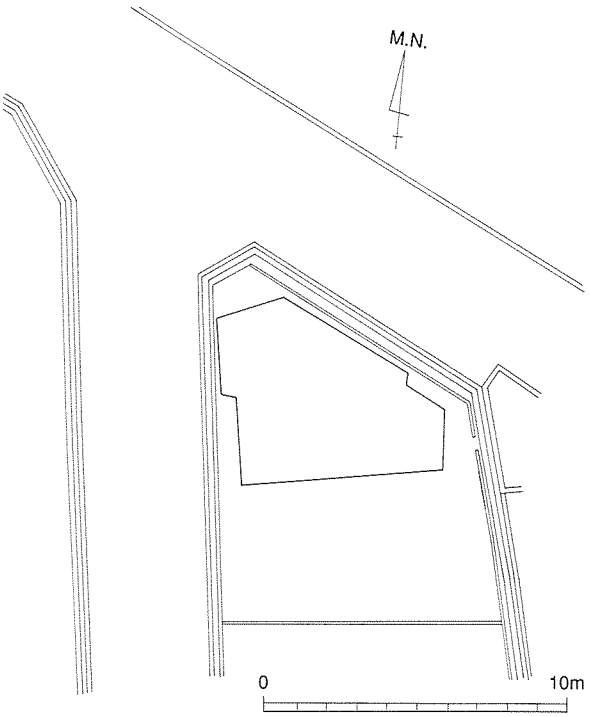
今回の調査は、蛍池西遺跡北部における集落の初めての発掘調査となる。これまで、この遺跡の中部から南部にかけて、阪神高速自動車道池田延伸線の建設に伴って、本格的な発掘調査が行なわれてきた。その調査では、弥生時代終末期～古墳時代中期の集落・河川、古墳時代後期～奈良時代の粘土採掘坑群、平安時代中期の建物群などが確認されている。また、第３次調査区では、弥生時代終末期から古代の溝が確認されている。しかし、今回の調査区と阪神高速自動車道の調査区などは離れており、今のところそれぞれの調査区を関連づけることはできない。

一方、今回の調査で出土した遺物は少なく、溝１・溝２が古墳時代以降に推定できる以外に、各遺構の時期は特定しにくい。また検出した柱穴から、明確な建物は復元できなかったため、集落の性格については今後の課題としておきたい。ただし、今回検出した溝１・溝２は、調査区の東側へさらに広がることは明らかである。特に、調査区の東側に古墳時代以降の建物群の中心があることは、十分に予見される。よって、周辺における開発においては、集落および単独の建物群が存在することを、特に留意する必要がある。

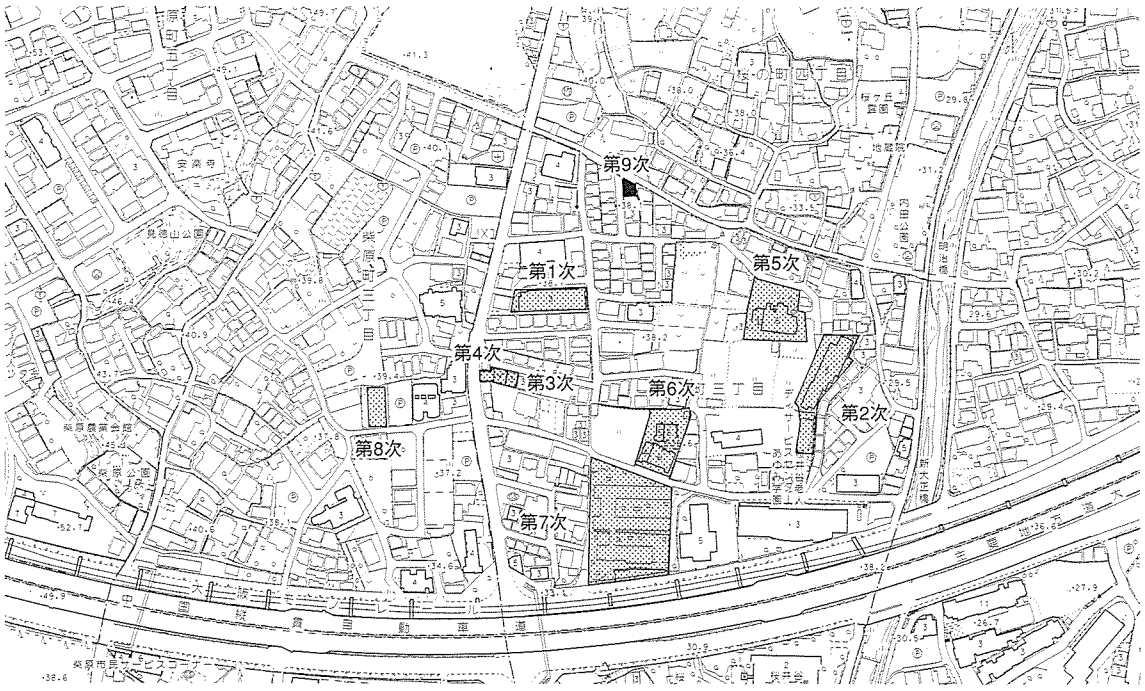
第Ⅶ章　内田遺跡第９次調査

１．調査の経緯

当調査区は桜の町３丁目26－１に所在する。平成21年７月21日に提出された埋蔵文化財発掘調査の届出に基づいて、平成21年８月６日に確認調査を行ったところ、地表下50cmで遺構面を確認した。予定建物の基礎は当初遺構面に達しない計画であったが、その後、設計変更で地表下２ｍに及ぶ柱状地盤改良工事を実施することになったため、遺構面の破壊は免れず、協議の結果、本発掘調査を実施することになった。調査期間は平成21年９月１日から９月10日、調査面積は28㎡である。



第27図　調査範囲図（１：250）



第28図　調査地位置図（１：5,000）

2． 調査の概要

（1） 遺跡の概要

内田遺跡は千里川西岸の中～低位段丘上、標高35～38mのなだらかな地形上に立地する集落遺跡である。昭和62年（1987）の遺跡発見からこれまでに実施された8回の発掘調査の結果、遺跡の盛期は古墳時代後期～飛鳥時代（6世紀後半～7世紀初頭）であることが判明している。この古墳時代後期～飛鳥時代の集落は、府道箕面豊岡線よりも東方に展開しており、竪穴住居および掘立柱建物で構成され、千里川流域における当該期の集落としては本町遺跡に次ぐ規模であったとみられる。さらに遺跡北方、千里川上流域に展開する桜井谷窯跡群における須恵器生産に直接関与した集落であった可能性が高い。その一方で、遺跡東端部の段丘末端付近でなされた第2次調査では縄文後期の遺構と遺物が、同西端部（柴原町3丁目地内）で実施された第8次調査においては幅約3mの堀を伴う中世後期（15～16世紀代）の居館跡が検出されるなど、他時期の集落関連遺構の存在も確認されている。

遺跡北端部に位置する今回の調査地一帯は、内田遺跡のなかでも実態が不明瞭な地域であったが、発掘調査に先立つ確認調査時に中世とみられる土器片を伴う遺構が検出されたことから、調査地一帯には該期の集落関連遺構が所在する可能性がある。

（2） 基本層序

当調査区における基本層序は4層で構成され、現地表面から遺構検出面まではおよそ50cmの深度をはかる。

第1層　現代の盛土である。層厚は約40cmである。

第2層　にぶい黄橙色（10YR6/4）極細粒砂。層厚は約5cmである。宅地化直前段階までの耕作土である。

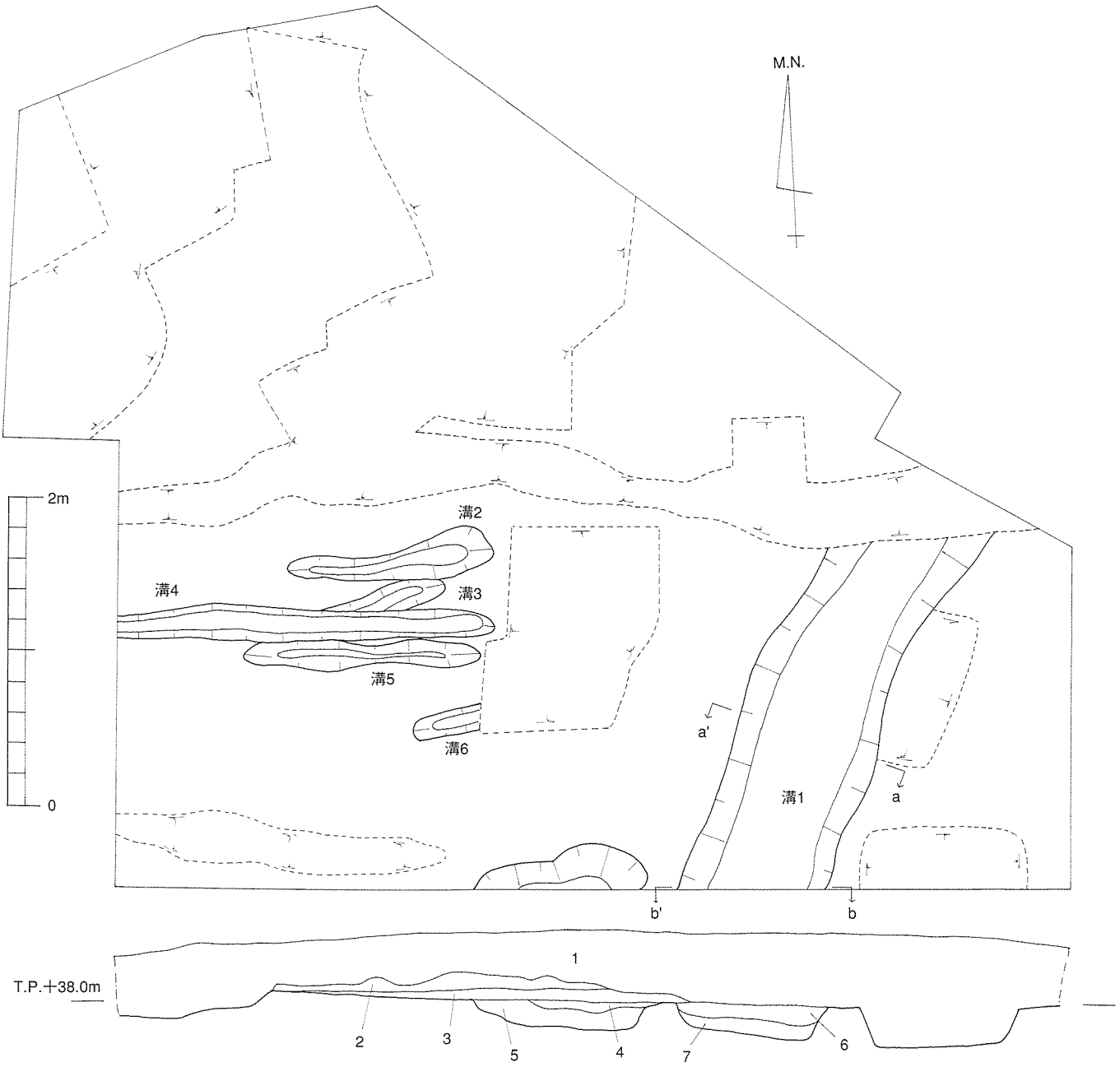
第3層　灰黄褐色極細粒砂（10YR5/3）極細粒砂。層厚約5cmである。古墳時代～近世にわたる遺物包含層である。

第4層　明黄褐色（10YR6/6）極細粒砂。当調査区における基盤層・遺構検出面である。

（3）検出した遺構

基盤層（第4層）上面において検出した遺構は第29図に示す通りであり、その概要は以下の通りである。

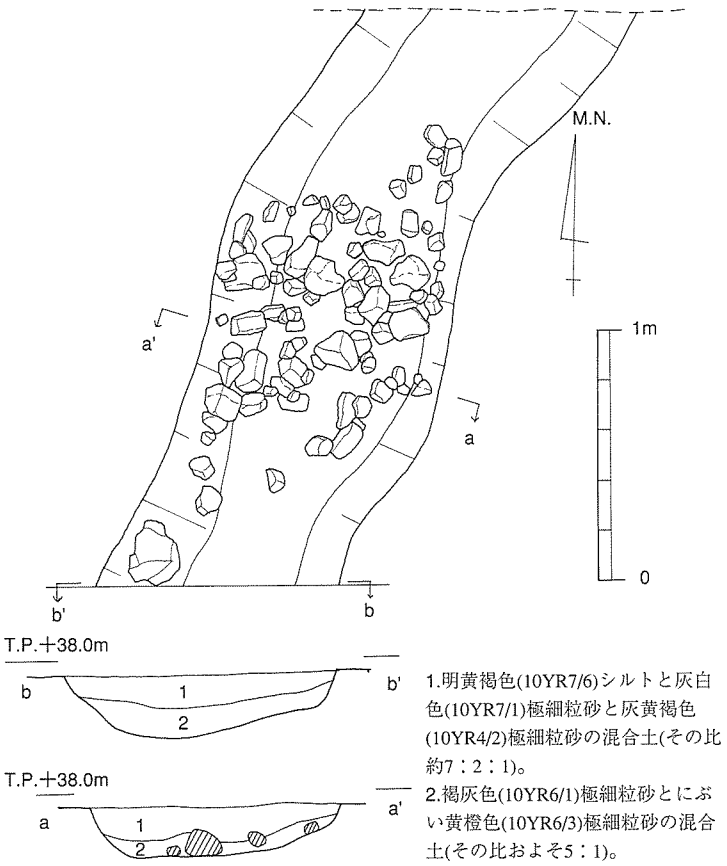
・溝1　調査区内における検出幅、深度はそれぞれ約1m、0.15mであり、検出状態からして調査区外へと直線状に伸びていくとみられる。溝1は、基底面はほぼ平坦であり、埋土を観察する限り、機能時は水路など常に水を張った状態よりは、土地境界を明示するための区画溝などといった水路以外の利用形態が想定される。また、溝1の基底面付近では、大小の角礫（最



1.現代の盛土。　2.にぶい黄橙色(10YR6/4)極細粒砂。旧耕作土。礫(直径1cm未満)を少量含む。
3.灰黄褐色極細粒砂(10YR5/3)極細粒砂。古墳時代～近世の遺物包含層。
4.にぶい黄褐色(10YR5/3)極細粒砂。灰白色(10YR7/1)極細粒砂を約20％含む。
5.明黄褐色(10YR7/6)シルト～極細粒砂。灰黄褐色極細粒砂ブロック(直径2cm以下)を少量含む。
6.明黄褐色(10YR7/6)シルトと灰白色(10YR7/1)極細粒砂、灰黄褐色(10YR4/2)極細粒砂の混合土(比はおよそ7：2：1)。
7.褐灰色(10YR6/1)極細粒砂とにぶい黄橙色(10YR6/4)極細粒砂の混合土(約5：1)。
8.明黄褐色(10YR6/6)シルト～極細粒砂。当該調査区の基盤層。

第29図　調査区平面・断面図（１：40）

大径５～20cm）が集中する箇所（以下、「礫群」と呼ぶ）がみとめられた（第30図）。礫群は東西約１ｍ、南北約1.3ｍの範囲に集中し、大半の礫は重複せず基底面を覆うような検出状態であったことから、人為的に溝の中に配置された可能性が高く、内田遺跡西端で検出された中世居



第30図　溝１平面・断面図（１：30）

館（第８次調査）や旧内田村集落との関連について検討が必要な遺構である。礫群中に一部焦げた痕跡を残すものが存在することは、これらの礫が当時の生活のなかで使用されたことを示すものと考えたい。

溝１出土の礫はもともと調査地下で産出されるものではなく、外部から持ち込まれたと考えられる。その場合の産出地の候補としては、調査地東方を貫流する千里川が挙げられる。現在、桜の町付近における千里川は洪水対策として護岸工事が施されているが、近世以前は礫を採集することが可能な環境であったと考えられる。

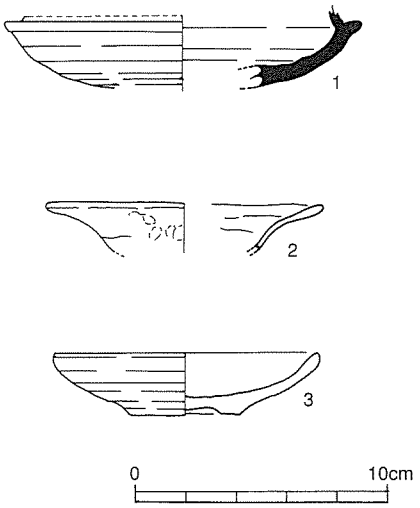
当該溝中からは少量ながら土師器や須恵器砕片が出土しており、なかでも土師器小皿片の特徴を参考にすれば、溝１が利用された時代は中世とみられる。

・溝２～溝６　調査区西部で検出した東西方向の溝跡である。これらは、検出幅15～30cm、深度５cm未満の非常に深度の浅い溝跡群であり、検出状態からほぼ同時期とみてよいと考えられる。一方、溝１との関係は、溝の方向が平行または直交のいずれにも該当しないことと、埋土の特徴が異なることから同時併存はなかったであろう。溝を埋めた土からは少量ながら土師器・磁器破片が出土しており、これら遺物の特徴と埋土の観察から、溝跡群は近世以降の耕作に伴う鋤溝跡とみられる。

（４）出土遺物

今回、遺構に伴う遺物は溝１～溝６からの中世～近世遺物（土師器、磁器）であったが、先述の通り少量かつ砕片であったため、図化し得ていない。一方、遺構に伴わない遺物は大半が基本層３層（遺物包含層）からの出土であり、なかでも須恵器片が目立った。第31図はいずれも３層出土である。１の須恵器坏身は端部が欠けているものの、形態的な特徴から古墳時代終末期頃（TK209型式）の時期が考えられる。２の土師器はいわゆる「へそ皿」と呼ばれる小皿片である。３は肥前系陶器皿であろう。復元口縁部直径は約11cmである。２・３は16～17世紀

代頃の遺物とみられ、付近に該期集落の存在を示唆している。



第31図　出土遺物（１：３）

３．まとめ

今回の調査では中世の集落関連遺構を確認した。中世集落は、第８次調査成果に示されるように遺跡西半部（旧柴原村一帯）が注目される所であったが、今回の成果によって調査区一帯にも中世集落が所在する可能性が出て来た。明治18年の仮製地形図（大日本帝国陸軍陸地測量部作成）に当該調査地点を重ね合わせると、調査地点は旧内田村の一角であることから、今回確認された溝１は、内田村集落に先立つ中世集落の一部である可能性も考えられる。ただし、中世集落については今回溝跡を確認したのみで、居住域（建物跡群）は未検出である。よって今後は、遺跡東半部における中世集落の動態を検討するための契機として、今回の調査成果は重要な意義を持つと考えられる。

その一方で、古墳時代後期～飛鳥時代の集落については、調査地付近では縁辺部であろうことも判明し、該期集落の北限を検討する上でも大きな指標を得ることになった。

第Ⅷ章　確認調査の成果

確認調査の概要

昨年度１月～３月および今年度４月～12月の間に個人住宅を対象に行なった確認調査は、51件を数え、昨年度14件、今年度37件という内訳である。このうち、15件の調査で遺構等が確認され、うち４件については協議の結果、豊島北遺跡第５次調査、本町遺跡第36次調査、内田遺跡第９次調査および新免遺跡第63次調査として本格的な発掘調査を行なうこととなった。残り11件については、建物基礎の設計変更などから、本格的な発掘調査には至っていない。

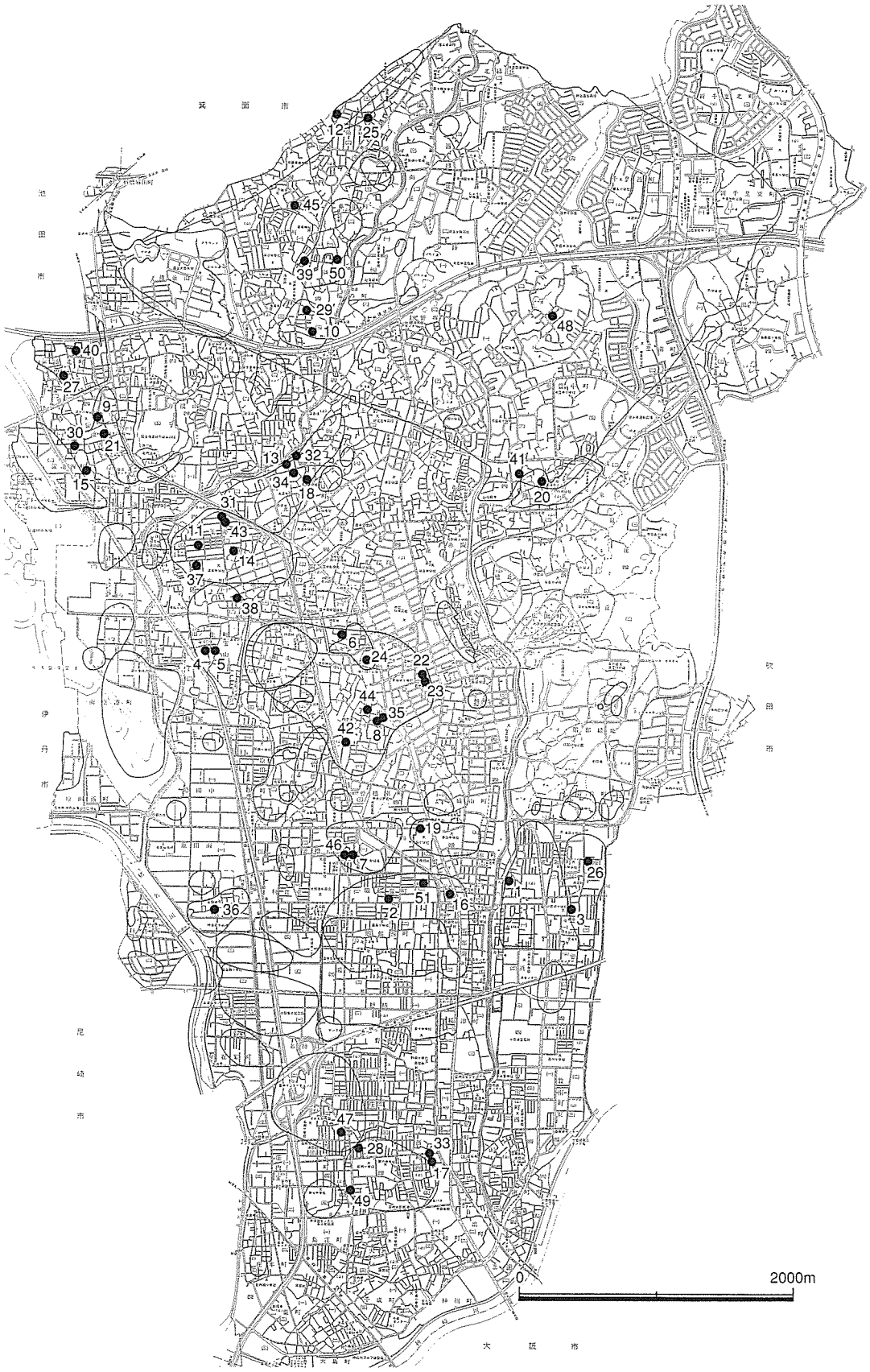
以下、確認調査の概要について報告する。第32図に掲載した調査地点位置図の番号および各確認調査の番号は、下表の番号に対応する。

第１表　確認調査一覧表

番号	遺跡名	所在地	調査日	調査原因	面積(㎡)	遺構等の有無	調査後の処置	担当者	備考
1	小曽根遺跡	北条町1丁目312－23	20090115	個人住宅建設	30.16	無	着工	陣内	
2	穂積遺跡	服部豊町2丁目82－8	20090129	個人住宅建設	64.27	無	着工	陣内	
3	小曽根遺跡	小曽根1丁目219－6	20090212	個人住宅建設	46.52	無	着工	陣内	
4	山ノ上遺跡	山ノ上町90－2の一部	20090212	個人住宅建設	68.81	無	着工	陣内	
5	山ノ上遺跡	山ノ上町90－2の一部	20090212	個人住宅建設	107.50	無	着工	陣内	
6	桜塚古墳群	中桜塚2丁目123	20090219	個人住宅建設	41.89	無	着工	陣内	
7	豊島北遺跡	曽根南町1丁目156－9,10	20090226	個人住宅建設	66.35	有	本調査(豊島北5次)	橋田	
8	桜塚古墳群	南桜塚1丁目15－1	20090305	個人住宅建設	69.31	無	着工	陣内	
9	蛍池遺跡	蛍池中町3丁目128	20090305	個人住宅建設	128.10	有	再立会後、慎重工事	陣内	基礎浅
10	内田遺跡	桜の町3丁目47－5	20090305	個人住宅建設	53.93	有	再立会後、慎重工事	陣内	基礎浅
11	新免遺跡	玉井町3丁目14－9	20090312	個人住宅建設	63.18	有	再立会後、慎重工事	陣内	設計変更
12	太鼓塚古墳群	永楽荘2丁目233－3	20090312	個人住宅建設	54.94	無	着工	陣内	
13	本町遺跡	本町4丁目166－4	20090326	個人住宅建設	53.25	有	本調査(本町36次)	橋田	
14	新免遺跡	玉井町2丁目124	20090326	個人住宅建設	65.02	無	着工	橋田	
15	蛍池西遺跡	蛍池西町1丁目4－2,6,7	20090402	個人住宅建設	68.31	無	着工	陣内	
16	穂積遺跡	服部元町1丁目81	20090430	個人住宅建設	51.11	無	着工	橋田	
17	庄内遺跡	庄内西町4丁目38－14	20090430	個人住宅建設	50.22	無	着工	橋田	
18	本町遺跡	本町4丁目49	20090521	個人住宅建設	52.80	有	再立会後、慎重工事	橋田	基礎浅
19	服部遺跡	曽根東町6丁目10－4	20090521	個人住宅建設	35.81	無	着工	橋田	
20	熊野田遺跡・桜井谷窯跡群	熊野町4丁目98－3	20090604	個人住宅建設	54.00	無	着工	橋田	
21	麻田藩陣屋跡	蛍池中町3丁目32－2	20090602～30	保育所建設	81.00	有	再立会後、慎重工事	陣内	確認調査と同時に本調査(6次地(第13次)
22	桜塚古墳群	南桜塚3丁目104－2	20090611	個人住宅建設	48.66	無	着工	橋田	
23	桜塚古墳群	南桜塚3丁目104－2	20090611	個人住宅建設	49.27	無	着工	橋田	
24	岡町遺跡・桜塚古墳群	中桜塚2丁目353－8	20090618	個人住宅建設	70.78	未確認	着工	橋田	基礎浅
25	太鼓塚古墳群	永楽荘3丁目30－3	20090625	個人住宅建設	62.41	無	着工	橋田	
26	北条遺跡	北条町4丁目1871－11	20090702	個人住宅建設	44.71	未確認	着工	陣内	基礎浅
27	蛍池北遺跡	蛍池北町2丁目16－2	20090716	個人住宅建設	43.39	無	着工	陣内	
28	庄内遺跡	庄内幸町3丁目112－6	20090730	個人住宅建設	54.08	無	着工	橋田	
29	内田遺跡	桜の町3丁目26－1	20090806	個人住宅建設	52.86	有	本調査(内田9次)	橋田	
30	蛍池西遺跡	蛍池西町1丁目43－7,8	20090806	個人住宅建設	51.75	無	着工	橋田	
31	新免遺跡	玉井町2丁目213－1	20090806	個人住宅建設	59.85	有	再立会後、慎重工事	橋田	設計変更
32	本町遺跡	本町4丁目184－1	20090820	個人住宅建設	56.30	無	着工	陣内	
33	庄内遺跡	庄内西町4丁目38－8	20090821	個人住宅建設	66.24	無	着工	陣内	
34	本町遺跡	本町4丁目71－5,6	20090827	個人住宅建設	80.00	有	慎重工事	橋田	基礎浅
35	桜塚古墳群	南桜塚1丁目9－2	20090903	個人住宅建設	45.02	無	着工	陣内	
36	利倉遺跡	利倉2丁目903－10	20090910	個人住宅建設	37.30	無	着工	陣内	

確認調査一覧表

37	新免遺跡	立花町1丁目150－5	20090917	個人住宅建設	50.94	有	再立会後、慎重工事	陣内	基礎浅
38	山ノ上遺跡	立花町1丁目59	20090917	個人住宅建設	51.75	無	着工	陣内	
39	少路遺跡	宮山町1丁目16－4,7	20090924	個人住宅建設	82.69	無	着工	陣内	
40	蛍池北遺跡	蛍池北町1丁目130－5	20091001	個人住宅建設	44.71	未確認	着工	陣内	基礎浅
41	桜井谷窯跡群	熊野町4丁目50－1の一部	20091009	個人住宅建設	48.65	無	着工	陣内	
42	桜塚古墳群	南桜塚1丁目132－2	20091009	個人住宅建設	62.93	無	着工	陣内	
43	新免遺跡	玉井町2丁目213－3	20091022	個人住宅建設	65.55	有	本調査(新免63次)	橘田	
44	桜塚古墳群	南桜塚1丁目27－5	20091029	個人住宅建設	67.33	有	着工	橘田	基礎浅
45	桜井谷窯跡群	宮山町4丁目15－4	20091029	個人住宅建設	58.81	無	着工	橘田	
46	豊島北遺跡	曽根南町1丁目750－5の一部	20091029	個人住宅建設	41.28	無	着工	橘田	
47	島田遺跡	庄内栄町3丁目18－1	20091105	個人住宅建設	37.26	有	再立会後、慎重工事	陣内	遺構無
48	桜井谷窯跡群	東豊中町3丁目49－2	20091112	個人住宅建設	263.71	無	着工	陣内	
49	庄内遺跡	庄内栄町4丁目83－4	20091112	個人住宅建設	81.51	無	着工	陣内	
50	少路遺跡	春日町1丁目64	20091112	個人住宅建設	76.23	無	着工	陣内	
51	穂積遺跡	服部豊町1丁目204-18	20091203	個人住宅建設	70.38	有	着工	橘田	遺物無



第32図　確認調査地点位置図

2009－01　小曽根遺跡

調査日：平成21年（2009年）1月15日

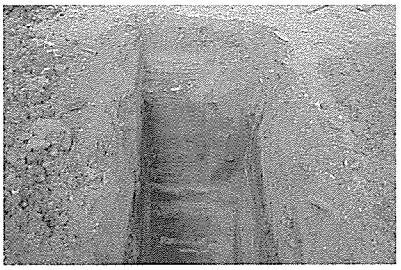
調査場所：豊中市北条町1丁目312-23

調査対象面積：30.16㎡

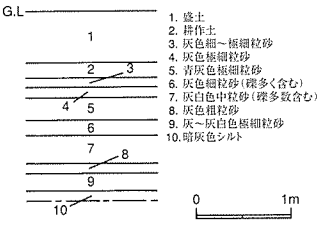
調査の方法：重機によりトレンチ1か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：掘削深度（地表下200cm）内において、遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第33図　トレンチ掘削状況



第34図　トレンチ断面図

2009－02　穂積遺跡

調査日：平成21年（2009年）1月29日

調査場所：豊中市服部豊町2丁目82-8

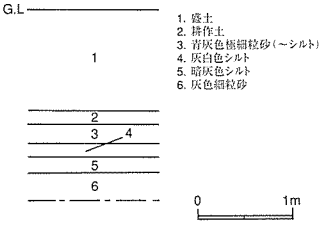
調査対象面積：64.27㎡

調査の方法：重機によりトレンチ1か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：掘削深度（地表下200cm）内において、遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。

第35図　トレンチ掘削状況



第36図　トレンチ断面図

2009－03　小曽根遺跡

調査日：平成21年（2009年）2月12日

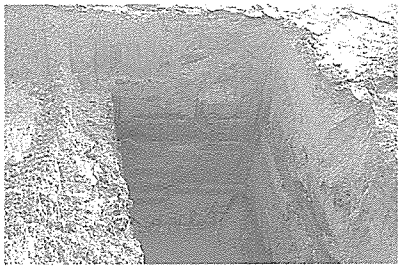
調査場所：豊中市小曽根1丁目219-6

調査対象面積：46.52㎡

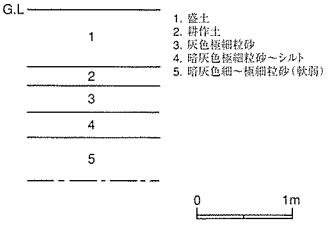
調査の方法：重機によりトレンチ1か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：掘削深度（地表下180cm）内において、遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第37図　トレンチ掘削状況



第38図　トレンチ断面図

2009－04　山ノ上遺跡

調査日：平成21年（2009年）2月12日

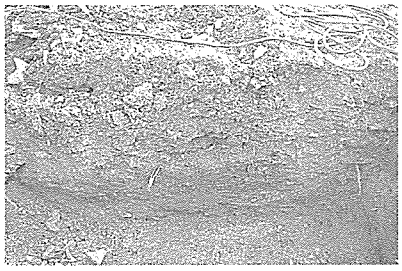
調査場所：豊中市山ノ上町90-2の一部

調査対象面積：68.81㎡

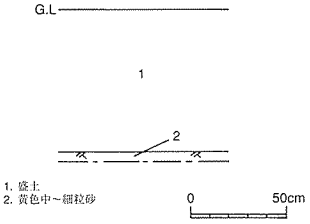
調査の方法：重機によりトレンチ1か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：地表下75cmにおいて基盤層を検出したが、遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第39図　トレンチ掘削状況



第40図　トレンチ断面図

2009－05　山ノ上遺跡

調査日：平成21年（2009年）２月12日

調査場所：豊中市山ノ上町90-2の一部

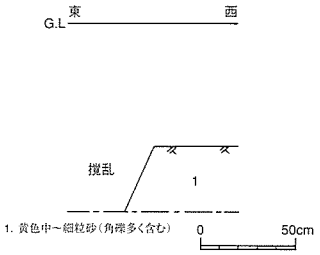
調査対象面積：107.50㎡

調査の方法：重機によりトレンチ１か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：地表下65cmにおいて基盤層を検出したが、遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。

第41図　トレンチ掘削状況



第42図　トレンチ断面図

2009－06　桜塚古墳群

調査日：平成21年（2009年）２月19日

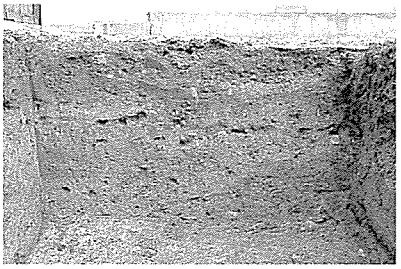
調査場所：豊中市中桜塚２丁目123

調査対象面積：41.89㎡

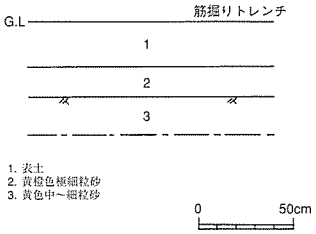
調査の方法：重機により筋掘りトレンチ１か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：地表下40cmにおいて基盤層を検出したが、古墳関連の遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第43図　トレンチ掘削状況



第44図　トレンチ断面図

2009－07　豊島北遺跡

調査日：平成21年（2009年）２月26日

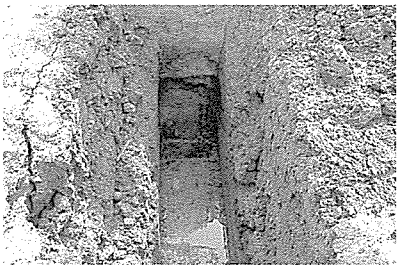
調査場所：豊中市曽根南町１丁目156-9,10

調査対象面積：66.35㎡

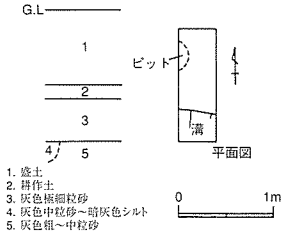
調査の方法：重機によりトレンチ１か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：地表下140cmにおいて古墳時代の溝・柱穴と考えられるピットを検出した。

調査後の処置：協議後、発掘調査を行う。（豊島北遺跡第５次調査）



第45図　トレンチ掘削状況



第46図　トレンチ平面・断面図

2009－08　桜塚古墳群

調査日：平成21年（2009年）３月５日

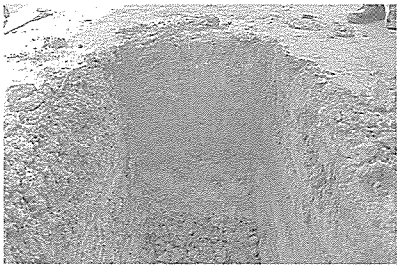
調査場所：豊中市南桜塚１丁目15-1

調査対象面積：69.31㎡

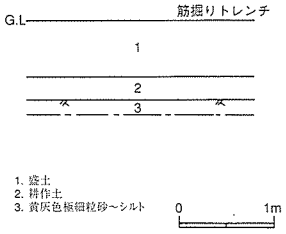
調査の方法：重機により筋掘りトレンチ１か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：地表下85～90cmにおいて基盤層を検出したが、古墳関連の遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第47図　トレンチ掘削状況



第48図　トレンチ断面図

2009－09　蛍池遺跡

調査日：平成21年（2009年）３月５日

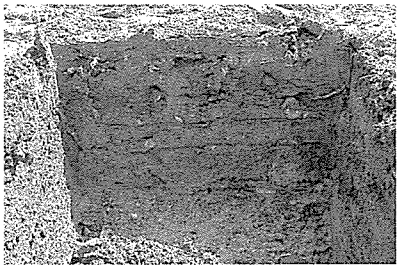
調査場所：豊中市蛍池中町３丁目128

調査対象面積：128.10㎡

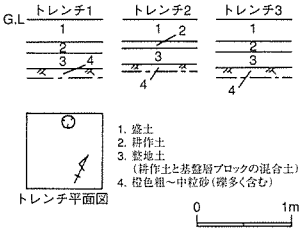
調査の方法：重機によりトレンチ３か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：トレンチ１において地表下52㎝で基盤層を、その上面で遺構を検出したが、トレンチ２・３では遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：基礎工事は遺構検出面に達しないため、再立会後、慎重工事を指示。



第49図　トレンチ掘削状況



第50図　トレンチ平面・断面図

2009－10　内田遺跡

調査日：平成21年（2009年）３月５日

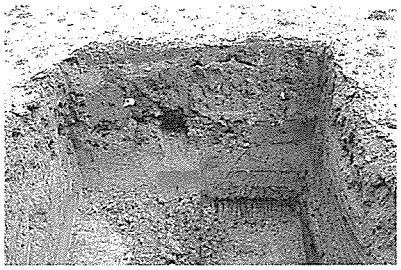
調査場所：豊中市桜の町３丁目47-5

調査対象面積：53.93㎡

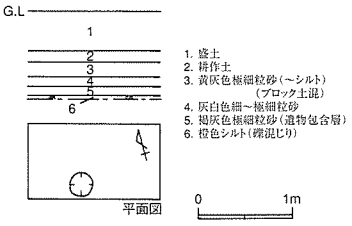
調査の方法：重機によりトレンチ１か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：地表下82㎝において遺物包含層を、同90㎝において基盤層とその上面で明確な遺構を検出した。

調査後の処置：基礎工事は遺物包含層に達しないため、再立会後、慎重工事を指示。



第51図　トレンチ掘削状況



第52図　トレンチ平面・断面図

2009－11　新免遺跡

調査日：平成21年（2009年）３月12日

調査場所：豊中市玉井町３丁目14-9

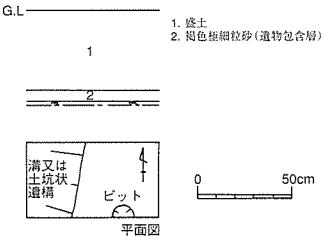
調査対象面積：63.18㎡

調査の方法：重機によりトレンチ１か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：地表下43㎝において遺物包含層を、同48㎝では基盤層とその上面で明確な遺構を検出した。

調査後の処置：建物基礎の設計変更により、再立会後、慎重工事を指示。

第53図　トレンチ掘削状況



第54図　トレンチ平面・断面図

2009－12　太鼓塚古墳群

調査日：平成21年（2009年）３月12日

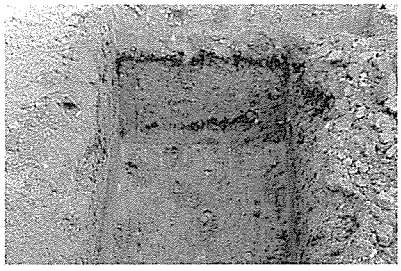
調査場所：豊中市永楽荘２丁目233-3

調査対象面積：54.94㎡

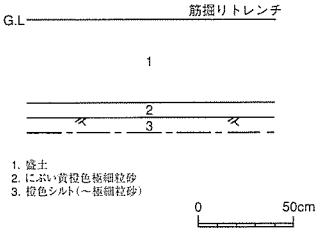
調査の方法：重機により筋掘りトレンチ１か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：地表下52㎝において基盤層を検出したが、遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第55図　トレンチ掘削状況



第56図　トレンチ断面図

2009－13　本町遺跡

調査日：平成21年（2009年）３月26日

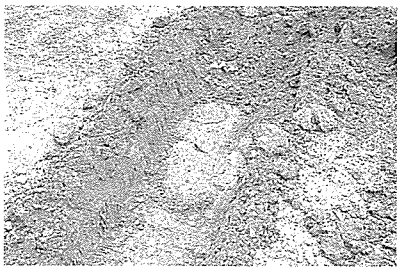
調査場所：豊中市本町４丁目166-4

調査対象面積：53.25㎡

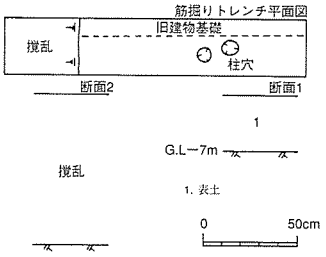
調査の方法：重機により筋掘りトレンチ１か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：地表下30cmにおいて基盤層を確認し、その上面で柱穴２基を検出した。

調査後の処置：協議後、発掘調査を行う。（本町遺跡第36次調査）



第57図　トレンチ掘削状況



第58図　トレンチ平面・断面図

2009－14　新免遺跡

調査日：平成21年（2009年）３月26日

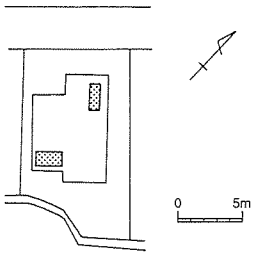
調査場所：豊中市玉井町２丁目124

調査対象面積：65.02㎡

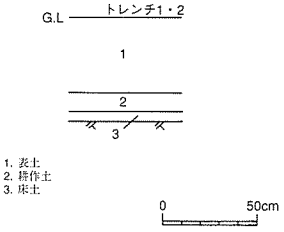
調査の方法：重機によりトレンチ２か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：掘削深度（地表下55cm）内において、遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第59図　トレンチ配置図



第60図　トレンチ断面図

2009－15　蛍池西遺跡

調査日：平成21年（2009年）４月２日

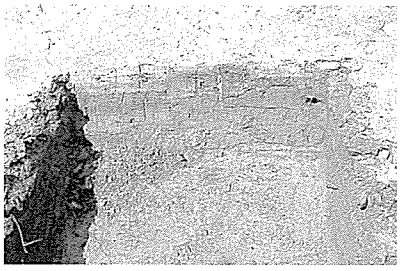
調査場所：豊中市蛍池西町１丁目 4-2,4-6,4-7

調査対象面積：68.31㎡

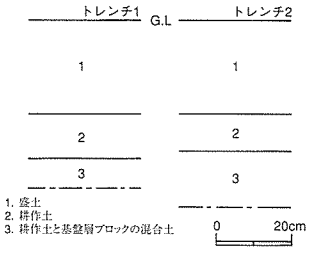
調査の方法：重機によりトレンチ２か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：掘削深度（地表下50cm）内において、遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第61図　トレンチ掘削状況



第62図　トレンチ断面図

2009－16　穂積遺跡

調査日：平成21年（2009年）４月30日

調査場所：豊中市服部元町１丁目81

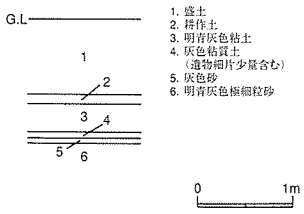
調査対象面積：51.11㎡

調査の方法：重機によりトレンチ１か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：掘削深度（地表下130cm）内において、遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。

第63図　トレンチ掘削状況



第64図　トレンチ断面図

2009－17　庄内遺跡

調査日：平成21年（2009年）4月30日

調査場所：豊中市庄内西町4丁目38-14

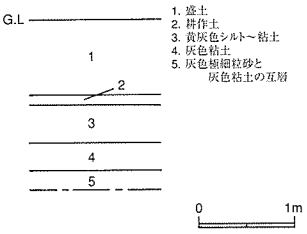
調査対象面積：50.22㎡

調査の方法：重機によりトレンチ1か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：掘削深度（地表下180㎝）内において、遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。

第65図　トレンチ掘削状況



第66図　トレンチ断面図

2009－18　本町遺跡

調査日：平成21年（2009年）5月21日

調査場所：豊中市本町4丁目49

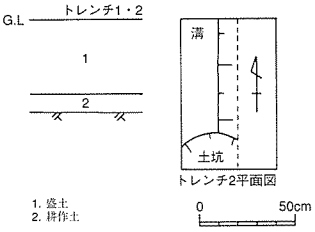
調査対象面積：52.80㎡

調査の方法：重機によりトレンチ2か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：地表下50㎝において基盤層を、その上面から遺構を検出した。

調査後の処置：建物の基礎掘削深度は耕作土上面にとどまることから、慎重工事を指示。

第67図　トレンチ掘削状況



第68図　トレンチ平面・断面図

2009－19　服部遺跡

調査日：平成21年（2009年）5月21日

調査場所：豊中市曽根東町6丁目10-4

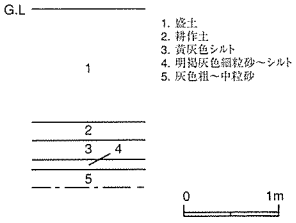
調査対象面積：35.81㎡

調査の方法：重機によりトレンチ1か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：掘削深度（地表下190㎝）内において、遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。

第69図　トレンチ掘削状況



第70図　トレンチ断面図

2009－20　熊野田遺跡・桜井谷窯跡群

調査日：平成21年（2009年）6月4日

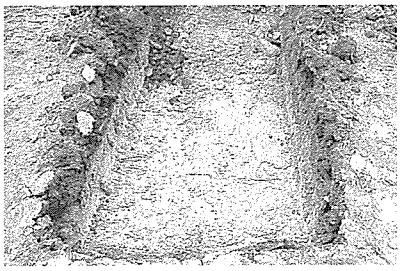
調査場所：豊中市熊野町4丁目98-3

調査対象面積：54.00㎡

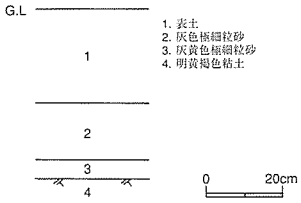
調査の方法：重機によりトレンチ1か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：掘削深度（地表下45㎝）内において、遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第71図　トレンチ掘削状況



第72図　トレンチ断面図

2009－22　桜塚古墳群

調査日：平成21年（2009年）6月11日

調査場所：豊中市南桜塚3丁目104-2

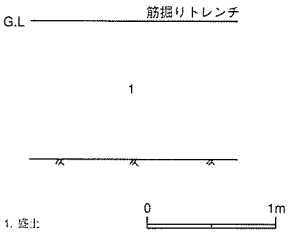
調査対象面積：48.66㎡

調査の方法：重機により筋堀りトレンチ1か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：既存建物の基礎によって著しく削平されており、遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。

第73図　トレンチ掘削状況



第74図　トレンチ断面図

2009－23　桜塚古墳群

調査日：平成21年（2009年）6月11日

調査場所：豊中市南桜塚3丁目104-2

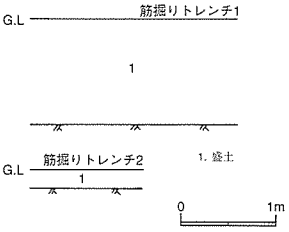
調査対象面積：49.27㎡

調査の方法：重機により筋堀りトレンチ2か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：既存建物の基礎によって著しく削平されており、遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。

第75図　トレンチ掘削状況



第76図　トレンチ掘削状況

2009－24　岡町遺跡・桜塚古墳群

調査日：平成21年（2009年）6月18日

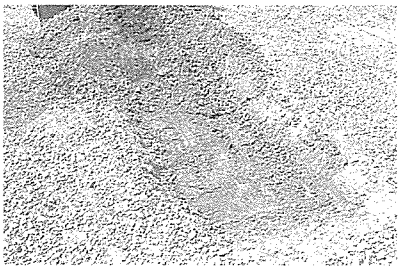
調査場所：豊中市中桜塚2丁目353-8

調査対象面積：70.78㎡

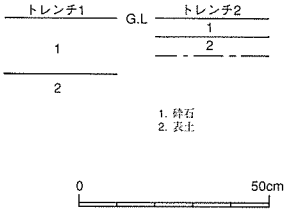
調査の方法：重機によりトレンチ2か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：掘削深度（地表下15cm）内において、遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第77図　トレンチ掘削状況



第78図　トレンチ掘削状況

2009－25　太鼓塚古墳群

調査日：平成21年（2009年）6月25日

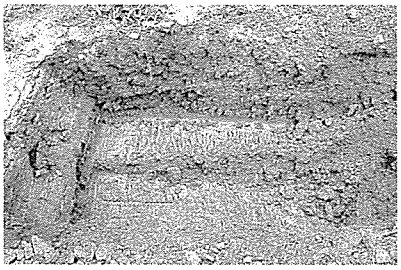
調査場所：豊中市永楽荘3丁目30-3

調査対象面積：62.41㎡

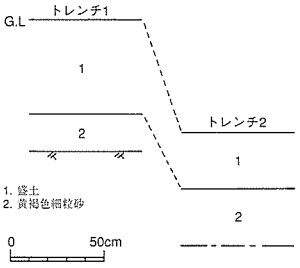
調査の方法：重機によりトレンチ2か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：掘削深度（地表下50・70cm）内において、遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第79図　トレンチ掘削状況



第80図　トレンチ断面図

2009－26　北条遺跡

調査日：平成21年（2009年）7月2日

調査場所：豊中市北条町4丁目1871-11

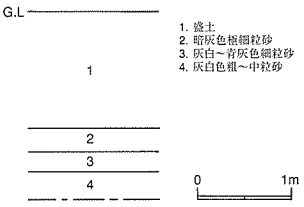
調査対象面積：44.71㎡

調査の方法：重機によりトレンチ1か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：掘削深度（地表下200cm）内において、遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。

第81図　トレンチ掘削状況



第82図　トレンチ断面図

2009－27　蛍池北遺跡

調査日：平成21年（2009年）7月16日

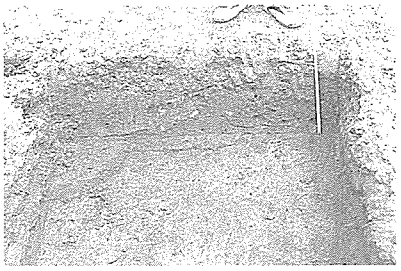
調査場所：豊中市蛍池北町2丁目16-2

調査対象面積：43.39㎡

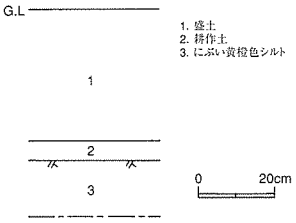
調査の方法：重機によりトレンチ1か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：地表下40cmにおいて基盤層を検出したが、遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第83図　トレンチ掘削状況



第84図　トレンチ断面図

2009－28　庄内遺跡

調査日：平成21年（2009年）7月30日

調査場所：豊中市庄内幸町3丁目112-6

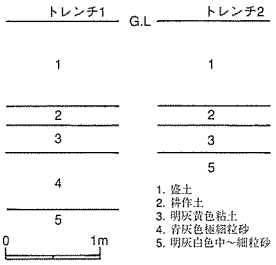
調査対象面積：54.08㎡

調査の方法：重機によりトレンチ2か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：掘削深度（地表下140・200cm）内において、遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。

第85図　トレンチ掘削状況



第86図　トレンチ断面図

2009－29　内田遺跡

調査日：平成21年（2009年）8月6日

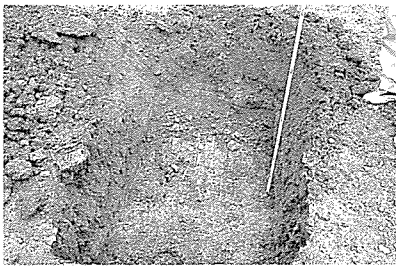
調査場所：豊中市桜の町3丁目26-1

調査対象面積：52.86㎡

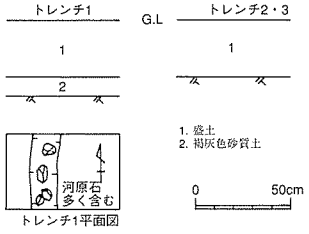
調査の方法：重機により坪掘りトレンチ2か所、筋掘りトレンチ1か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：トレンチ1で地表下30cmにおいて、15世紀の暗渠状遺構を検出した。

調査後の処置：協議後、発掘調査を行う。
（内田遺跡第9次調査）



第87図　トレンチ掘削状況



第88図　トレンチ平面・断面図

2009－30　蛍池西遺跡

調査日：平成21年（2009年）8月6日

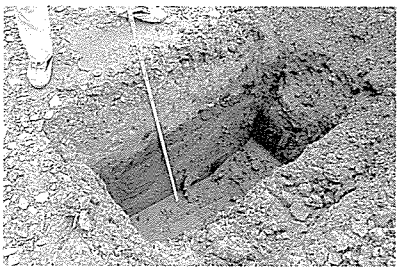
調査場所：豊中市蛍池西町1丁目43-7,8

調査対象面積：51.75㎡

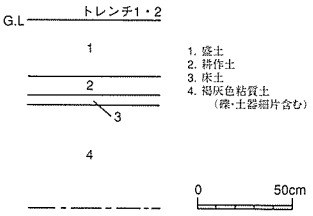
調査の方法：重機によりトレンチ2か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：掘削深度（地表下100㎝）内において、遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第89図　トレンチ掘削状況



第90図　トレンチ断面図

2009－31　新免遺跡

調査日：平成21年（2009年）8月6日

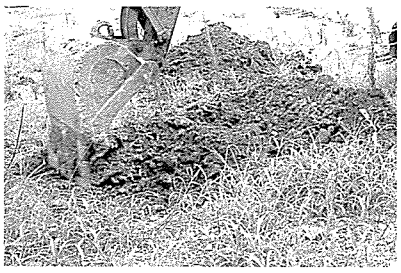
調査場所：豊中市玉井町2丁目213-1

調査対象面積：59.85㎡

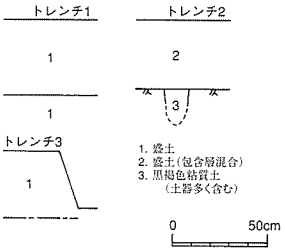
調査の方法：重機によりトレンチ3か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：トレンチ2で地表下37㎝において基盤層を、その上面で遺構を検出した。

調査後の処置：再立会後、慎重工事を指示。



第91図　トレンチ掘削状況



第92図　トレンチ断面図

2009－32　本町遺跡

調査日：平成21年（2009年）8月20日

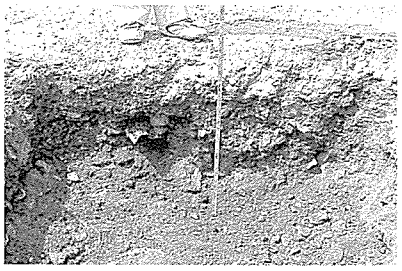
調査場所：豊中市本町4丁目184-1

調査対象面積：56.30㎡

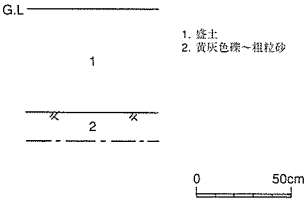
調査の方法：重機によりトレンチ1か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：地表下55～60㎝において基盤層を検出したが、遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第93図　トレンチ掘削状況



第94図　トレンチ断面図

2009－33　庄内遺跡

調査日：平成21年（2009年）8月21日

調査場所：豊中市庄内西町4丁目38-8

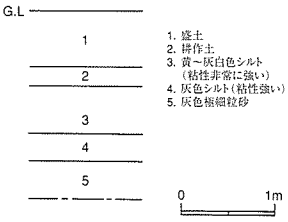
調査対象面積：66.24㎡

調査の方法：重機によりトレンチ1か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：掘削深度（地表下200㎝）内において、遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。

第95図　トレンチ掘削状況



第96図　トレンチ断面図

2009－34　本町遺跡

調査日：平成21年（2009年）8月27日

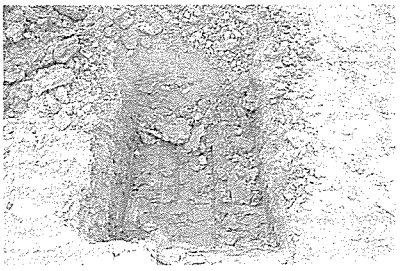
調査場所：豊中市本町4丁目71-5,6

調査対象面積：80.00㎡

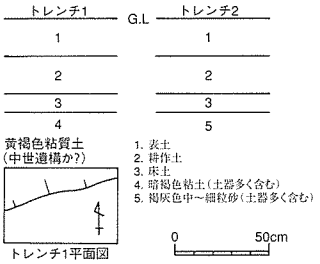
調査の方法：重機によりトレンチ2か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：地表下50cmで遺物を非常に多く含む包含層（遺構埋土）を検出した。

調査後の処置：建物基礎は遺物包含層より浅いため、確認調査後、慎重工事を指示。



第97図　トレンチ掘削状況



第98図　トレンチ平面・断面図

2009－35　桜塚古墳群

調査日：平成21年（2009年）9月3日

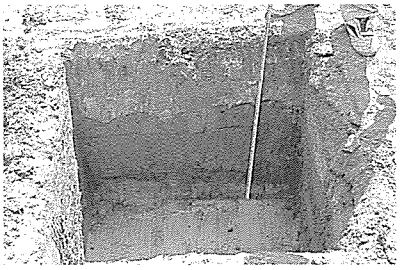
調査場所：豊中市南桜塚1丁目9-2

調査対象面積：45.02㎡

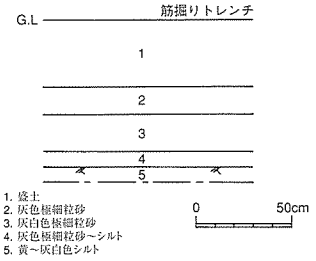
調査の方法：重機により筋掘りトレンチ1か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：地表下78cmにおいて基盤層を検出したが、遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第99図　トレンチ掘削状況



第100図　トレンチ断面図

2009－36　利倉遺跡

調査日：平成21年（2009年）9月10日

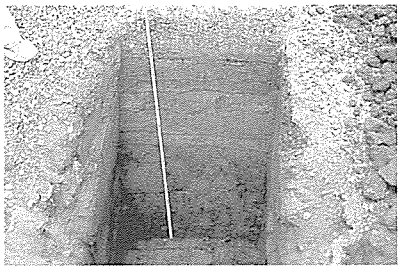
調査場所：豊中市利倉2丁目903-10

調査対象面積：37.30㎡

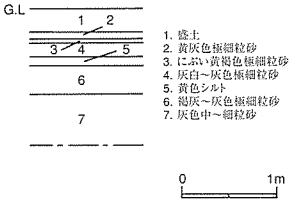
調査の方法：重機によりトレンチ1か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：掘削深度（地表下145cm）内において、遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第101図　トレンチ掘削状況



第102図　トレンチ断面図

2009－37　新免遺跡

調査日：平成21年（2009年）9月17日

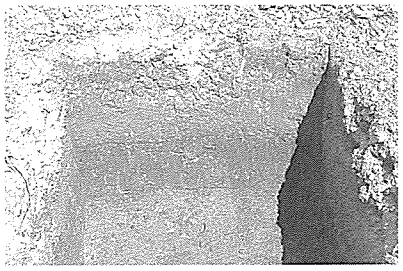
調査場所：豊中市立花町1丁目150-5

調査対象面積：50.94㎡

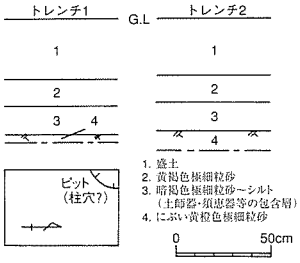
調査の方法：重機によりトレンチ2か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：地表下45～46cmにおいて遺物包含層を検出し、トレンチ1では地表下61cmで基盤層とその上面で遺構を確認した。

調査後の処置：再立会後、慎重工事を指示。



第103図　トレンチ掘削状況



第104図　トレンチ平面・断面図

2009－38　山ノ上遺跡

調査日：平成21年（2009年）9月17日

調査場所：豊中市立花町1丁目59

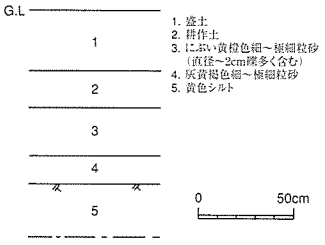
調査対象面積：51.75㎡

調査の方法：重機によりトレンチ1か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：地表下90cmにおいて基盤層を検出したが、遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。

第105図　トレンチ掘削状況



第106図　トレンチ断面図

2009－39　少路遺跡

調査日：平成21年（2009年）9月24日

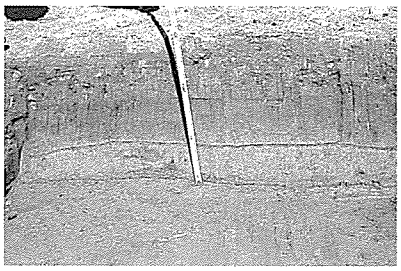
調査場所：豊中市宮山町1丁目16-4,7

調査対象面積：82.69㎡

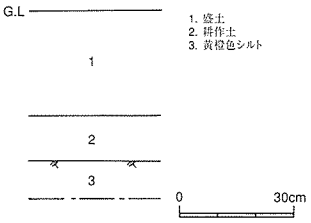
調査の方法：重機によりトレンチ1か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：地表下40cmにおいて基盤層を検出したが、遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第107図　トレンチ掘削状況



第108図　トレンチ断面図

2009－40　蛍池北遺跡

調査日：平成21年（2009年）10月1日

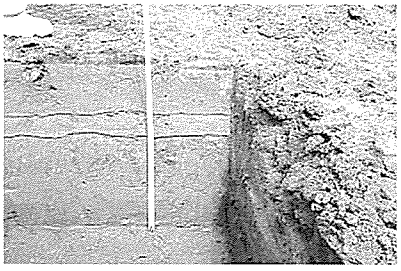
調査場所：豊中市蛍池北町1丁目130-5

調査対象面積：44.71㎡

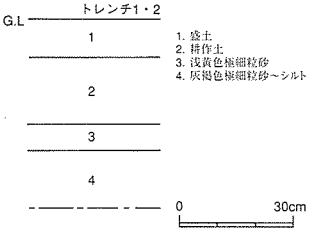
調査の方法：重機によりトレンチ2か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：掘削深度（地表下50cm）内において、遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第109図　トレンチ掘削状況



第110図　トレンチ断面図

2009－41　桜井谷窯跡群

調査日：平成21年（2009年）10月9日

調査場所：豊中市熊野町4丁目50-1の一部

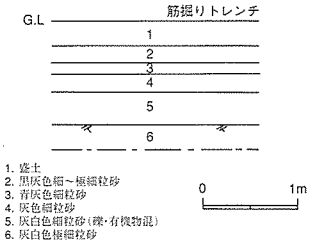
調査対象面積：48.65㎡

調査の方法：重機により筋掘りトレンチ1か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：地表下108cmにおいて基盤層を検出したが、遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。

第111図　トレンチ掘削状況



第112図　トレンチ断面図

2009－42　桜塚古墳群

調査日：平成21年（2009年）10月９日

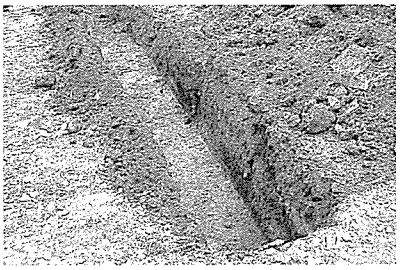
調査場所：豊中市南桜塚１丁目132-2

調査対象面積：62.93㎡

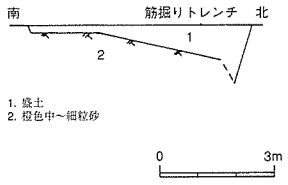
調査の方法：重機により筋掘りトレンチ１か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：地表下20～90cmで基盤層を検出したが、古墳に関連する遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第113図　トレンチ掘削状況



第114図　トレンチ断面図

2009－43　新免遺跡

調査日：平成21年（2009年）10月22日

調査場所：豊中市玉井町２丁目213-3

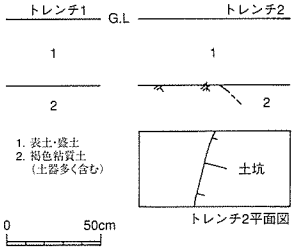
調査対象面積：65.55㎡

調査の方法：重機によりトレンチ２か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：地表下35cmにおいて遺構面及び大型土坑を検出した。

調査後の処置：協議後、発掘調査を行う。（新免遺跡第63次調査）

第115図　トレンチ掘削状況



第116図　トレンチ平面・断面図

2009－44　桜塚古墳群

調査日：平成21年（2009年）10月29日

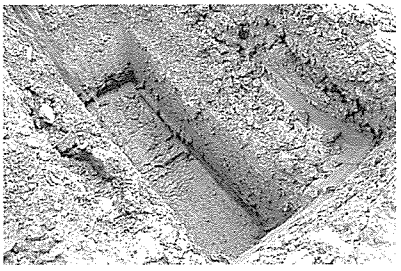
調査場所：豊中市南桜塚１丁目27-5

調査対象面積：67.33㎡

調査の方法：重機によりトレンチ２か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：トレンチ１で地表下90～110cmにおいて遺物包含層に酷似する土層の堆積を確認した。

調査後の処置：建物基礎は盛土内に収まるため、確認調査後、着工を指示。



第117図　トレンチ掘削状況

第118図　トレンチ断面図

2009－45　桜井谷窯跡群

調査日：平成21年（2009年）10月29日

調査場所：豊中市宮山町４丁目15-4

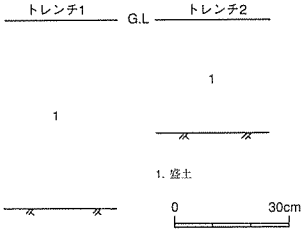
調査対象面積：58.81㎡

調査の方法：重機によりトレンチ２か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：掘削深度（地表下30・50cm）内において、遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。

第119図　トレンチ掘削状況



第120図　トレンチ断面図

2009－46　豊島北遺跡

調査日：平成21年（2009年）10月29日

調査場所：豊中市曽根南町１丁目750-5の一部

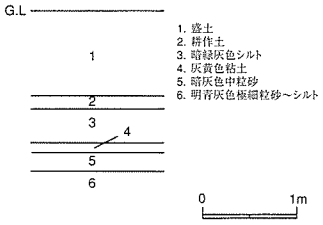
調査対象面積：41.28㎡

調査の方法：重機によりトレンチ１か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：掘削深度（地表下170㎝）内において、遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。

第121図　トレンチ掘削状況



第122図　トレンチ断面図

2009－47　島田遺跡

調査日：平成21年（2009年）11月５日

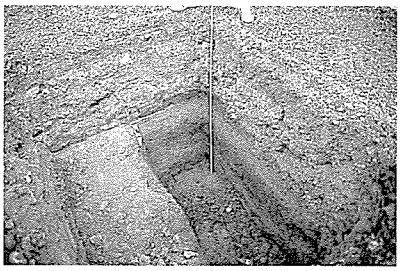
調査場所：豊中市庄内栄町３丁目18-1

調査対象面積：37.26㎡

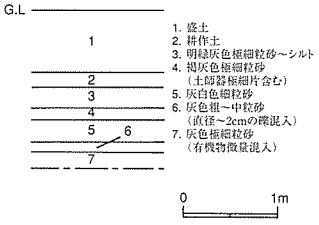
調査の方法：重機によりトレンチ１か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：地表下105～118㎝において土師器破片を含む遺物包含層を検出したが、遺構は確認されなかった。

調査後の処置：再立会後、慎重工事を指示。



第123図　トレンチ掘削状況



第124図　トレンチ断面図

2009－48　桜井谷窯跡群

調査日：平成21年（2009年）11月12日

調査場所：豊中市東豊中町３丁目49-2

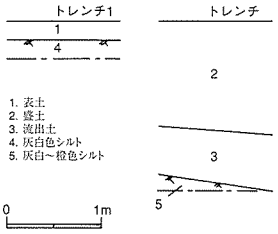
調査対象面積：263.71㎡

調査の方法：重機により坪掘りトレンチ１か所、筋掘りトレンチ１か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：各トレンチで基盤層を検出したが、遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。

第125図　トレンチ掘削状況



第126図　トレンチ断面図

2009－49　庄内遺跡

調査日：平成21年（2009年）11月12日

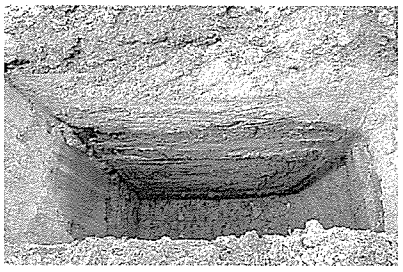
調査場所：豊中市庄内栄町４丁目83-4

調査対象面積：81.51㎡

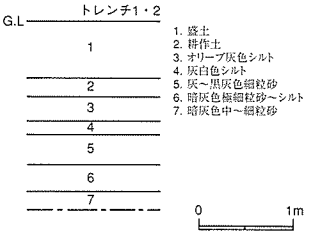
調査の方法：重機によりトレンチ２か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：掘削深度（地表下200㎝）内において、遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第127図　トレンチ掘削状況



第128図　トレンチ断面図

2009－50　少路遺跡

調査日：平成21年（2009年）11月12日

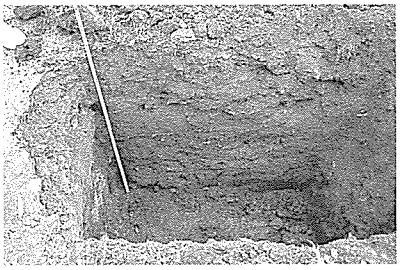
調査場所：豊中市春日町１丁目64

調査対象面積：76.23㎡

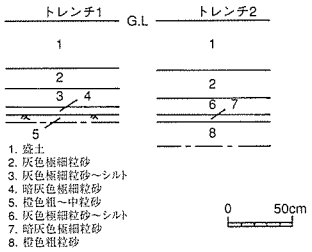
調査の方法：重機によりトレンチ２か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：地表下75～80cmで基盤層を検出したが、遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第129図　トレンチ掘削状況



第130図　トレンチ断面図

2009－51　穂積遺跡

調査日：平成21年（2009年）12月３日

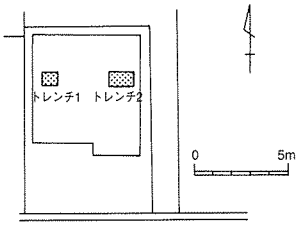
調査場所：豊中市服部豊町１丁目204-18

調査対象面積：70.38㎡

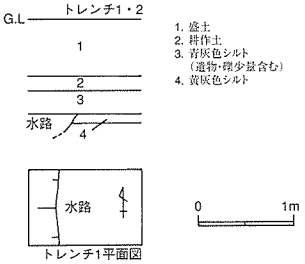
調査の方法：重機によりトレンチ２か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：トレンチ１で地表下100cmにおいて水路を検出した。

調査後の処置：検出した遺構は集落関連の遺構でないことから、確認調査後、着工を指示。



第131図　トレンチ配置図



第132図　トレンチ平面・断面図

2009―21　麻田藩陣屋跡

調査場所：豊中市蛍池中町３丁目32-2
調査目的：保育所新築工事
調査期間：平成21年（2009年）６月２日
　　～平成21年（2009年）６月30日
調査面積：81㎡（※総調査面積は88㎡）

時　　代：古墳後期～奈良、中世、近世、近代
調査後の処置：着工時の再立会後、工事の続行を指示。
備　　考：１区は確認調査、２区は事業主負担による本発掘調査（麻田藩陣屋跡第13次調査）。

調査の経緯：平成21年２月５～６日に事業主負担による確認調査を実施し、地表下60㎝で整地層・溝状遺構を、同90㎝で基盤層とその上面で遺構を確認した。申請建物の基礎深度は、一部で整地層ならびに遺構面を破壊することが判明したため、協議の結果、調査地が麻田藩主邸内という重要性を鑑み、遺構等の内容把握のため改めて確認調査を実施することになった。調査では２か所のトレンチを設定し、確認調査は１区、事業主負担部分（エレベーターピット部分）は２区として実施した。

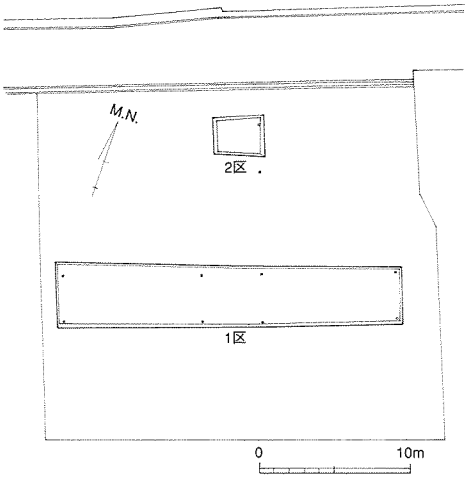
調査の概要：調査区では古墳時代後期～奈良時代、中世、近世～近代の少なくとも３つの遺構面が残存することが判明した。

第１面（古墳時代後期～奈良時代）　重複する蛍池遺跡関連の遺構・遺物であり、２区を中心に土坑、柱穴など集落関連遺構ならびに遺物包含層を検出した。

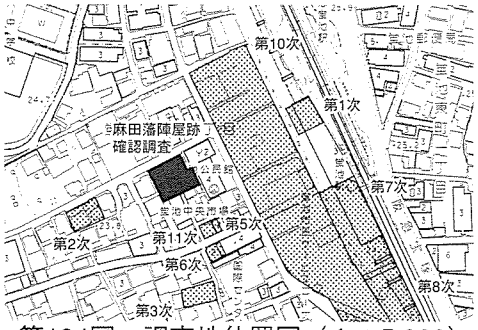
第２面（中世）　土坑、溝状遺構、ピットを検出した。このうち土坑１を除く遺構は、埋土中からは土師器小皿・瓦器椀などの砕片が出土しており、時期的には中世前期とみられる。一方、土坑１は平面が隅丸方形を呈し、基底面付近から獣骨片とともに完形の白磁椀が出土している。白磁椀の特徴から土坑１は中世後期（16世紀代）に形成されたと考えられる。

中世遺構面の大部分は巨大な落ち込みが占める。この落ち込みは、検出ラインが東西方向にほぼ一直線かつ急斜面を呈しており、撹乱部分での土層観察から少なくとも１m以上の深度を有することは確実である。検出幅は一方の肩が調査区外にあるため不明だが、少なくとも４m以上を有する。落ち込みは基盤層や遺物包含層などのブロック土を多数含む人為的な埋戻土と考えられ、出土遺物から中世後期以降に埋没したと推定する。

第３面（近世～近代）　調査地は藩主邸の一角に相当するものの、明治六年（1873）段階の陣屋絵図（第136図）による比較検討の結果、１区は藩主邸の建物



第133図　調査範囲図（１：500）



第134図　調査地位置図（１：5,000）

第135図　１区掘削状況（北から）

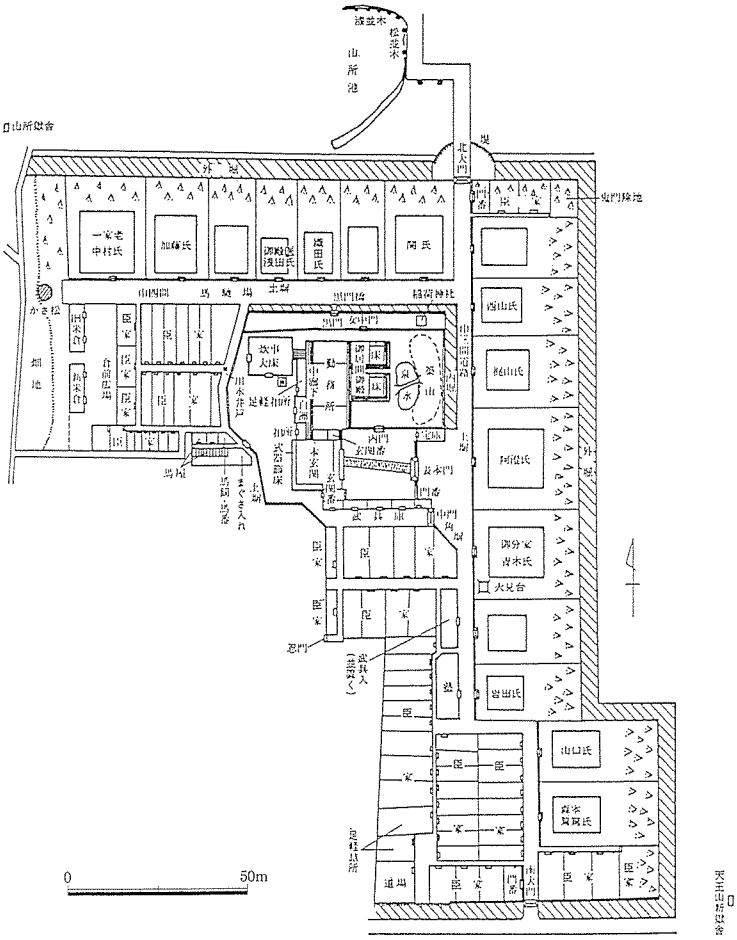
と塀の間に挟まれた空閑地である可能性が高く、調査でも藩主邸関連の遺構は確認されなかった（注１）。

一方、２区（EVピット）で確認された溝状遺構は、幅約３ｍ、深さ約１ｍで東西方向にのびていく。絵図と比較検討の結果、藩主邸を取り囲んだ内堀であることが判明し、絵図の史実性を裏付けることになった。２つの調査区全体を通して、藩主邸関連遺構の残存状況は非常に悪く、その理由として明治４年（1871）の廃藩置県以降、陣屋とともに藩主邸も廃絶の時を迎え、その後耕地化へ至るなかで消滅したためと考えられる。しかしながら、内堀のように一定の深度を有する遺構だけは破壊を免れたようである。

ま　と　め：麻田藩主邸関連遺構の検出に主眼を置いた今回の確認確査では、藩主邸内堀を確認することができた。藩主邸関連の遺構を明確に確認できたのは今回が初の事例であり、藩主邸の範囲を決定する上でも貴重な成果であった。また１区の調査位置は、絵図と比較検討の結果、藩主邸の屋敷と塀に挟まれた空閑地であることが判明し、調査においても藩主邸関連の遺構は検出されなかったことから、検討結果の妥当性がうかがえた。藩主邸は廃藩置県後、廃絶を迎え、調査地は耕作地へと土地の利用形態が変わっていくことも併せて判明し、調査地周辺における土地利用形態の変化を読み取っていくうえでも貴重な成果であった。

（注１）比較検討の際は次の文献も参考にした。

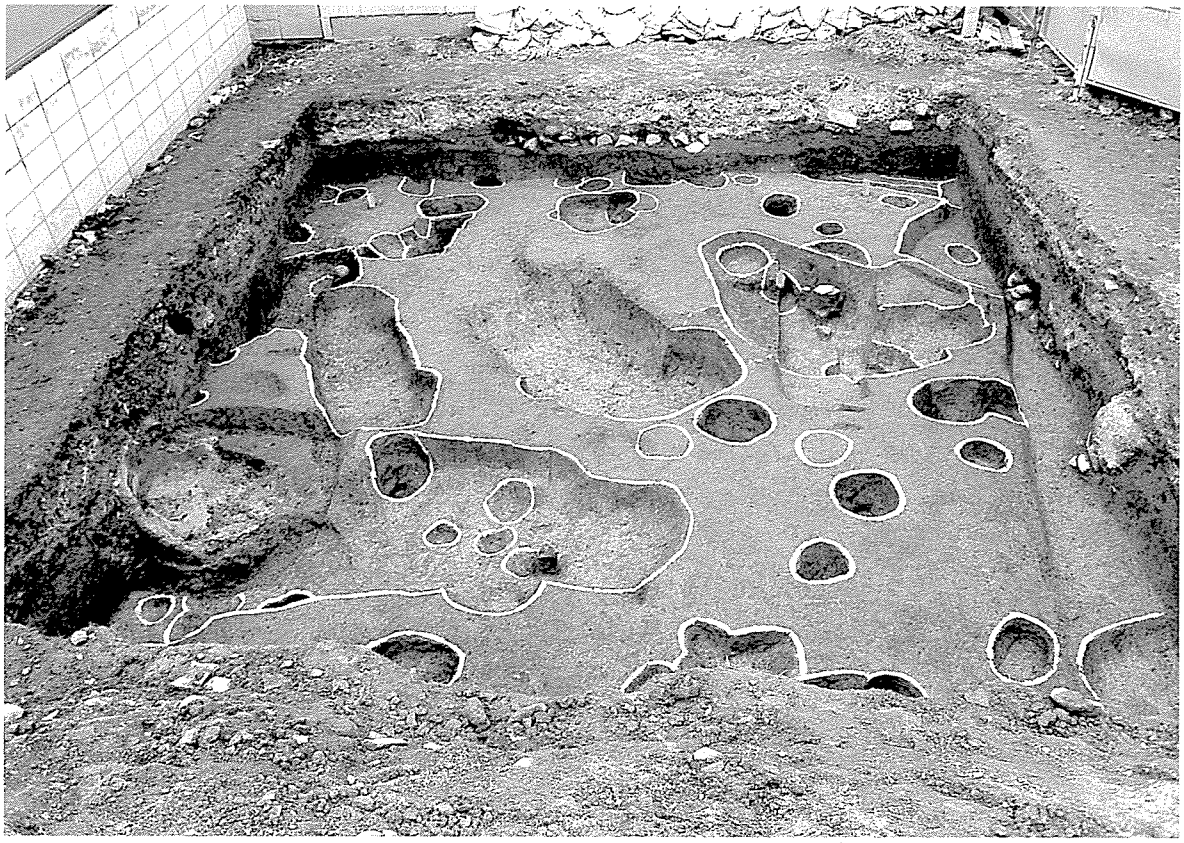
『麻田藩陣屋跡－蛍池駅西地区第１種市街地再開発工事に伴う埋蔵文化財調査報告書－』（財）大阪府文化財センター　2002年



第136図　麻田藩陣屋（小谷英一氏所蔵）（１：2,000）

図　　版

図版1　新免遺跡第62次調査

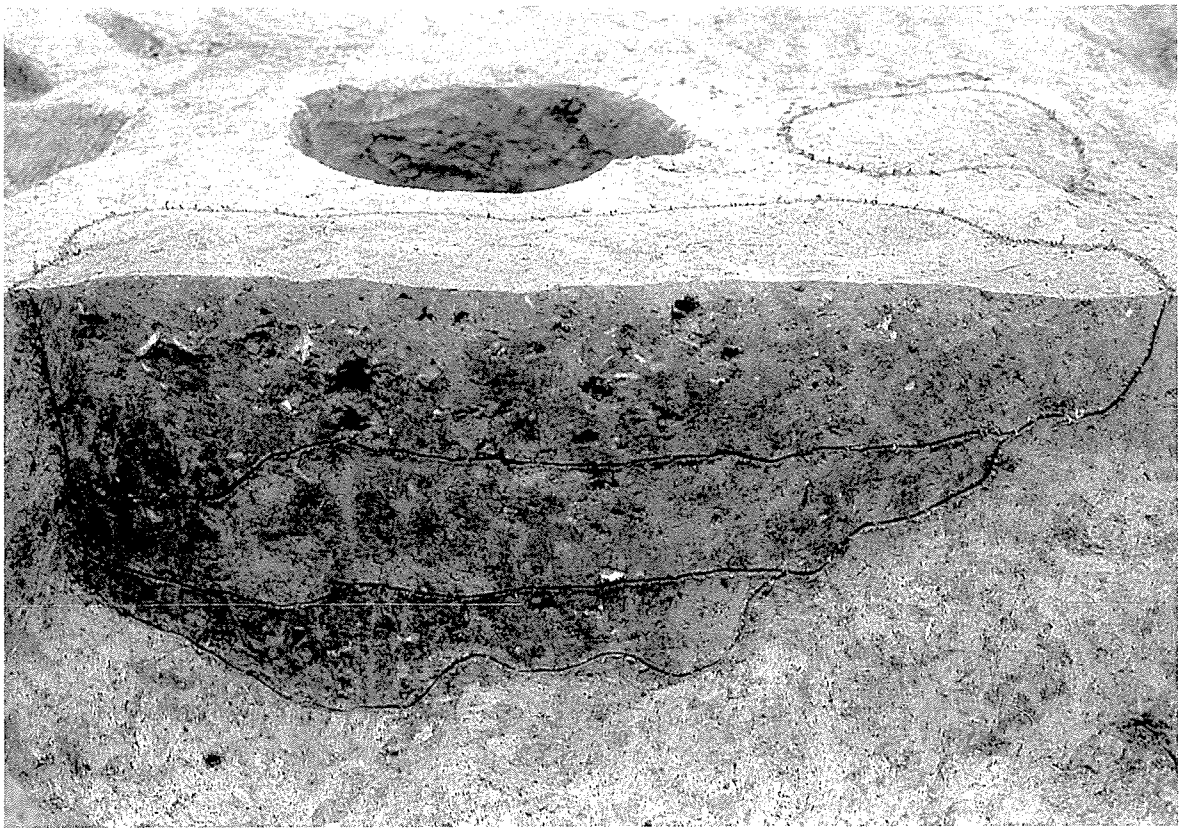


（1）調査区北半部（南から）

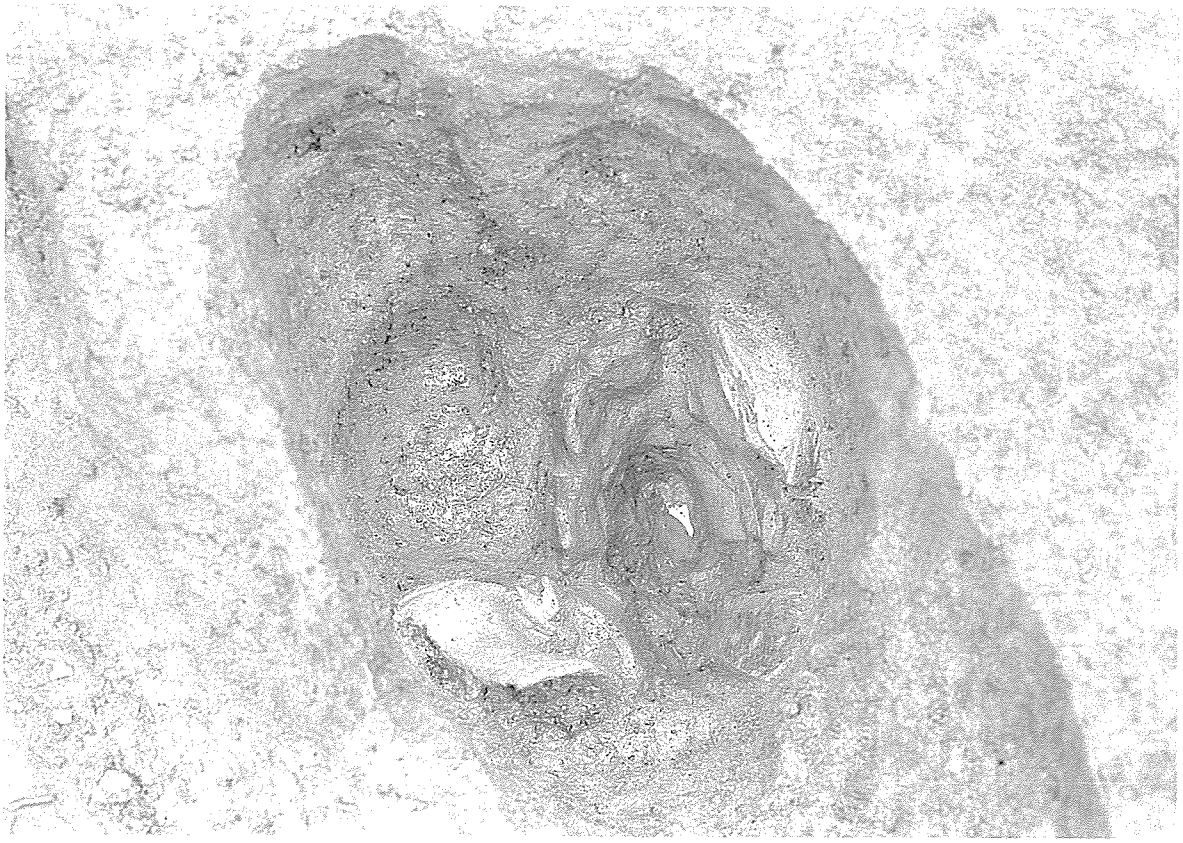
（2）調査区南半部（東から）

図版2　新免遺跡第62次調査

（1）竪穴住居1・2完掘状況（北西から）



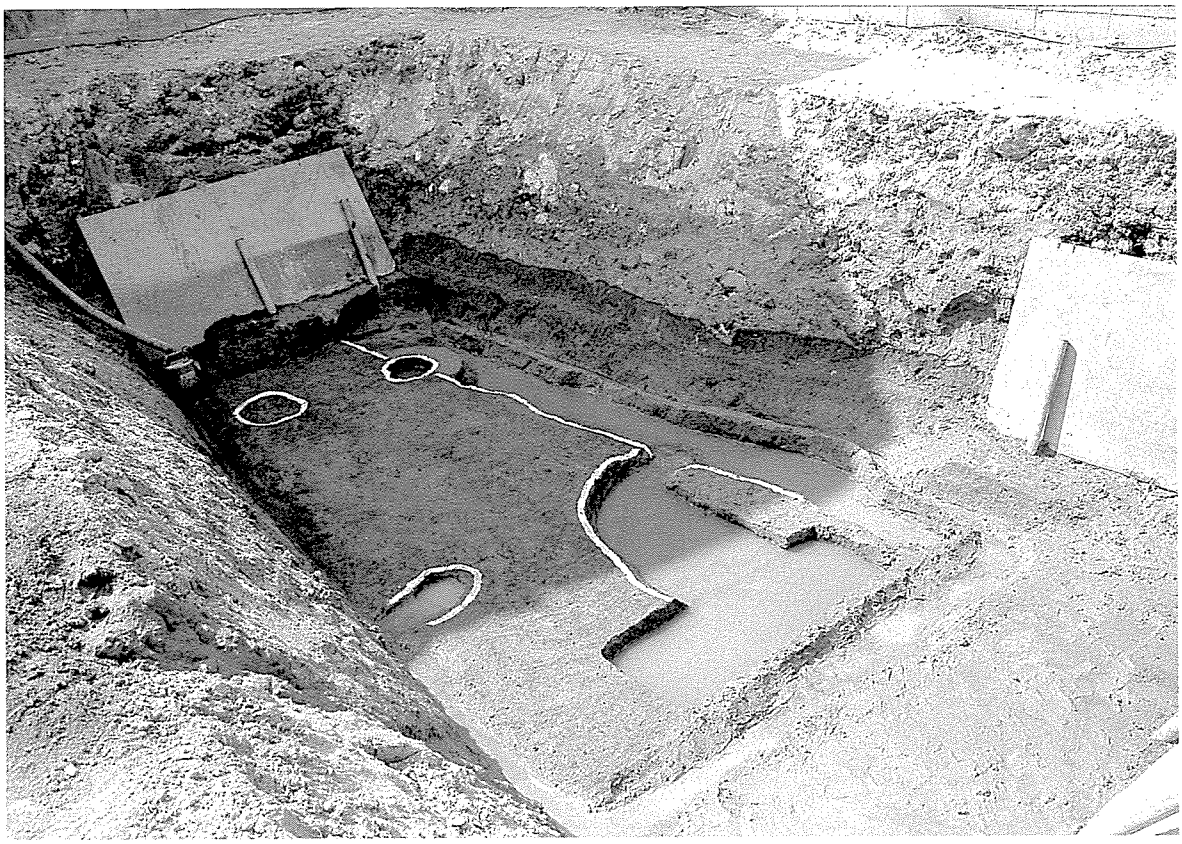
（2）土坑2断面（北から）



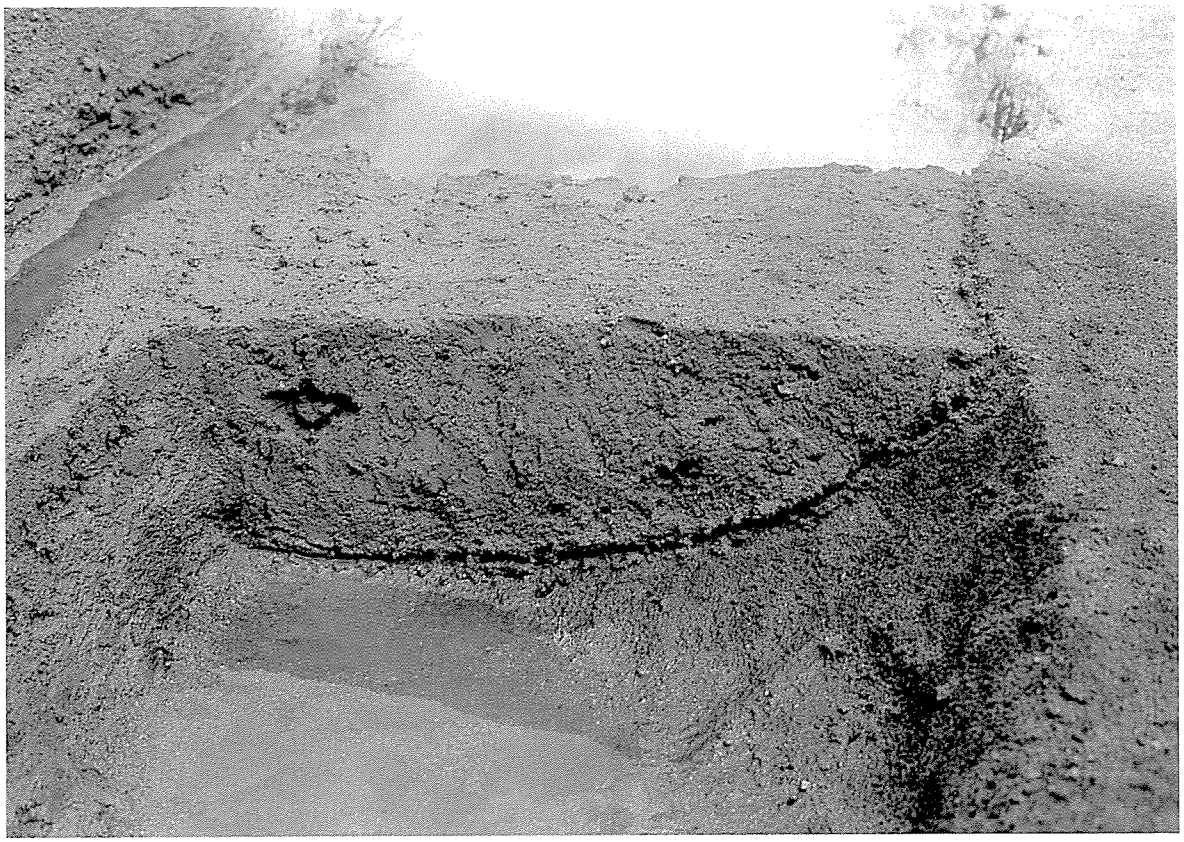
（1）ピット1 土器出土状況（北から）

（2）ピット2 土器出土状況（東から）

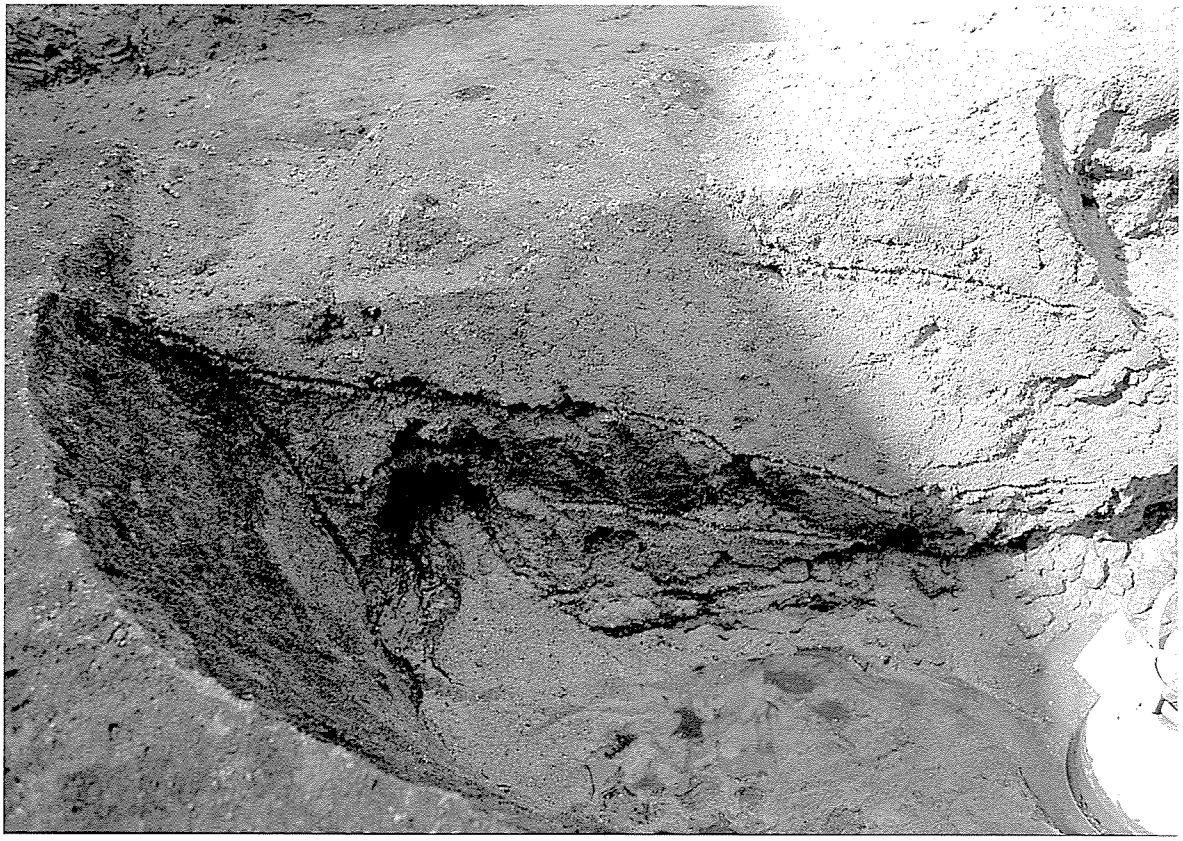
図版4　豊島北遺跡第5次調査



（1）調査区北半部 全景（東から）



（2）溝1断面（西から）



（1）井戸1断面（南から）

（2）包含層遺物出土状況（南から）

図版6　本町遺跡第36次調査

（1）調査区東半部全景（西から）

（2）調査区西半部全景（西から）

図版7　山ノ上遺跡第19次調査

（1）調査区全景（北から）

（2）ＳＰ０２断面

図版8　蛍池西遺跡第17次調査

（1）調査区全景（北から）

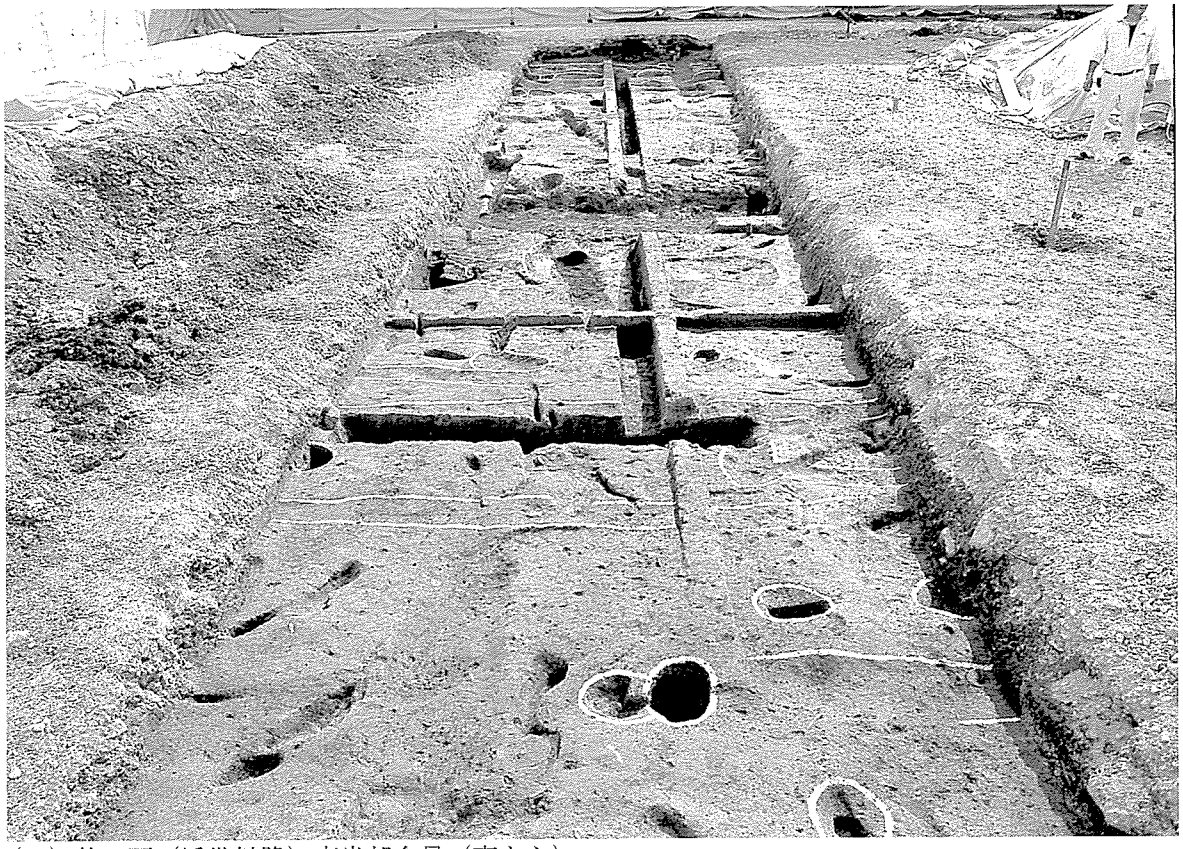
（2）溝1（断面1）

図版9　内田遺跡第9次調査

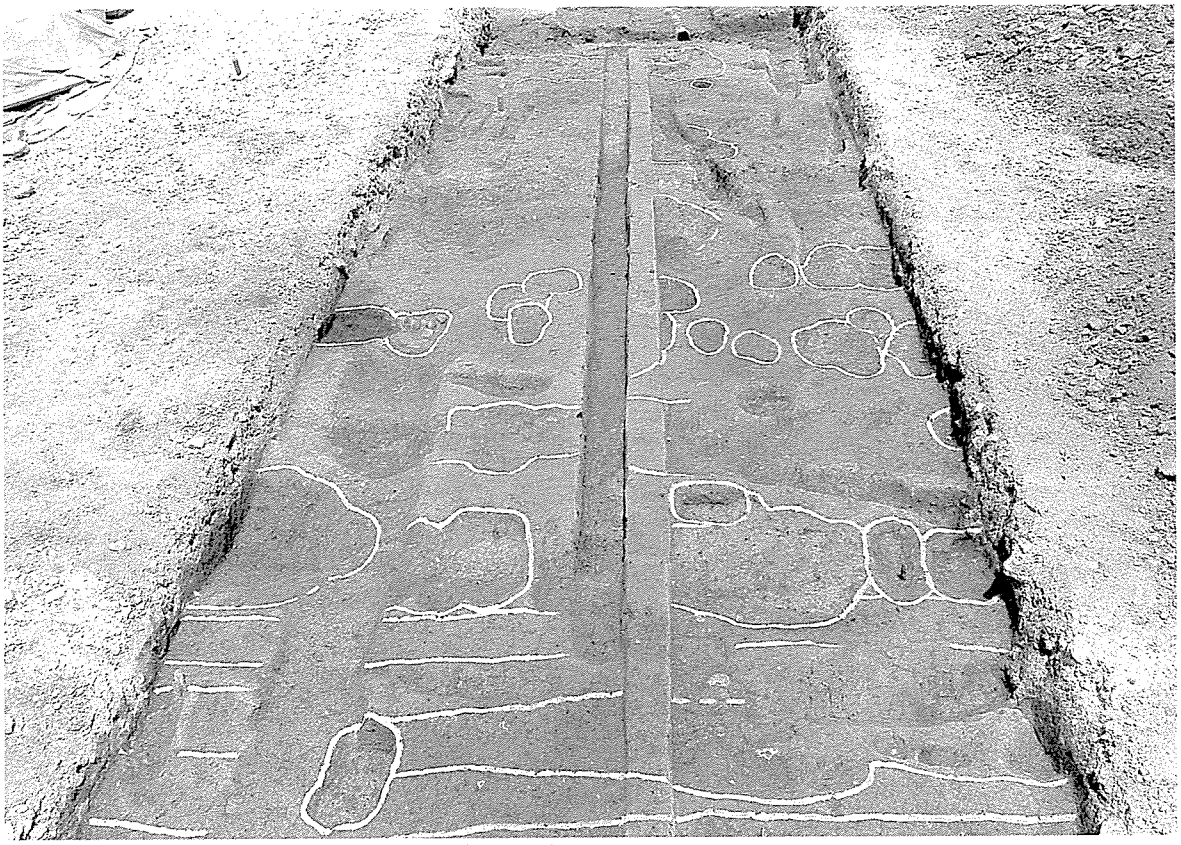
（1）調査区全景（南から）

（2）溝1 礫出土状況（北から）

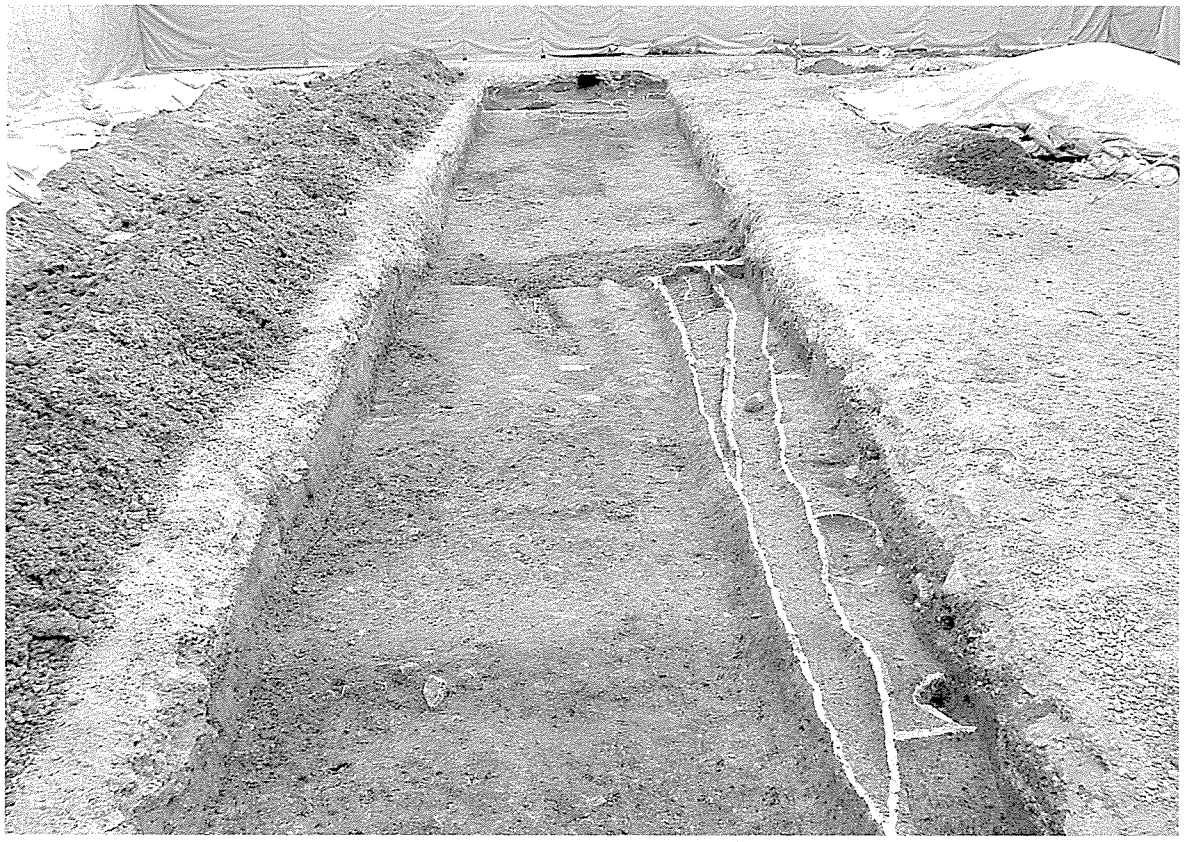
図版10　麻田藩陣屋跡確認調査



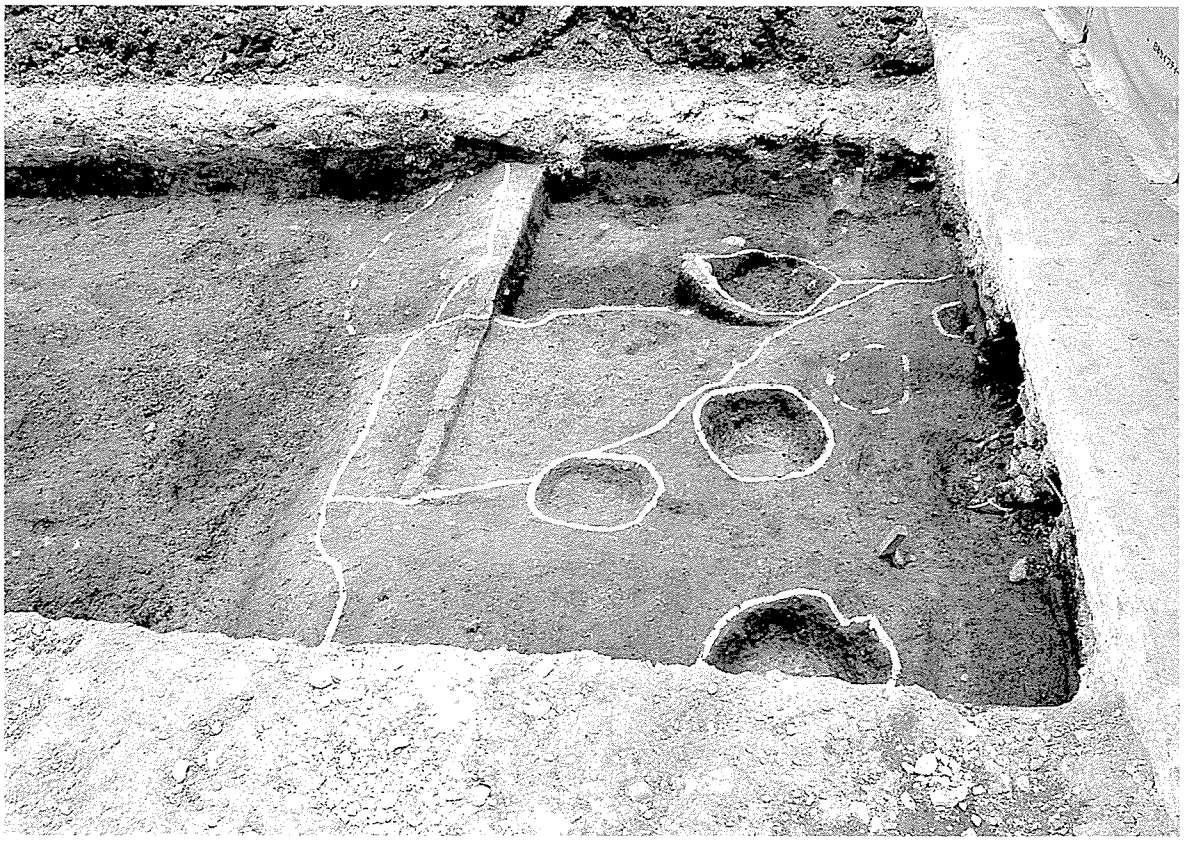
（1）第1面（近世以降）東半部全景（東から）



（2）第1面（近世以降）西半部全景（西から）



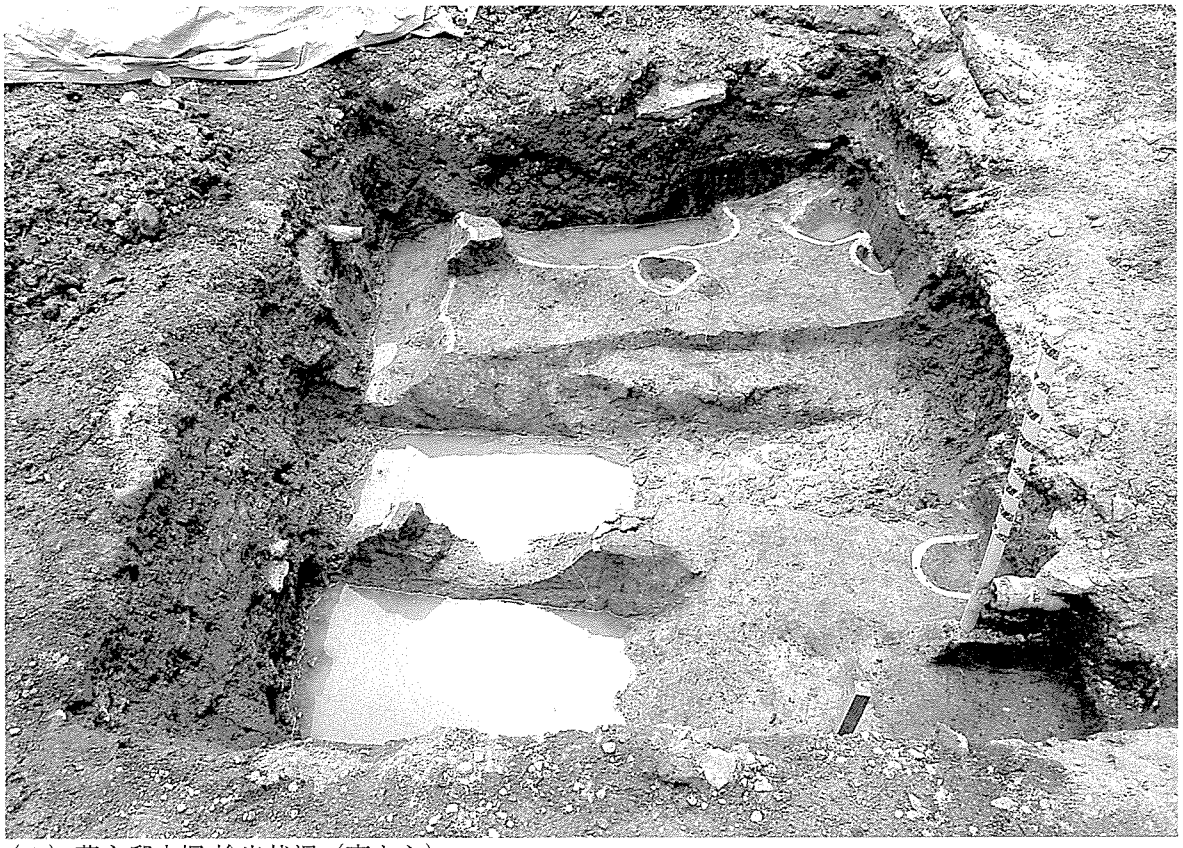
（1）第２・３面東半部全景（東から）



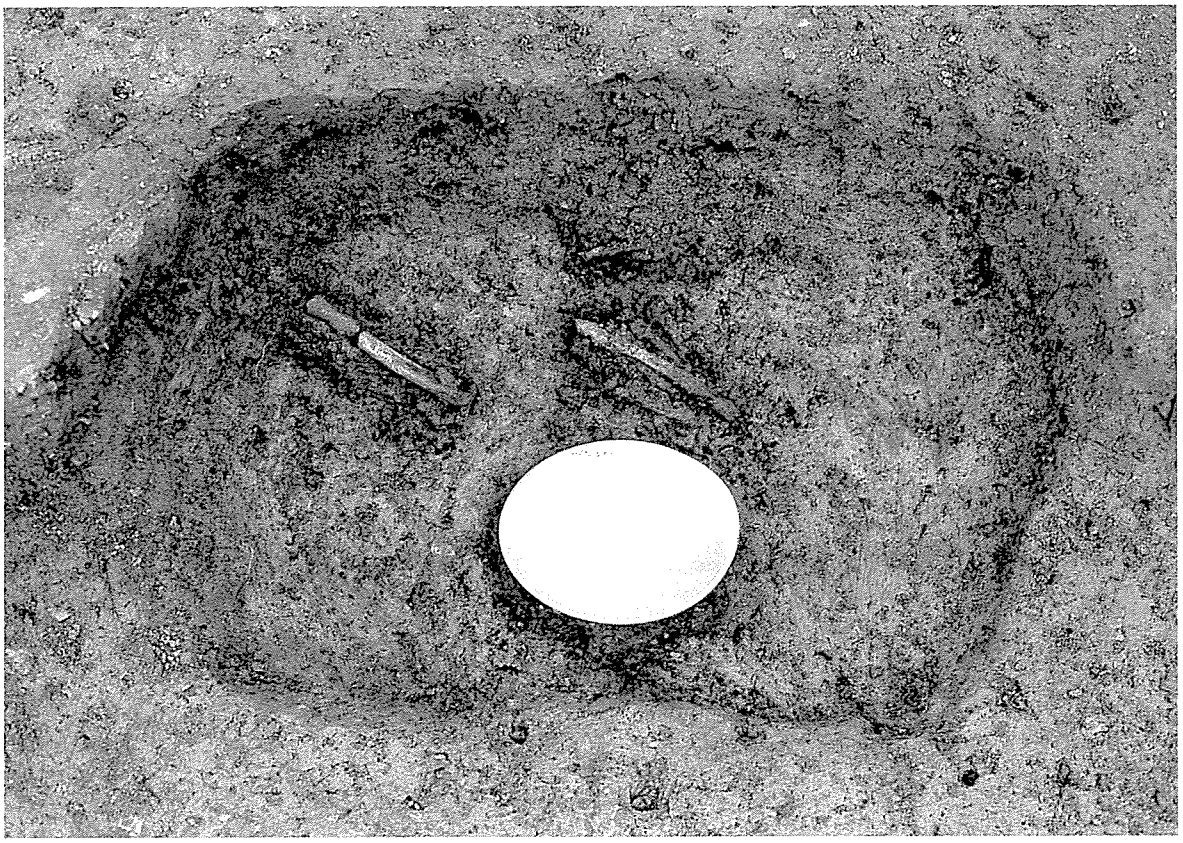
（2）第２・３面西端部全景（西から）

図版12

麻田藩陣屋跡確認調査



（1）藩主邸内堀 検出状況（東から）



（2）土坑1遺物出土状況（第2面　北から）

報告書抄録

ふりがな	とよなかし まいぞうぶんかざい はっくつちょうさ がいよう
書名	豊中市埋蔵文化財発掘調査概要　平成21年度（2009年度）
シリーズ名	豊中市文化財調査報告
シリーズ番号	第62集
編著者名	陣内高志・服部聡志・清水篤・橘田正徳・浅田尚子
編集機関	豊中市教育委員会（市町村コード：27208）
所在地	〒561－8501　大阪府豊中市中桜塚３丁目１－１ TEL06－6858－2581（地域教育振興課）
発行年月日	西暦 2010年 3月31日

所収遺跡	所在地	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
新免遺跡 第62次	玉井町３丁目 35－１	34°46’59”	135°27’28”	20081216～ 20090131	55.74㎡	個人住宅建築
豊島北遺跡 第５次	曽根南町１丁目 156－9他１筆	34°45’48”	135°28’14”	20090402～ 20090427	66㎡	個人住宅建築
本町遺跡 第36次	本町４丁目 166－４	34°47’20”	135°27’56”	20090413～ 20090428	39㎡	個人住宅建築
山ノ上遺跡 第19次	宝山町42－１ の一部	34°46’29”	135°27’40”	20090518～ 20090529	40㎡	個人住宅建築
螢池西遺跡 第17次	螢池西町1丁目 269	34°47’26”	135°28’01”	20090706～ 20090724	220㎡	共同住宅建築
内田遺跡 第９次	桜の町３丁目 26－１	34°47’56”	135°28’01”	20090901～ 20090910	28㎡	個人住宅建築

所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
新免遺跡 第62次	集落跡・古墳	弥生・古墳	竪穴住居 土坑・柱穴	弥生土器 土師器・須恵器	弥生中期、古墳後期の 集落関連遺構を検出
豊島北遺跡 第５次	集落跡	平安・中世	井戸・溝	土師器 須恵器・陶磁器	古代末の耕作関連遺構、 井戸等を検出
本町遺跡 第36次	集落跡	古墳・中世	柱穴	土師器 須恵器・陶磁器	古墳時代～中世の 集落関連遺構を検出
山ノ上遺跡 第19次	集落跡	弥生～古代	柱穴	土師器 須恵器	古代の集落関連遺構を検出
螢池西遺跡 第17次	集落跡	古墳・古代	柱穴・溝	土師器 須恵器	奈良時代～平安時代の 集落関連遺構を検出
内田遺跡 第９次	集落跡	古墳・中世	溝	土師器 須恵器	中世の集落関連遺構を検出

豊中市文化財調査報告書第62集

豊中市埋蔵文化財発掘調査概要

平成21年度（2009年度）

発行　豊中市教育委員会
豊中市中桜塚3丁目1－1
平成22年（2010年）3月31日
印刷　株式会社きたがわぷりんと